取扱説明書

ホームプロジェクター

EH-TW530

マニュアル中の表示の意味

- **安全に関する表示**

取扱説明書および製品には、製品を安全にお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、絵表示が使われています。
その表示と意味は次のとおりです。 内容をよくご理解いただいた上で本文をお読みください。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

- **一般情報に関する表示**

注意	本機の故障や損傷の原因になるおそれがある内容を記載しています。
	関連する情報や知っておくと便利な情報を記載しています。
☛	関連事項や、より詳しい説明を記載しているページを示しています。
▸▸	マークの前のアンダーラインの引かれた用語は、用語解説で説明しています。「付録 用語解説」をご覧ください。 ☛「用語解説」p.144
【表記名】	リモコンまたは操作パネルのボタン名称を示しています。 例：【戻る】ボタン
[メニュー名]	環境設定メニューの項目を示しています。 例： [画質調整]から[明るさ]を選びます。 [画質調整] -[明るさ]

目次

便利な機能

環境設定メニュー

困ったときに

メンテナンス

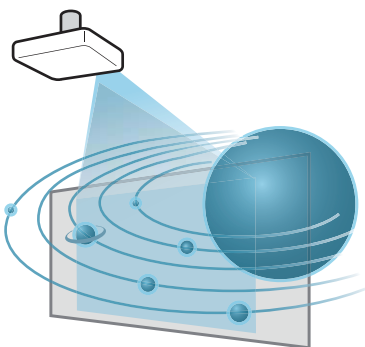
付録

はじめに

ここでは、本機の特長と各部の名称について説明しています。

臨場感あふれる3D映像を投写

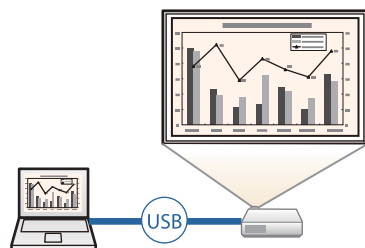
3Dブルーレイディスクや3Dテレビゲームなどの3Dコンテンツを、迫力ある映像で投写します。3D映像を視聴するには、オプションのアクティブ3Dメガネ(ELPGS03)が必要です。

☛「3D映像を投写する」p.53

かんたん、楽に設置・投写・片付け

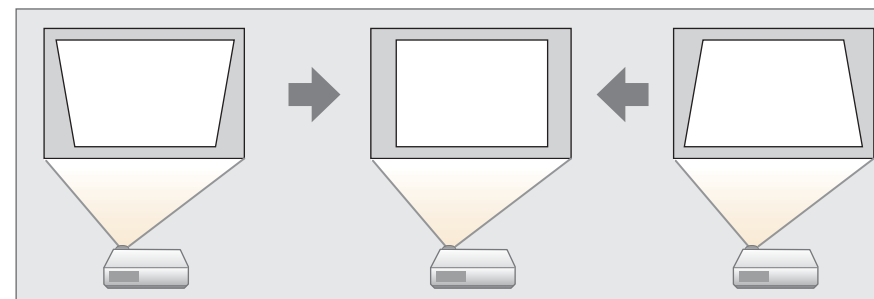
- コンセントの抜き差しで本機の電源をオン/オフ
- 大きなスクリーンにも短距離で投写可能
- レバー1つで簡単に高さを調整
- クールダウン不要ですばやく片付け
- 映像信号を受信して本機の電源をオン

USBケーブルを接続して投写(USBディスプレイ)

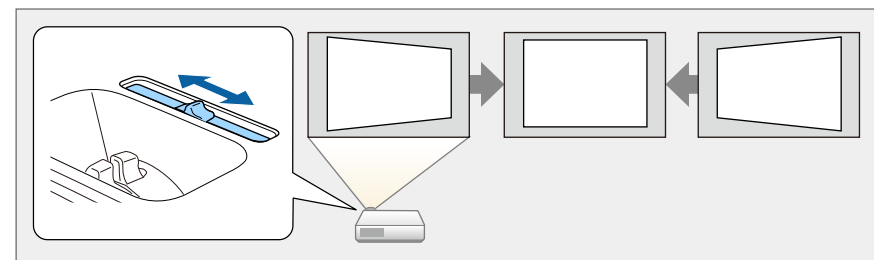
コンピューターケーブルがなくても、USBケーブルを接続してコンピューターの画面を投写できます。

☛「USBディスプレイで投写する」p.35

本体の動きを検知して自動的にゆがみを補正

プロジェクターを移動・設置したときに生じる投写映像のタテ方向の台形ゆがみを、自動的に補正して投写します。

☛「自動で補正する」p.40

スライド式ヨコ補正

投写映像のヨコ方向の台形ゆがみをすばやく補正できます。本機をスクリーンに対して平行に設置できないときに便利です。

☛「手動で補正する」p.41

投写のための便利な機能

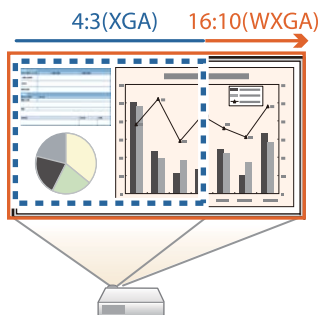
2種類の映像を同時に投写(2画面)

投写画面を2つに分割し、2種類の映像を並べて投写します。2つの入力ソースの画像を1つのスクリーンに同時に投写して、テレビ会議やプレゼンテーションの伝達力・提案力を高めます。

☛「2種類の映像を同時に投写する（2画面）」p.50

ワイド(WXGA)スクリーンで投写情報量をアップ

16:10のWXGAワイド液晶ディスプレイを搭載したコンピューター画像をそのままのアスペクトで投写できます。ホワイトボードなどの横長のスクリーンを有効に幅広く使えます。

☛「投写映像のアスペクト比を切り替える」p.47

USBストレージを接続して動画や画像を投写(PC Free)

USBストレージやデジタルカメラを本機に接続して、保存されているファイルを投写できます。

動画や画像など多彩なファイル形式に対応しています。

☛「コンピューターを使わずに投写する（PC Free）」p.59

上手な節電をサポートする豊富な機能

- 消費電力を抑える機能
  投写画面の明るさを抑えたり、自動電源オフタイマー、待機時の消費電力調整など、消費電力を抑える豊富な機能を搭載しています。
  ☛「節電メニュー」p.101
- 節電状況を投写画面に表示する機能
  環境設定メニューの節電表示を[オン]に設定すると、ランプの明るさが低輝度に変わるときに、節電状況を表す葉っぱのアイコン( )を投写画面の左下に表示します。
  ☛［節電］-［節電表示］p.101

リモコンの便利な機能

投写映像の部分拡大など、リモコンを使って遠隔操作ができます。その他にも、説明箇所を指し示すのに便利なポインターや、コンピューター用のマウスとしてリモコンを利用できます。

☛「説明箇所を指し示す（ポインター）」p.68

☛「映像を部分的に拡大する（Eズーム）」p.68

☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.69

書画カメラで手持ちの資料を拡大投写

オプションの書画カメラを使うと、紙資料や立体物などを投写できます。

コンピューターと接続したり、付属のソフトウェアを使用することで、プロジェクターの活用範囲が広がります。

☛「オプション」p.136

充実したセキュリティー機能

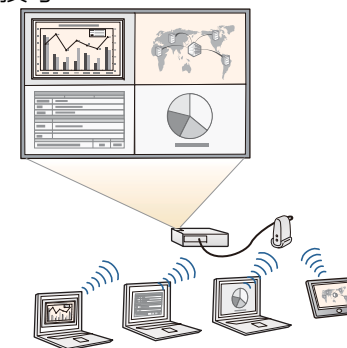
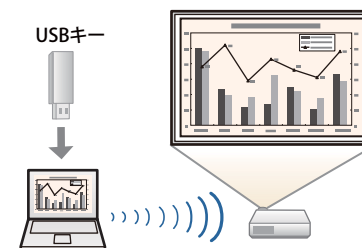
- **利用者を制限・管理するパスワードプロテクト**
  パスワードを設定して、本機を使用する人を制限・管理することができます。
  ☛「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」p.73
- **操作パネルのボタン操作を制限する操作ボタンロック**
  イベントや学校などで使用する際に本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。
  ☛「操作を制限する（操作ボタンロック）」p.75
- **多様な盗難防止の機構を装備**
  本機には機器そのものを持ち出されないように、次の機構が備わっています。
  - セキュリティースロット
  - セキュリティーケーブル取付け部
  ☛「盗難防止用ロック」p.76

無線LANに接続して画面を投写

オプションの無線LANユニットを装着すると、無線LANネットワークに接続して次のことが可能になります。

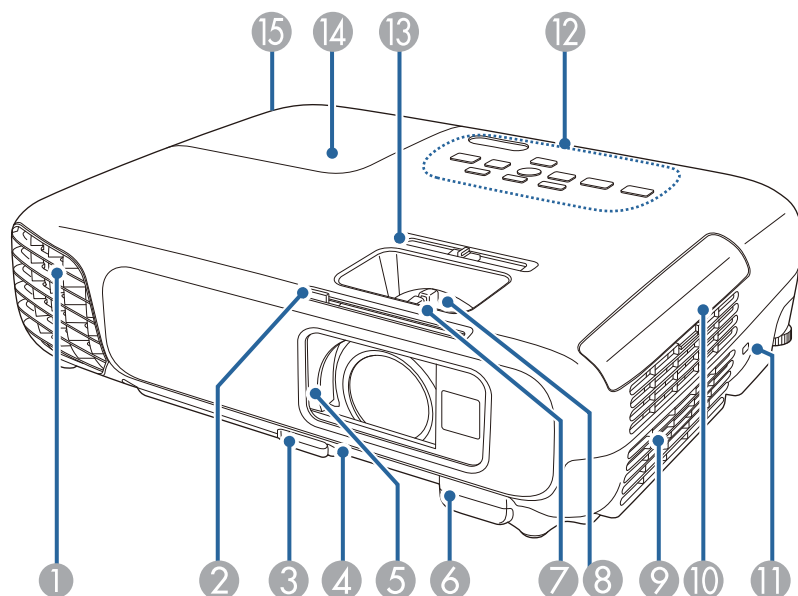
☛「無線LANユニットの取り付け」p.31

- コンピューターの画面をワイヤレスで投写
  EasyMP Network Projectionを使って、ネットワーク経由でコンピューターの画面を投写します。
  EasyMP Network Projectionは以下のWebサイトからダウンロードしてください。
  http://www.epson.jp/download/

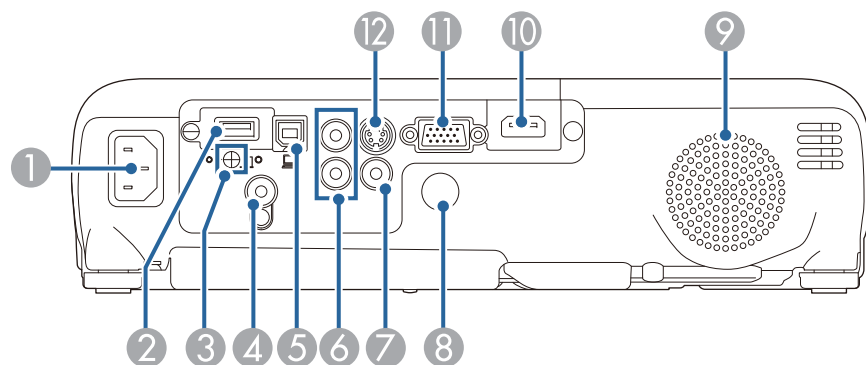
- 複数のコンピューターの画面を同時に投写
  EasyMP Multi PC Projectionを使うと、ネットワークに接続されたコンピューターや、Epson iProjectionがインストールされたスマートフォンやタブレット端末の画面を同時に4台まで投写できます。
  EasyMP Multi PC Projectionは以下のWebサイトからダウンロードしてください。
  http://www.epson.jp/download/

- コンピューターのネットワーク設定を自動化するクイックワイヤレス（Windowsのみ）
  オプションのクイックワイヤレス用USBキーをコンピューターに接続するだけで、プロジェクターをネットワークに接続して投写できます。
  ☛「クイックワイヤレス用USBキーの取り付け」p.31

- 携帯端末の映像をネットワーク経由で投写

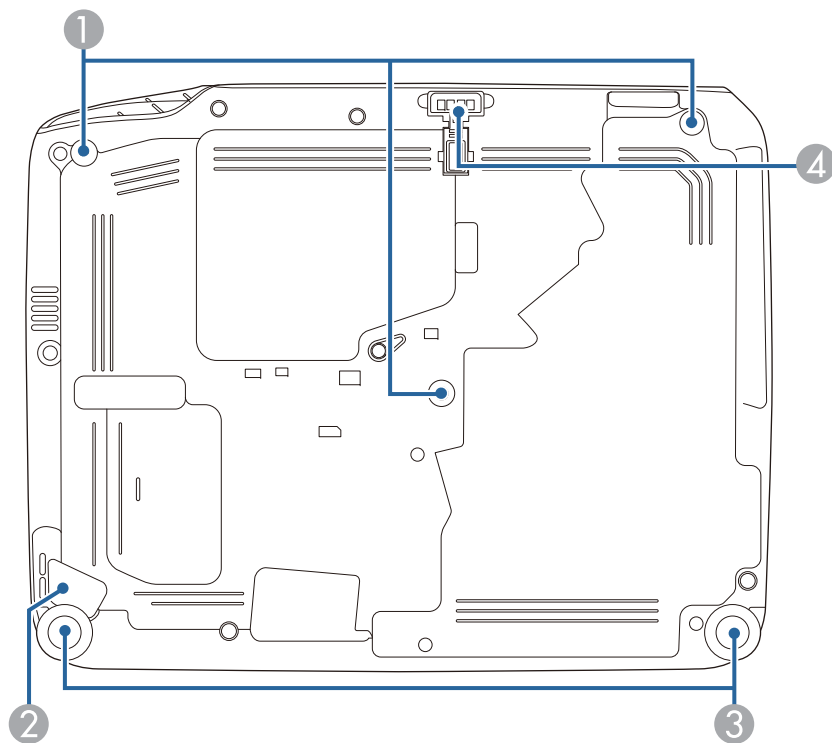
Epson iProjectionをスマートフォンやタブレット型端末にインストールすると、端末内のデータをワイヤレスで投写できます。スマートフォンやタブレット型端末の映像を手軽に楽しめます。

Epson iProjectionは、App StoreまたはGoogle playから無料でダウンロードできます。App Store、Google playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

前面/上面

	名称	働き
❶	**排気口**	本機内部を冷却した空気の吐き出し口です。 **注意** 投写中は手や顔を排気口に近づけたり、変形など、熱による悪影響を受けるものを排気口の近くに置かないでください。排気口から温風が出るため、やけどや変形、事故の原因となります。
❷	**スライド式レンズカバー操作部**	ツマミをスライドさせてレンズカバーの開閉をします。
❸	**フットレバー**	フットレバーを押して、フロントフットを伸縮させます。 ☛「映像の高さを調整する」p.44

	名称	働き
❹	**フロントフット**	机上設置時に、フットを伸ばして映像の高さを調整します。 ☛「映像の高さを調整する」p.44
❺	**スライド式レンズカバー**	本機を使用しないときに閉じて、投写レンズを保護します。投写中に閉めると映像と音声を消すことができます。 ☛「映像と音声を一時的に消す（A/Vミュート）」p.67
❻	**リモコン受光部**	リモコン信号を受信します。
❼	**フォーカスリング**	映像のピントを合わせます。 ☛「ピントのズレを補正する」p.45
❽	**ズームリング**	映像のサイズを調整します。 ☛「映像のサイズを調整する」p.44
❾	**吸気口（エアフィルター）**	本機内部を冷却するための空気を取り込みます。 ☛「エアフィルターの掃除」p.128
❿	**エアフィルターカバー**	エアフィルターカバーの開閉時に操作します。 ☛「エアフィルターの交換」p.133
⓫	**セキュリティースロット**	Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットです。 ☛「盗難防止用ロック」p.76
⓬	**操作パネル**	本機の操作をします。 ☛「操作パネル」p.15
⓭	**ヨコ補正スライダー**	投写映像のヨコ方向の台形ゆがみを補正します。 ☛「手動で補正する」p.41
⓮	**ランプカバー**	ランプ交換時に、このカバーを開けて中のランプを交換します。 ☛「ランプの交換」p.130
⓯	**ランプカバー固定ネジ**	ランプカバーを固定するネジです。

背面

	名称	働き
❶	**電源端子**	電源コードを接続します。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33
❷	**USB-A端子**	• USBメモリーやデジタルカメラを接続し、動画や画像をPC Freeで投写します。 ☛「コンピューターを使わずに投写する（PC Free）」p.59 • オプションの書画カメラを接続します。 • オプションの無線LANユニットを接続します。 ☛「無線LANユニットの取り付け」p.31 • オプションのクイックワイヤレス用USBキーを接続します。 ☛「クイックワイヤレス用USBキーの取り付け」p.31
❸	**無線LANユニット固定ネジ**	無線LANユニットカバーを固定するネジです。
❹	**音声出力(Audio Out)端子**	現在投写している映像の音声を外部スピーカーに出力します。
❺	**USB-B端子**	• USBケーブルでコンピューターと接続して、コンピューターの映像を投写します。 ☛「USBディスプレイで投写する」p.35 • ワイヤレスマウス機能を使うときに、USBケーブルでコンピューターと接続します。 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.69
❻	**音声入力端子**	コンピューター入力端子、S-ビデオ入力端子、ビデオ入力端子に接続した機器の音声を入力します。
❼	**ビデオ入力端子**	ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。
❽	**リモコン受光部**	リモコン信号を受信します。
❾	**スピーカー**	音声を出力します。
❿	**HDMI/MHL入力端子**	• HDMIに対応したビデオ機器やコンピューターの信号を入力します。本機はHDCP▶▶に対応しています。 • MHL▶▶（Mobile High-definition Link）に対応したスマートフォンやタブレット端末の信号を入力します。 ☛「接続する」p.24
⓫	**コンピューター入力端子**	コンピューター映像信号やビデオ機器のコンポーネントビデオ信号を入力します。
⓬	**S-ビデオ入力端子**	ビデオ機器のS-ビデオ信号を入力します。

底面

	名称	働き
❶	**天吊り固定部(3箇所)**	天井から吊り下げて使うときに、オプションの天吊り金具を取り付けます。 ☛「設置する」p.22 ☛「オプション」p.136
❷	**セキュリティーケーブル取付け部**	市販の盗難防止用ワイヤーロックをこの部分に通して施錠します。 ☛「ワイヤーロックの取り付け方」p.76

	名称	働き
❸	**リアフット**	机上設置時に、フットを伸縮させて水平方向の傾きを調整します。 ☛「水平傾斜を調整する」p.44
❹	**フロントフット**	机上設置時に、フットを伸ばして映像の高さを調整します。 ☛「映像の高さを調整する」p.44

操作パネル

	名称	働き
❶	【入力検出】ボタン	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☛「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」p.34
❷	【決定】ボタン 【↵】	• 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 • コンピューター入力端子から入力しているアナログRGB信号を投写中に押すと、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
❸	【⏢】【⏥】ボタン	• 台形補正画面を表示して、タテヨコ方向の台形補正をします。 ☛「手動で補正する」p.41 • 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85 ☛「ヘルプの見方」p.111
❹	【ヘルプ】ボタン	トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。 ☛「ヘルプの見方」p.111

	名称	働き
❺	【戻る】ボタン	• 実行中の機能を終了します。 • 環境設定メニュー表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85
❻	【🔉】【🔊】ボタン	• 音量を調整します。 【🔉】音量を下げます。 【🔊】音量を上げます。 ☛「音量を調整する」p.45 • 台形補正画面の表示中は、ヨコ方向の台形補正をします。 ☛「タテヨコ補正」p.41 • 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値を選択します。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85 ☛「ヘルプの見方」p.111
❼	【メニュー】ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85
❽	【電源】ボタン 【⏻】	電源をオン/オフします。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33
❾	インジケーター	本機の状態を確認します。 ☛「インジケーターの見方」p.112

リモコン

	名称	働き
❶	【電源】ボタン 【⏻】	本機の電源をオン/オフします。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33
❷	【コンピューター】ボタン	コンピューター入力端子からの映像に切り替えます。
❸	【ビデオ】ボタン	押すたびに、S-ビデオ入力端子、ビデオ入力端子、HDMI/MHL入力端子からの映像に切り替えます。
❹	テンキーボタン	パスワードを入力します。 ☛「パスワードプロテクトの設定方法」p.73
❺	【自動調整】ボタン	コンピューター入力端子から入力しているアナログRGB信号を投写中に押すと、トラッキング・同期・表示位置 を最適な状態に自動調整します。
❻	【アスペクト】ボタン	押すたびに、アスペクトモードが切り替わります。 ☛「投写映像のアスペクト比を切り替える」p.47
❼	【Num】ボタン	パスワードや数字を入力するときに、このボタンを押しながらテンキーボタンを押します。 ☛「パスワードプロテクトの設定方法」p.73
❽	【メニュー】ボタン	環境設定メニューを表示/終了します。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85
❾	【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン	• 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、メニュー項目や設定値の選択を行います。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85 • PC Freeで投写しているときは、画像ファイルの送り/戻し、回転などをします。 ☛「PC Freeの操作方法」p.60 • ワイヤレスマウス機能時は、ボタンを押すと、押した方向にマウスポインターが移動します。 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.69

	名称	働き
⑩	【↵】ボタン	• 環境設定メニューやヘルプを表示中に押すと、項目を決定したり、1つ下の階層に進みます。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85 • ワイヤレスマウス機能時は、マウスの左ボタンとして機能します。 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.69
⑪	【ユーザー】ボタン	環境設定メニューの項目のうちよく使われる7項目から任意に項目を選択して、このボタンに割り当てることができます。ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。 ☛「設定メニュー」p.91 初期設定では[明るさ切替]が割り当てられています。
⑫	【ページ】ボタン 【⇧】【⇩】	以下のときに、PowerPointファイルなどのページを送り/戻しします。 • ワイヤレスマウス機能時 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.69 • USBディスプレイ時 ☛「USBディスプレイで投写する」p.35 PC Freeで投写しているときは、画像ファイルを送り/戻しします。
⑬	【Eズーム】ボタン 【⊕】【⊖】	投写サイズを変えずに映像を拡大/縮小します。 ☛「映像を部分的に拡大する（Eズーム）」p.68
⑭	【A/Vミュート】ボタン	• 映像と音声を一時的に遮断/解除します。 ☛「映像と音声を一時的に消す（A/Vミュート）」p.67 • 約5秒間押し続けると、設置モードを次のように切り替えることができます。 [フロント]↔[フロント・天吊り] [リア]↔[リア・天吊り]

	名称	働き
⑮	【2画面】ボタン	2つの入力ソースの映像を、1つのスクリーンの左右に同時に投写するか、通常の1画面の投写にするかを切り替えます。 ☛「2種類の映像を同時に投写する（2画面）」p.50
⑯	【ヘルプ】ボタン	トラブルの対処方法を示すヘルプを表示/終了します。 ☛「ヘルプの見方」p.111
⑰	【静止】ボタン	映像を一時停止/解除します。 ☛「映像を停止させる（静止）」p.67
⑱	【音量】ボタン 【🔈】【🔊】	【🔈】音量を下げます。 【🔊】音量を上げます。 ☛「音量を調整する」p.45
⑲	【ポインター】ボタン	投写中の映像にポインターが表示されます。 ☛「説明箇所を指し示す（ポインター）」p.68
⑳	【戻る】ボタン	• 実行中の機能を終了します。 • 環境設定メニューを表示中に押すと、1つ上の階層に戻ります。 ☛「環境設定メニューの操作」p.85 • ワイヤレスマウス機能時は、マウスの右ボタンとして機能します。 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.69
㉑	【ID】ボタン	本機ではこのボタンの機能はサポートしていません。
㉒	【カラーモード】ボタン	押すたびにカラーモードが切り替わります。 ☛「映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）」p.45
㉓	【MHLメニュー】ボタン	本機のMHL端子と接続している機器の設定メニューを表示します。
㉔	【LAN】ボタン	ネットワーク経由で接続している機器からの映像に切り替えます。

名称		働き
㉕	【USB】ボタン	押すたびに、以下の映像に切り替えます。 • USBディスプレイ • USB-A端子に接続した機器からの映像
㉖	【入力検出】ボタン	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☛「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」p.34
㉗	リモコン発光部	リモコン信号を出力します。

リモコンの電池交換

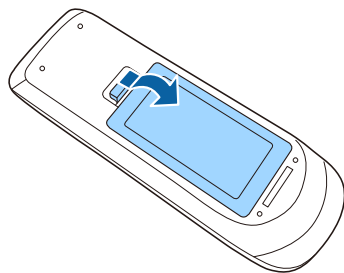
使い続けているうちに、リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなったときは電池の寿命が考えられます。新しい電池と交換してください。交換用の電池は単3形マンガンあるいはアルカリ乾電池2本を用意してください。単3形マンガンあるいはアルカリ乾電池以外の電池は使用しないでください。

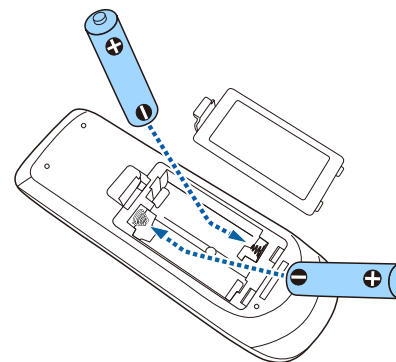
注意

電池を取り扱う前に、以下のマニュアルを必ずお読みください。

☛『安全にお使いいただくために』

1 **電池カバーを外します。**

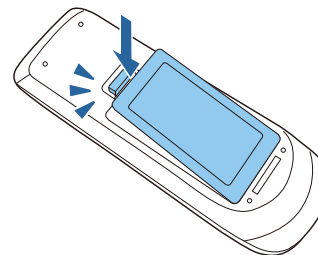
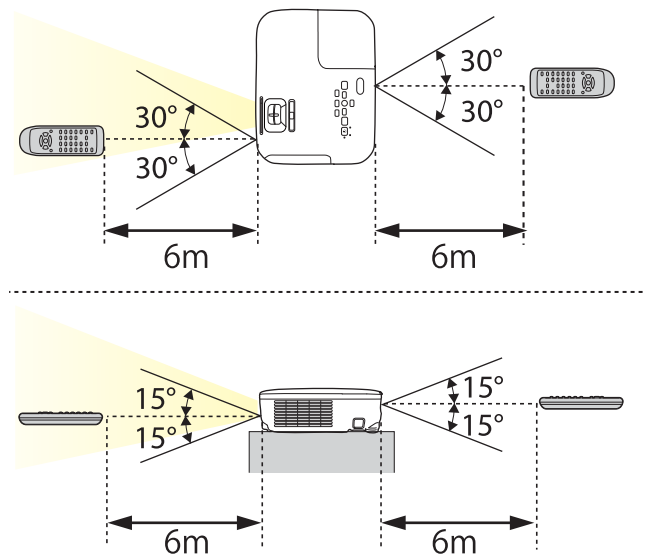
電池カバーのツメを押さえながら、上へ持ち上げます。

2 **新しい電池と交換します。**

電池のマイナス側から、スライドするように入れます。

⚠ 注意

電池ホルダー内の表示を確認し、(+)(–)を正しく入れてください。

電池の使い方を誤ると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・製品腐食の原因となることがあります。

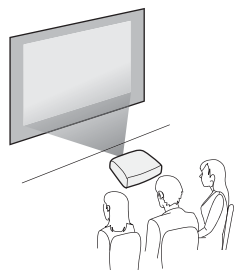
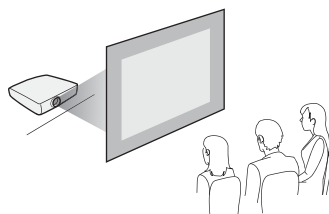
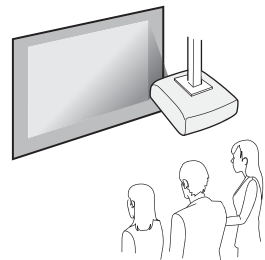
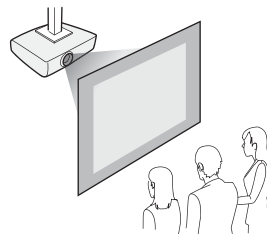
3 **電池カバーを取り付けます。**

カチッと音がするまでカバーを押し込みます。

リモコンの操作可能範囲

準備

ここでは、本機の設置方法と投写機器の接続方法について説明します。

いろいろな設置方法

本機の投写方法は、次の4種類があります。設置場所の条件に合わせて設置してください。

- 正面から投写する(フロント投写)

- リアスクリーンへ裏側から投写する(リア投写)

- 天吊りして正面から投写する(フロント・天吊り投写)

- 天吊りしてリアスクリーンへ裏側から投写する(リア・天吊り投写)

⚠ 警告

- 天井への取り付け(天吊り設置)工事は、特別な技術が必要となります。正しく工事が行われないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下し事故やけがの原因となります。
  天吊り設置や天吊り金具の調整に際しては、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。吸気口・排気口をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

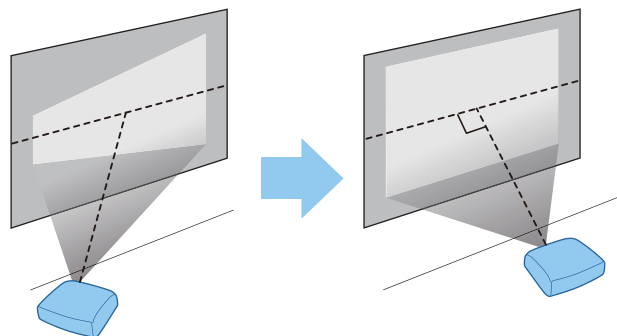
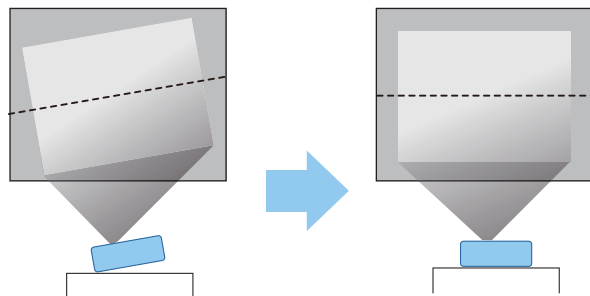
注意

本機を縦置き状態にして投写しないでください。故障の原因となります。

- 天吊りするには、オプションの天吊り金具が必要です。
  ☛「オプション」p.136
- 設置モードの初期設定は[フロント]です。[フロント]から[リア]に切り替えるには、環境設定メニューで設定します。
  ☛ [拡張設定]-[設置モード] p.92
- リモコンの【A/Vミュート】ボタンを約5秒間押し続けると、設置モードを次のように切り替えることができます。
  [フロント]↔[フロント・天吊り]
  [リア]↔[リア・天吊り]

設置方法

プロジェクターは以下のように設置してください。

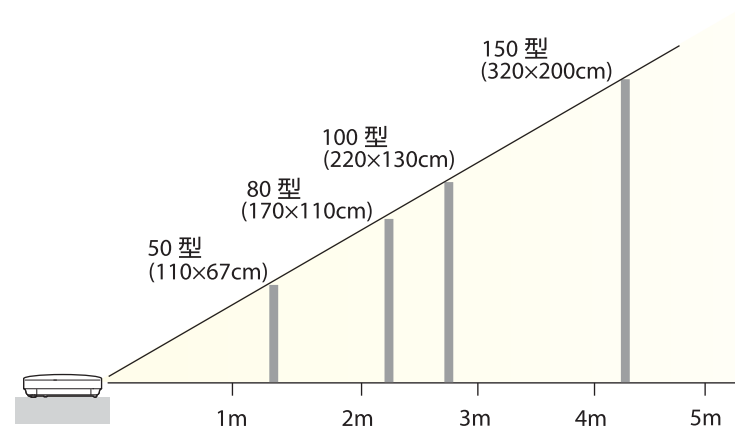
- スクリーンに対して平行にします。
  スクリーンに対して斜めに設置すると、投写映像が台形にゆがみます。

- 水平に置きます。
  傾けて設置すると、投写映像も傾きます。

- 本機を平行に設置できないときは、以下を参照してください。
  ☛「台形ゆがみを補正する」p.40
- 本機を水平に設置できないときは、以下を参照してください。
  ☛「水平傾斜を調整する」p.44
  ☛「台形ゆがみを補正する」p.40

スクリーンサイズと投写距離の目安

本機からスクリーンまでの距離により投写サイズが決まります。下図を参照して、適切なサイズで投写できる位置に本機を設置してください。
下図は、ズームを最大にしたときの最短投写距離の目安です。投写距離の詳細は以下を参照してください。

☛「スクリーンサイズと投写距離」p.137

台形ゆがみを補正すると、投写映像のサイズが小さくなります。

16：10スクリーンサイズ

接続する機器により、端子名称、位置や向きが異なります。

映像機器の接続

DVDプレーヤーやゲーム機などの映像を投写するには、以下の方法で接続します。

❶ **市販のHDMIケーブルを使用するとき**

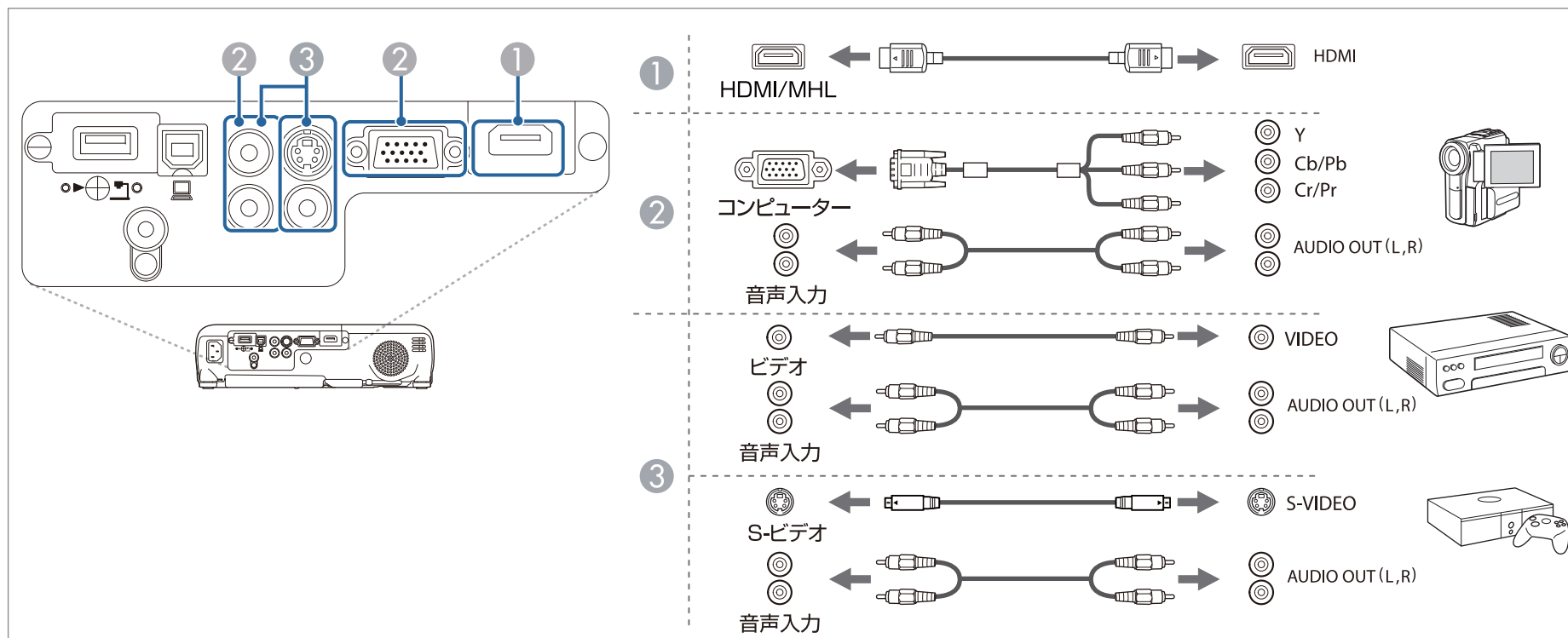
映像機器のHDMI端子と本機のHDMI/MHL入力端子を接続します。映像の投写と同時に、映像機器の音声も転送できます。

❷ **オプションのコンポーネントビデオケーブルを使用するとき**

☛「オプション」p.136

映像機器のコンポーネント出力端子と本機のコンピューター入力端子を接続します。音声を本機のスピーカーから出力するには、市販のオーディオケーブルで、映像機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。

❸ **市販のビデオケーブルまたはS-ビデオケーブルを使用するとき**

映像機器のビデオ出力端子と本機のビデオ入力端子を接続します。または、映像機器のS-ビデオ出力端子と本機のS-ビデオ入力端子を接続します。音声を本機のスピーカーから出力するには、市販のオーディオケーブルで、映像機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。

注意

- 接続する前に接続機器の電源を切ってください。接続機器の電源が入った状態で接続すると、故障の原因となります。
- プラグの向きや形状が異なった状態で無理に押し込まないでください。機器の破損や故障の原因になります。

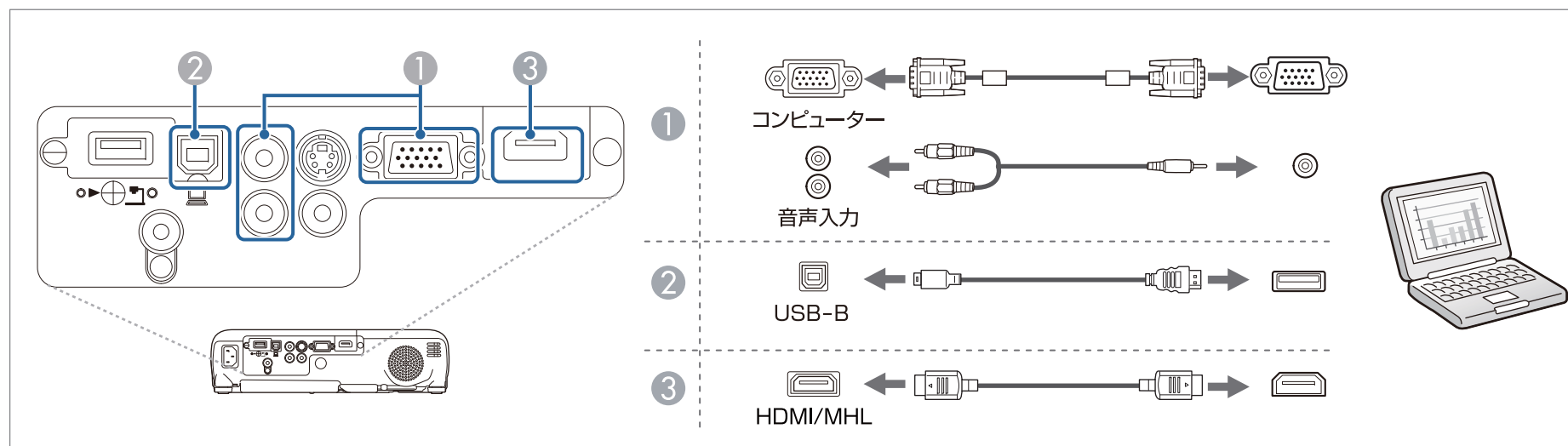
- HDMI標準に準拠したHDMIケーブルをお使いください。
- 接続する機器が特有の端子形状をしているときは、その機器に同梱またはオプションのケーブルで接続してください。
- 映像機器が出力する映像信号により、プロジェクターに接続するケーブルは異なります。映像機器によっては、数種類の映像信号を出力できます。一般的に画質は高いものから順に以下のとおりです。
  コンポーネントビデオ ＞ S-ビデオ ＞ コンポジットビデオ
  お使いの映像機器が出力できる映像信号の種類については、映像機器の取扱説明書を参照してください。コンポジットビデオは「ビデオ出力」と記載されていることがあります。
- ゲーム機を接続した場合、ゲーム機の操作に対して投写映像がわずかに遅れて表示されます。
  ☛「映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）」p.45
- 市販の2RCA（L・R）/ステレオミニピンオーディオケーブルを使うときは、「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。

コンピューターの接続

コンピューターの映像を投写するには、以下の方法で接続します。

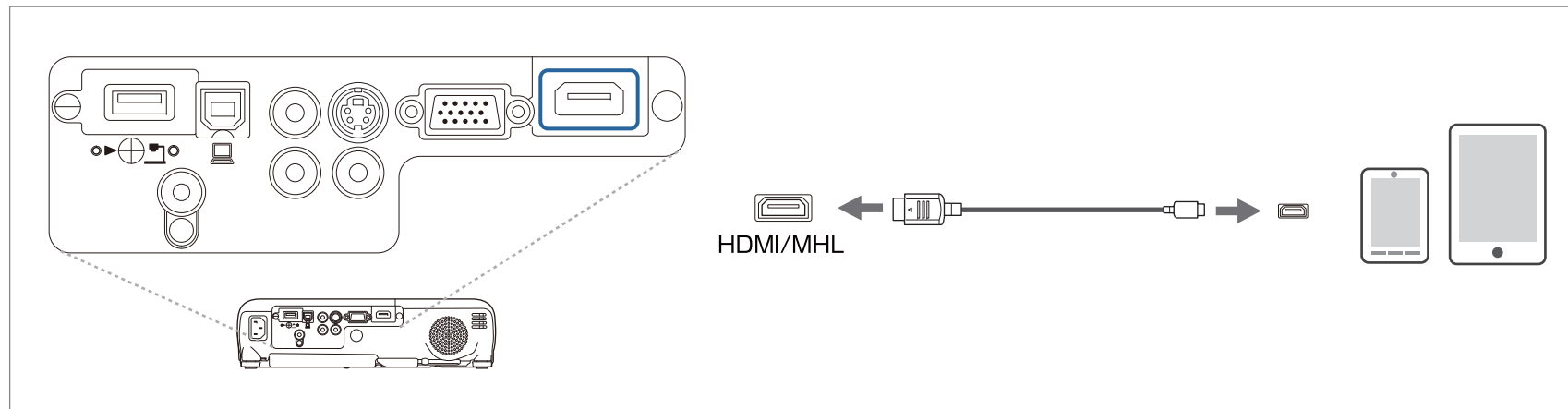
❶ **オプションまたは市販のコンピューターケーブルを使用するとき**
コンピューターのディスプレイ出力端子と本機のコンピューター入力端子を接続します。音声を本機のスピーカーから出力するには、市販のオーディオケーブルで、コンピューターの音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。

❷ **市販のUSBケーブルを使用するとき**
コンピューターのUSB端子と本機のUSB-B端子を接続します。映像の投写と同時に、コンピューターの音声も転送できます。

❸ **市販のHDMIケーブルを使用するとき**
コンピューターのHDMI端子と本機のHDMI/MHL入力端子を接続します。映像の投写と同時に、コンピューターの音声も転送できます。

本機は、USBケーブルでコンピューターと接続してコンピューターの映像を投写できます。この機能をUSBディスプレイと呼びます。

☛「USBディスプレイで投写する」p.35

スマートフォン/タブレット端末の接続

スマートフォンやタブレット端末を接続できます。市販のMHLケーブルで、端末のMHL端子と本機のHDMI/MHL入力端子を接続します。映像の投写と同時に音声も転送できます。

スマートフォンやタブレット端末を本機に接続すると、映像の投写と同時に端末の充電も開始します。

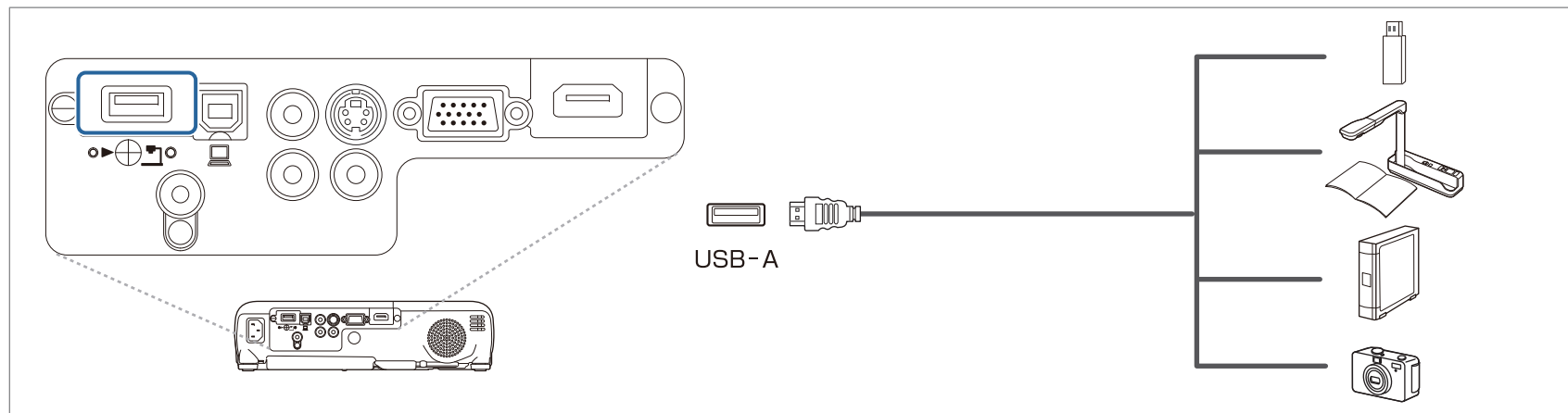
注意

- 一部の端末ではMHLケーブルを使った接続ができない場合があります。
- 必ずMHLの規格に対応したケーブルで接続してください。MHLの規格に対応していないケーブルで接続すると、スマートフォンやタブレット端末の発熱や液もれ、破裂などの原因になることがあります。
- MHL-HDMI変換アダプターを使用して接続すると、スマートフォンやタブレット端末の充電や本機のリモコンからの操作ができない場合があります。

- 映像がうまく投写できないときは、MHLケーブルを抜き差ししてください。
- スマートフォンやタブレット端末の機種や設定によっては正しく投写できないことがあります。

USB機器の接続

オプションの書画カメラ、USBメモリー、USB対応のハードディスクやデジタルカメラなど、USB機器を接続できます。

USB機器に同梱のUSBケーブルで、USB機器と本機のUSB-A端子を接続します。

USB機器を接続したときは、USBメモリーやデジタルカメラ内の画像ファイルをPC Freeで再生します。

☛「PC Freeの利用例」p.60

注意

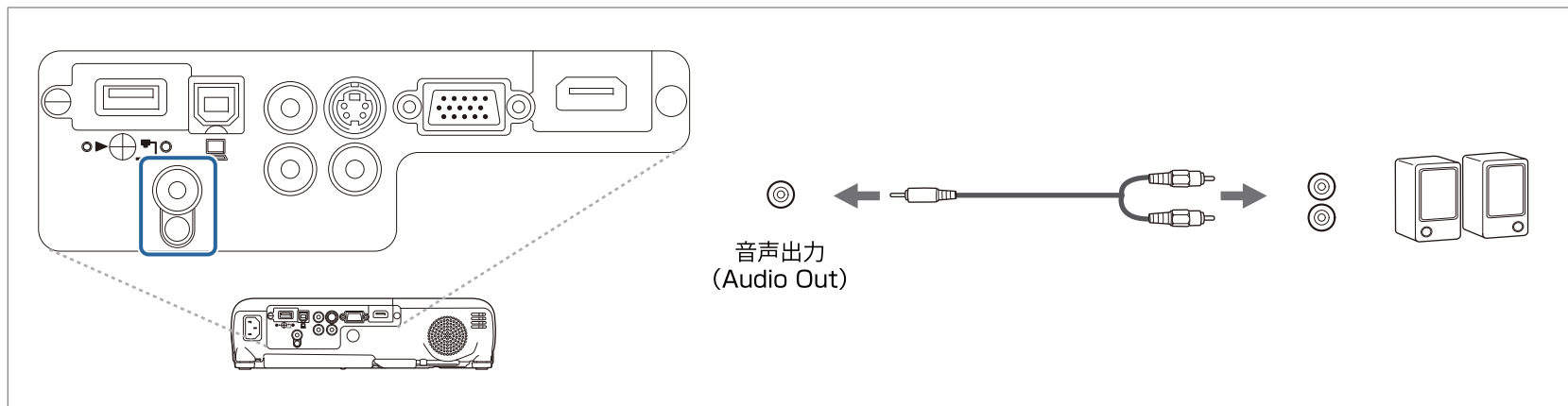
- USBハブを使用すると、正しく動作しません。デジタルカメラやUSB機器を直接本機に接続してください。
- USB対応のハードディスクを接続して使用する際は、必ずハードディスクに付属のACアダプターを接続してください。
- デジタルカメラやハードディスクの接続には、各機器に同梱または指定のUSBケーブルをお使いください。
- USBケーブルの長さは、3m以下のものをお使いください。ケーブル長が3mを超えると、PC Freeが正しく動作しないことがあります。

USB機器の取り外し方

投写終了後は、本機からUSB機器を取り外します。デジタルカメラやハードディスクなどは、各機器の電源をオフにしてから取り外してください。

外部機器の接続

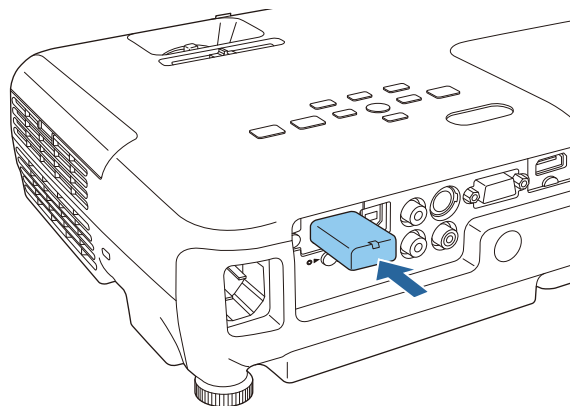
外部スピーカーを接続すると、音声を外部に出力できます。

市販のオーディオケーブルで外部スピーカーと本機の音声出力端子を接続します。

音声出力端子にオーディオケーブルのプラグを差し込むと、音声の出力先が外部に切り替わり、本機の内蔵スピーカーからは音声が出なくなります。

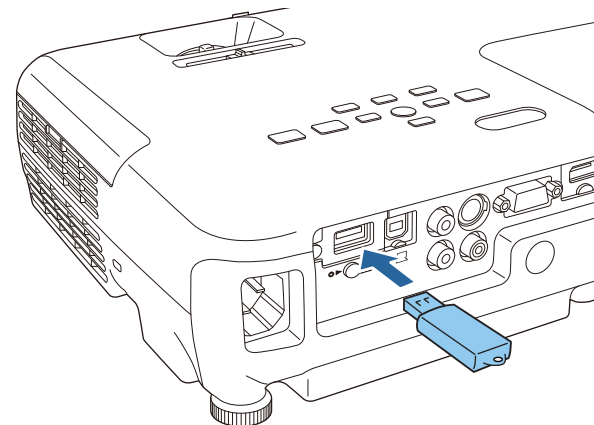
無線LANユニットの取り付け

オプションの無線LANユニットを装着すると、無線LANに接続しているコンピューターの画面をネットワーク経由で投写できます。

本機のUSB-A端子に無線LANユニットを取り付けます。

- 無線LANでネットワーク接続するときは、環境設定メニューからネットワークの設定をする必要があります。
  ☛「無線LANメニュー」p.96
- 本機を持ち運ぶときは、安全のために無線LANユニットは取り外してください。

クイックワイヤレス用USBキーの取り付け

オプションのクイックワイヤレス用USBキーを取り付けるときは、一度無線LANユニットを取り外してUSB-A端子に取り付けます。

1. **本機に無線LANユニットが取り付けられた状態で、リモコンの【LAN】ボタンを押します。**
   LAN待機画面が表示されます。
2. **LAN待機画面にSSIDとIPアドレス情報が表示されていることを確認し、無線LANユニットを取り外します。**
3. **クイックワイヤレス用USBキーをUSB-A端子に差し込みます。**

4. **「ネットワーク情報の更新が終了しました。クイックワイヤレス用USBキーを取り外してください。」と表示されたら、クイックワイヤレス用USBキーを取り外します。**
5. **本機に無線LANユニットを再度取り付けます。**
6. **クイックワイヤレス用USBキーを、お使いのコンピューターに接続します。**
   以降はクイックワイヤレス用USBキーに添付の取扱説明書を参照してください。

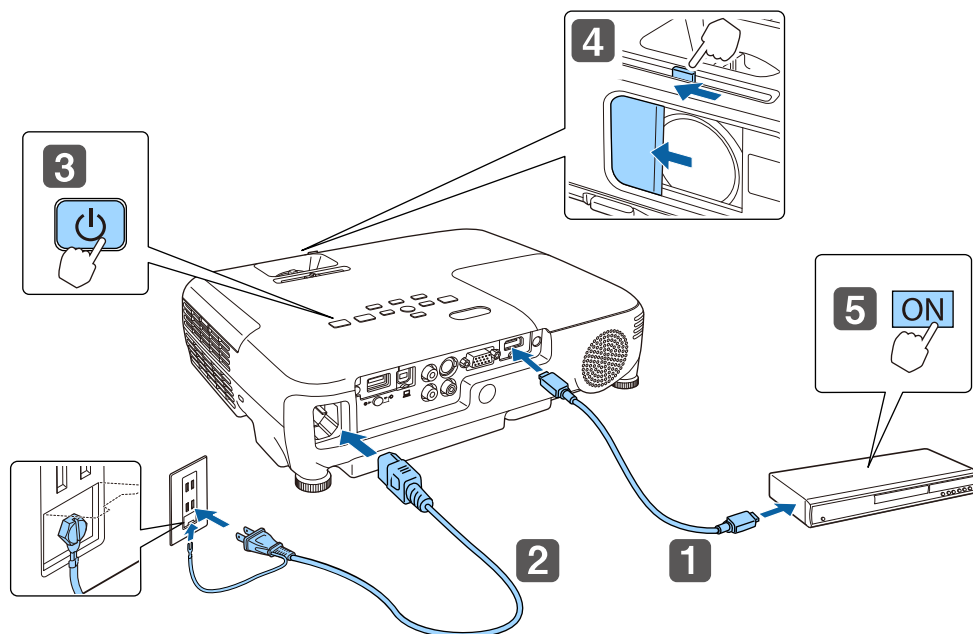
基本的な使い方

ここでは、映像の投写方法と映像補正方法について説明しています。

設置から投写までの流れ

映像機器をHDMIケーブルで接続して、映像を投写する手順を説明します。

注意

接続機器のケーブルを本機に接続したあとに、本機の電源コードを接続してください。

1 **本機と映像機器をHDMIケーブルで接続します。**

2 **本機とコンセントを電源コードで接続します。**

⚠ **警告**

必ず接地接続を行ってください。

接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

3 **本機の電源を入れます。**

4 **レンズカバーを開けます。**

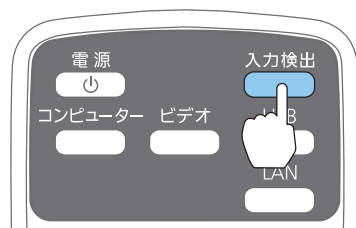
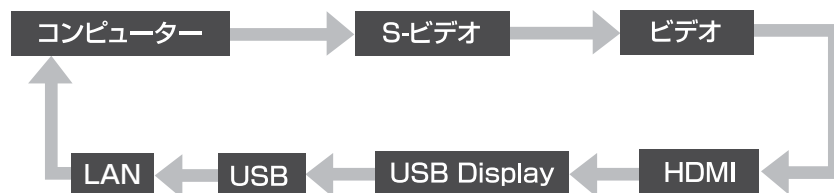
5 **映像機器の電源を入れます。**

映像が投写されないときは、以下の方法で投写する映像を切り替えます。

- 操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押します。
  ☛「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」p.34
- リモコンから目的の入力端子のボタンを押します。
  ☛「リモコンで目的の映像に切り替える」p.35

- 映像が正常に投写されたら、必要に応じて投写映像を補正してください。
  ☛「台形ゆがみを補正する」p.40
  ☛「ピントのズレを補正する」p.45
- 本機の電源を切るときは、【⏻】電源ボタンを2回押してください。

入力信号を自動検出して切り替える(入力検出)

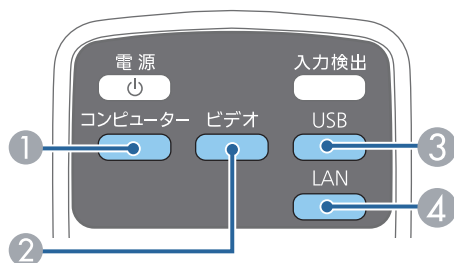
【入力検出】ボタンを押して、映像信号が入力されている入力端子の映像を投写します。

複数の機器を接続しているときは、目的の映像が投写されるまで【入力検出】ボタンを繰り返し押します。

ビデオ機器を接続しているときは、再生状態にしてから操作を開始してください。

映像信号がなにも入力されていないときは、以下の画面が表示されます。

リモコンで目的の映像に切り替える

以下のリモコンのボタンを押すと、目的の映像に直接切り替えることができます。

リモコン

❶ コンピューター入力端子からの映像に切り替えます。
❷ 押すたびに、以下の入力端子からの映像に切り替えます。
- S-ビデオ入力端子
- ビデオ入力端子
- HDMI/MHL入力端子

❸ 押すたびに、以下の映像に切り替えます。
- USBディスプレイ
- USB-A端子に接続した機器からの映像

❹ ネットワーク経由で接続している機器からの映像に切り替えます。

USBディスプレイで投写する

本機は、USBケーブルでコンピューターと接続してコンピューターの映像を投写できます。

USBケーブル1本で、映像の投写と音声の転送ができます。

USBディスプレイを実行するには、環境設定メニューの[USB Type B]を[USB Display]に設定します。

☛［拡張設定］-［USB Type B］p.92

動作環境

Windowsの場合

OS		
	Windows 2000※1	
	Windows XP※2	Professional 32ビット Home Edition 32ビット Tablet PC Edition 32ビット
	Windows Vista	Ultimate 32ビット Enterprise 32ビット Business 32ビット Home Premium 32ビット Home Basic 32ビット
	Windows 7	Ultimate 32/64ビット Enterprise 32/64ビット Professional 32/64ビット Home Premium 32/64ビット Home Basic 32ビット Starter 32ビット

	Windows 8	Windows 8 32/64ビット Windows 8 Pro 32/64ビット Windows 8 Enterprise 32/64ビット
	Windows 8.1	Windows 8.1 32/64ビット Windows 8.1 Pro 32/64ビット Windows 8.1 Enterprise 32/64ビット
CPU	Mobile Pentium III 1.2GHz以上 推奨：Pentium M 1.6GHz以上	
メモリー容量	256MB以上 推奨：512MB以上	
ハードディスク空き容量	20MB以上	
ディスプレイ	640x480 以上、1600x1200 以下の解像度 16ビットカラー以上の表示色	

※1 Service Pack 4のみ
※2 Service Pack 1を除く

OS Xの場合

OS	Mac OS 10.5.x 32ビット Mac OS 10.6.x 32/64ビット OS X 10.7.x 32/64ビット OS X 10.8.x OS X 10.9.x
CPU	Power PC G4 1GHz以上 推奨：Core Duo 1.83GHz以上
メモリー容量	512MB以上
ハードディスク空き容量	20MB以上
ディスプレイ	640x480以上、1680x1200以下の解像度 16ビットカラー以上の表示色

初めて接続したとき

初めて接続したときは、ドライバーのインストールが必要です。インストールはWindowsとOS Xで手順が異なります。

- 次回接続時はドライバーのインストールは不要です。
- 他の入力端子からの映像を投写しているときは、入力ソースをUSB Displayに切り替えます。
- USBハブを使用すると、正しく動作しません。直接本機に接続してください。
- USBディスプレイを起動しているときは、オプション設定を変更できません。

Windowsの場合

1 **USBケーブルで、コンピューターのUSB端子と本機のUSB-B端子を接続します。**

Windows 2000またはWindows XPの場合、再起動の確認メッセージが表示されることがあります。[いいえ]を選択します。

Windows 2000の場合

［コンピュータ］ - ［EPSON PJ_UD］-［EMP_UDSE.EXE］の順にダブルクリックします。

Windows XPの場合

自動的にドライバーのインストールが開始します。

Windows Vista/Windows 7/Windows 8/Windows 8.1の場合

ダイアログが表示されたら、［EMP_UDSE.exeの実行］をクリックします。

2 **使用許諾画面が表示されたら、［同意する］を選択します。**

3 **コンピューターの映像が投写されます。**

コンピューターの映像が投写されるまでに、しばらく時間がかかることがあります。コンピューターの映像が投写されるまではUSBケーブルを抜いたり、本機の電源を切ったりせずにそのままの状態でお待ちください。

4 **終了するときはUSBケーブルを取り外します。**

USBケーブルを取り外すときは、［ハードウェアの安全な取り外し］は必要ありません。

- 自動的にインストールされないときにはコンピューターで［マイコンピュータ］-［EPSON_PJ_UD］-［EMP_UDSE.EXE］の順にダブルクリックします。
- 万一、投写されないときにはコンピューターで［すべてのプログラム］-［EPSON Projector］-［Epson USB Display］-［Epson USB Display Vx.xx］の順にクリックします。
- Windows 2000搭載のコンピューターをユーザー権限でお使いのときは、Windowsのエラーメッセージが表示され使用できないことがあります。この場合は、Windowsをアップデートして最新の状態にしてから再度、接続し直してください。

  詳細は、お買い上げの販売店または以下に記載の連絡先にご相談ください。

  ☛『お問い合わせ先』

OS Xの場合

1 **USBケーブルで、コンピューターのUSB端子と本機のUSB-B端子を接続します。**

FinderにUSBディスプレイのセットアップフォルダーが表示されます。

2 **［USB Display Installer］アイコンをダブルクリックします。**

3 **画面の指示に従って、インストールを進めます。**

4 **使用許諾画面が表示されたら、［同意する］を選択します。**

管理者権限のパスワードを入力して、インストールを開始します。

インストールが完了すると、Dockとメニューバーにusbディスプレイのアイコンが表示されます。

5 **コンピューターの映像が投写されます。**

コンピューターの映像が投写されるまでに、しばらく時間がかかることがあります。コンピューターの映像が投写されるまでは

USBケーブルを抜いたり、本機の電源を切ったりせずにそのままの状態でお待ちください。

6 **終了するときは、メニューバーまたはDockの[USB Display]アイコンから[切断]を選択します。その後にUSBケーブルを取り外します。**

- FinderにUSBディスプレイのセットアップフォルダーが自動的に表示されないときは、コンピューターで[EPSON PJ_UD] - [USB Display Installer]の順にダブルクリックしてください。
- 万一、投写されないときにはDockの[USB Display]アイコンをクリックします。
- Dockに[USB Display]アイコンがないときは、アプリケーションフォルダーの[USB Display]をダブルクリックします。
- Dockの[USB Display]アイコンから[終了]を選択すると、次回USBケーブル接続時にUSBディスプレイが自動起動しなくなります。

アンインストール

Windows 2000の場合

1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル]の順にクリックします。

2 [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。

3 [プログラムの変更と削除]をクリックします。

4 [Epson USB Display]を選択して、[変更/削除]をクリックします。

Windows XPの場合

1 [スタート] - [コントロールパネル]の順にクリックします。

2 [プログラムの追加と削除]をダブルクリックします。

3 [Epson USB Display]を選択して、[削除]をクリックします。

Windows Vista/Windows 7の場合

1 [スタート] - [コントロールパネル]の順にクリックします。

2 [プログラム]の[プログラムのアンインストール]をクリックします。

3 [Epson USB Display]を選択して、[アンインストール]をクリックします。

Windows 8/Windows 8.1の場合

1 チャームを表示して、[検索]を選択します。[Epson USB Display Ver.XXX]を右クリック(長押し)します。

2 アプリバーから[アンインストール]を選択します。

3 [Epson USB Display]を選択して、[アンインストール]を選択します。

4 画面の指示に従って、アンインストールを進めます。

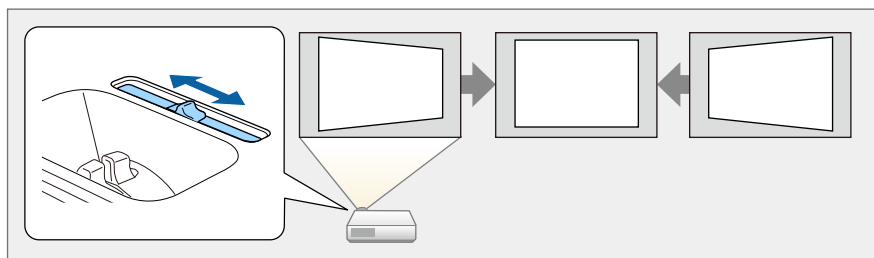
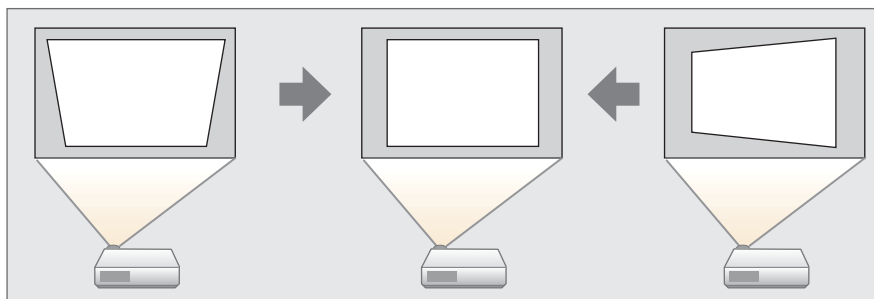
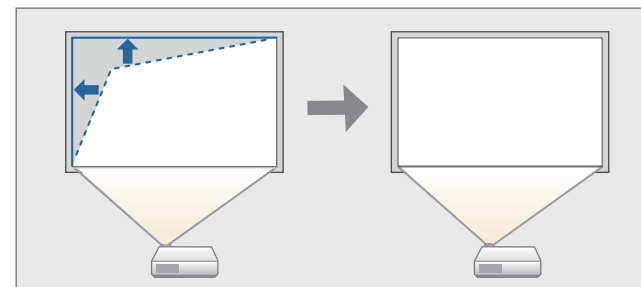
OS Xの場合

1 [アプリケーション] - [USB Display] - [Tool]の順にダブルクリックします。

2 ［**USB Display UnInstaller**］を実行します。

台形ゆがみを補正する

投写映像の台形ゆがみを補正するには、以下の方法があります。

- 自動で補正する（自動タテ補正）
  タテ方向の台形のゆがみを自動的に補正します。
- 手動で補正する（スライド式ヨコ補正）
  ヨコ方向の台形のゆがみをヨコ補正スライダーで補正します。

- 手動で補正する（タテヨコ補正）
  タテ方向とヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。

- 手動で補正する（Quick Corner）
  4つのコーナーを個別に補正します。

台形ゆがみを補正すると、投写映像のサイズが小さくなります。

自動で補正する

自動タテ補正

本機を設置したときや、移動したり傾けたときなど、プロジェクターが動きを感知すると、投写映像のタテ方向の台形ゆがみを自動的に補正します。この機能を自動タテ補正といいます。

本機を動かすと、調整用の画面が表示された後に投写映像が補正されます。

自動タテ補正で投写映像を正しく補正できる条件は、以下のとおりです。

補正角度：上下約30°

- 自動タテ補正が機能するのは、[設置モード]で[フロント]を選択しているときのみです。
  ☛ [拡張設定]-[設置モード] p.92
- 自動タテ補正を機能させたくないときは、[自動タテ補正]を[オフ]に設定してください。
  ☛ [設定]-[台形補正]-[タテヨコ]-[自動タテ補正] p.91

手動で補正する

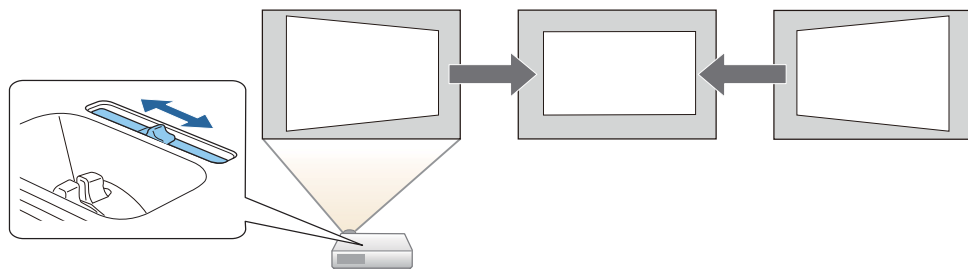
台形ゆがみを手動で微調整します。

タテヨコ補正で投写映像を正しく補正できる条件は、以下のとおりです。

補正角度：左右約30°/上下約30°

スライド式ヨコ補正

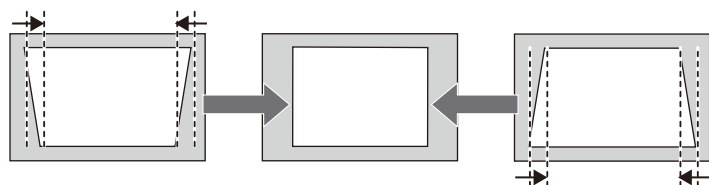
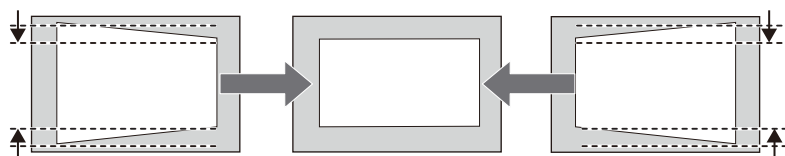
ヨコ補正スライダーを左右に移動させ、ヨコ方向の台形ゆがみを補正します。

- スライド式ヨコ補正を使用するときは、[スライド式ヨコ補正]を[オン]に設定してください。
  ☛ [設定]-[台形補正]-[タテヨコ]-[スライド式ヨコ補正] p.91
- ヨコ方向の台形ゆがみは、タテヨコ補正でも補正できます。

タテヨコ補正

タテ方向とヨコ方向の台形ゆがみを個別に補正します。

1 **投写中に操作パネルの【⏢】【⏢】ボタンを押して、台形補正画面を表示します。**

2 **下記のボタンを押して、台形ゆがみを補正します。**

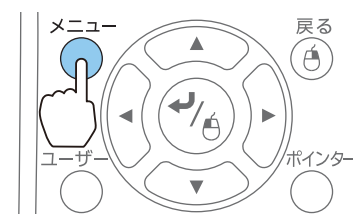
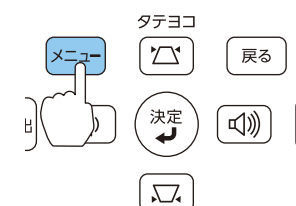
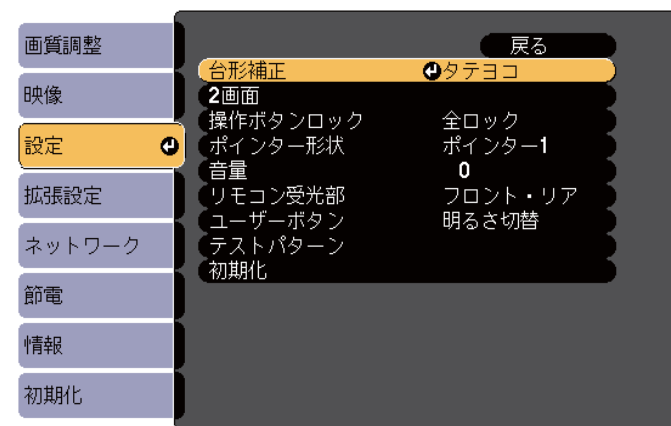
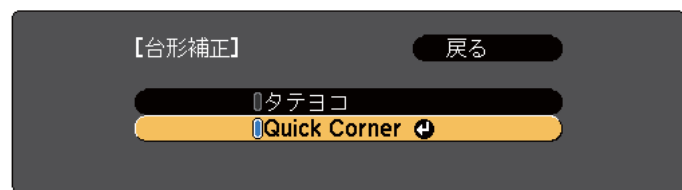
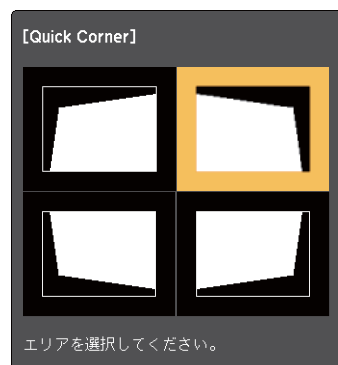
タテ補正は【⏢】【⏢】ボタンを押します。

ヨコ補正は、【 】【 】ボタンを押します。

タテヨコ補正は環境設定メニューからも設定できます。

☛ [設定]-[台形補正]-[タテヨコ] p.91

Quick Corner

スクリーンに合わせて投写映像の4つのコーナーを個別に補正します。

1 **投写中に【メニュー】ボタンを押します。**

☛「環境設定メニューの操作」p.85

2 **[設定]から[台形補正]を選択します。**

3 **[Quick Corner]を選択し【↵】ボタンを押します。**

4 **補正するコーナーをリモコンの【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン、または操作パネルの【⏢】【⏢】【🔉】【🔊】ボタンで選択して、【↵】ボタンを押します。**

5 **リモコンの【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン、または操作パネルの【⏢】【⏢】【🔉】【🔊】ボタンでコーナーの位置を補正します。**

【↵】ボタンを押すと、手順4の補正するエリアを選択する画面が表示されます。

補正中に「これ以上調整できません。」と表示されたときは、グレーの三角で示す部分が補正量の限界に達したことを示しています。

6 **手順4と5を繰り返して補正が必要なコーナーすべてを補正します。**

7 **補正を終了するには、【戻る】ボタンを押します。**

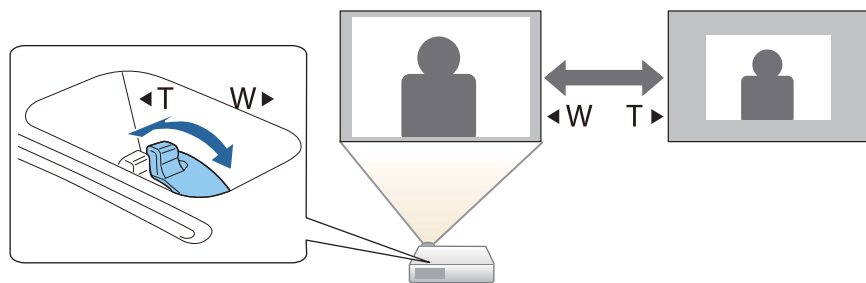
[台形補正]を[Quick Corner]に変更したので、以降は操作パネルの【⏢】【⏢】ボタンを押すと手順4のコーナーを選択する画面が表示されます。操作パネルの【⏢】【⏢】ボタンを押したときにタテヨコ補正をしたいときは、[台形補正]を[タテヨコ]に変更してください。

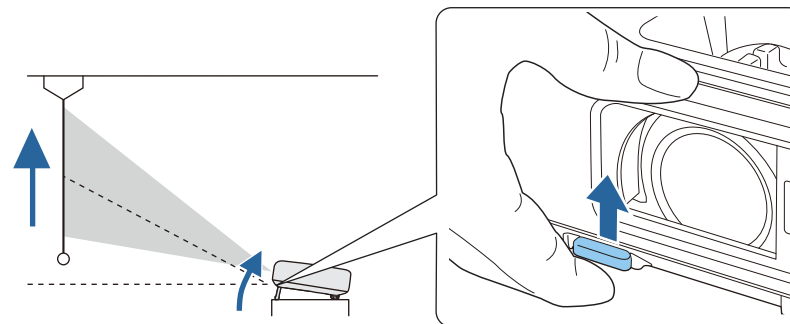
☛ [設定]-[台形補正]-[タテヨコ] p.91

手順4のコーナーを選択する画面で【戻る】ボタンを約2秒間押し続けると、以下の画面が表示されます。

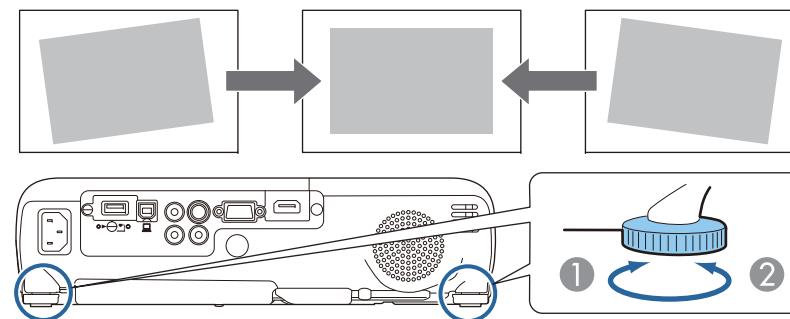
［Quick Corner初期化］：Quick Cornerで補正した結果を初期化します。
［タテヨコへ切替］：補正方法を［タテヨコ］に切り替えます。
☛「設定メニュー」p.91

映像のサイズを調整する

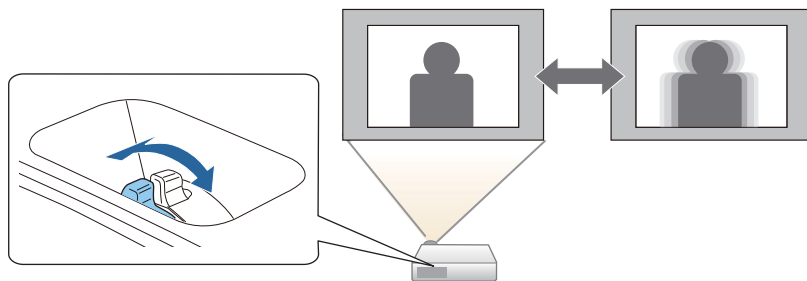
ズームリングを回して、投写映像のサイズを調整します。

映像の高さを調整する

フットレバーを押して、フロントフットを伸ばします。最大12度まで傾けて、映像の高さを調整できます。

傾斜角度が大きくなると、ピントが合いにくくなります。傾斜角度が小さくなるように設置してください。

水平傾斜を調整する

リアフットを伸縮して本機の水平方向の傾きを調整します。

❶ リアフットを伸ばします。
❷ リアフットを縮めます。

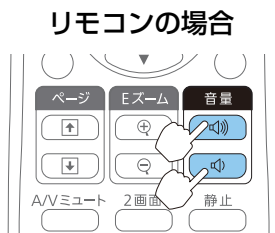
ピントのズレを補正する

ピントのズレを補正するには、フォーカスリングで調整します。

音量を調整する

音量を調整するには、以下の方法があります。

- 操作パネルまたはリモコンの【音量】ボタンを押して調整する。
  【🔉】音量を下げます。
  【🔊】音量を上げます。

リモコンの場合

操作パネルの場合

- 環境設定メニューから調整する。
  ［設定］-［音量］p.91

⚠ 注意

初めから音量を上げすぎないでください。
突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります。電源を切る前に音量(ボリューム)を下げておき、電源を入れた後で徐々に上げてください。

映り具合を選ぶ(カラーモードの選択)

投写する環境に応じて、カラーモードを設定します。モードによって投写の明るさが変わります。

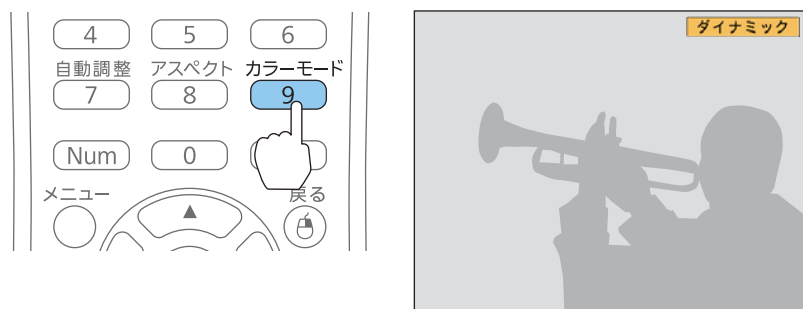
2D信号入力時

モード名	使い方
ダイナミック	明るい部屋での使用に最適です。
リビング	カーテンを閉めた部屋での使用に最適です。
シネマ	暗い部屋で、映画を楽しむのに最適です。自然な色合いの映像になります。
ゲーム	• 明るい部屋で、ゲームを楽しむのに最適です。 • ゲームモードへの切り替えには数秒かかります。

3D信号入力時

モード名	使い方
3Dダイナミック	明るい部屋での使用に最適です。一番明るいモードで、暗部の階調表現に優れています。
3Dシネマ	暗い部屋で、映画を楽しむのに最適です。自然な色合いの映像になります。

【カラーモード】ボタンを押すたびに画面上にカラーモード名が表示され、カラーモードが切り替わります。

リモコン

カラーモードは環境設定メニューからも設定できます。

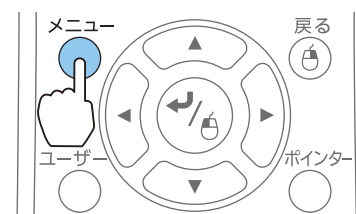
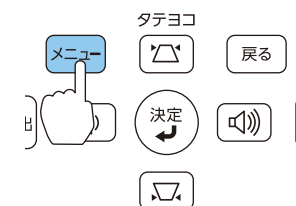
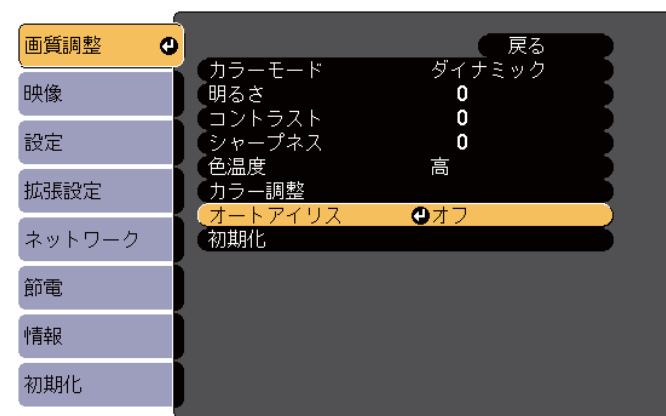
☛［画質調整］-［カラーモード］ p.88

オートアイリス(自動絞り)を設定する

表示される映像の明るさに合わせて、光量を自動的に設定することで、奥行きと深みのある画像が楽しめます。

1. 【メニュー】ボタンを押します。

☛「環境設定メニューの操作」p.85

リモコンの場合

操作パネルの場合

2. ［画質調整］から［オートアイリス］を選びます。

3. ［標準］または［高速］を選択します。

設定値はカラーモードごとに保存されます。

［高速］に設定すると、映像のシーン変化に瞬時に対応して光量を調整します。

4　**【メニュー】ボタンを押して設定を終了します。**

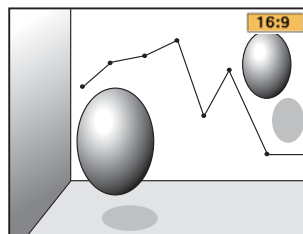
投写映像のアスペクト比を切り替える

入力信号の種類、縦横比、解像度に合わせて、投写映像のアスペクト比を切り替えます。

投写している映像の種類により、選択できるアスペクトモードは異なります。

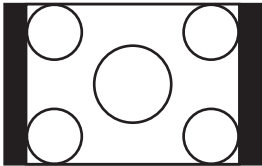
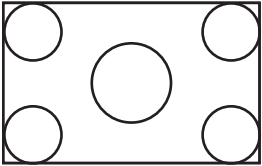
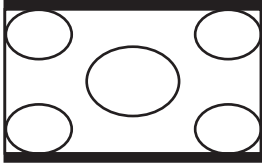
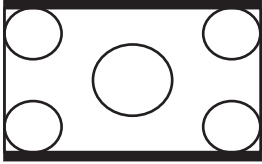
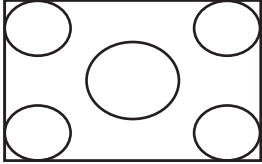
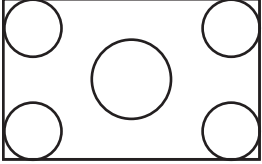
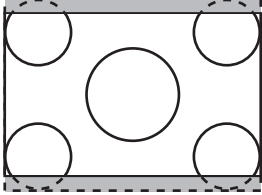
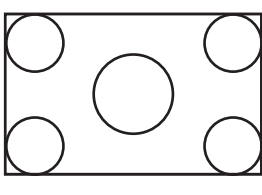
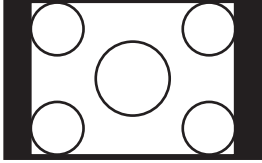
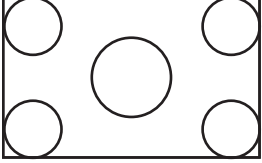
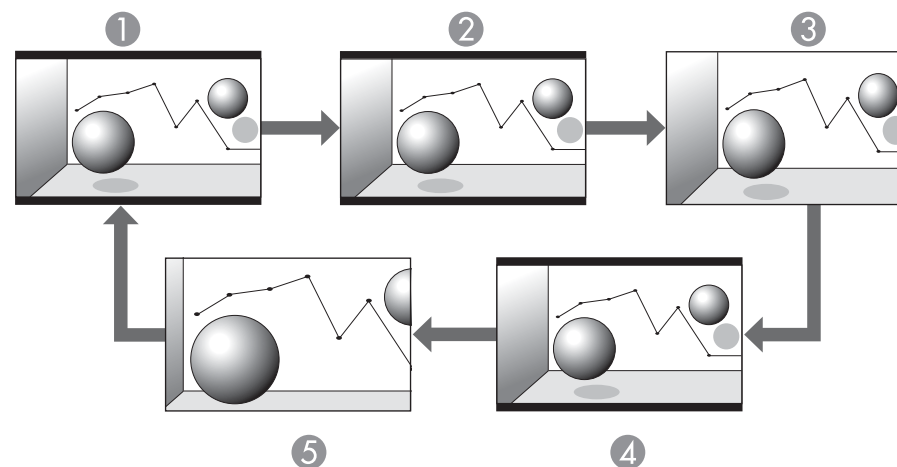
切り替え方法

リモコンの【アスペクト】ボタンを押すたびに画面上にアスペクトモード名が表示され、アスペクト比が切り替わります。

リモコン

- アスペクト比は環境設定メニューからも設定できます。
  ☛［映像］-［アスペクト］p.89
- 3Dモード時はアスペクトモードが［ノーマル］に固定されます。

アスペクトモードを切り替える

ビデオ機器の映像またはHDMI/MHL入力端子からの映像を投写しているとき

【アスペクト】ボタンを押すたびに、アスペクトモードが、［ノーマル］または［オート］、［16:9］、［フル］、［ズーム］、［リアル］の順で切り替わります。

例：1080p信号入力時（解像度1920x1080、アスペクト比16:9）

❶ ノーマルまたはオート
❷ 16:9
❸ フル
❹ ズーム
❺ リアル

コンピューターの映像を投写しているとき

各アスペクトモードに切り替えたときの投写例は以下のとおりです。

アスペクトモード	入力信号	
	XGA 1024X768(4:3)	WXGA 1280X800(16:10)
[ノーマル]		
[16:9]		
[フル]		
[ズーム]		
[リアル]		

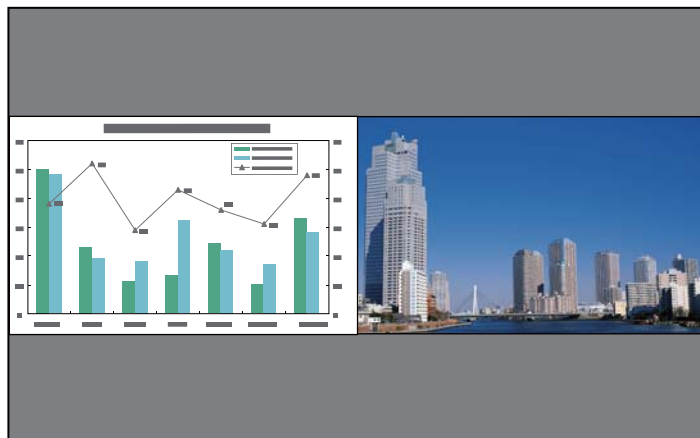
投写映像が欠けてすべてが投写できないときは、お使いのコンピューターのパネルサイズに合わせて環境設定メニューの[入力解像度]を[ワイド]または[ノーマル]に設定してください。

☛ [映像]-[入力解像度] p.89

便利な機能

ここでは、プレゼンテーションなどに効果的な機能と、セキュリティー機能について説明しています。

2種類の映像を同時に投写する(2画面)

2つの入力ソースからの映像を、1つのスクリーンの左右に同時に投写できます。

2画面で投写できる入力ソース

2画面で投写できる入力ソースの組み合わせは以下の通りです。

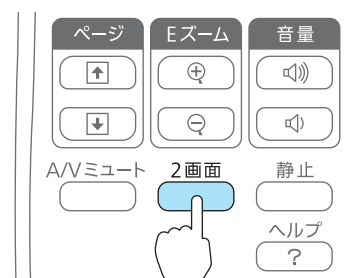
左画面ソース	右画面ソース						
	コンピューター	Sビデオ	ビデオ	HDMI	USB Display	USB	LAN
コンピューター	-	-	-	✓	✓	✓	✓
Sビデオ	-	-	-	✓	✓	✓	✓
ビデオ	-	-	-	✓	✓	✓	✓
HDMI	✓	✓	✓	-	✓	✓	✓
USB Display	✓	✓	✓	✓	-	-	-
USB	✓	✓	✓	✓	-	-	-
LAN	✓	✓	✓	✓	-	-	-

操作方法

2画面で投写する

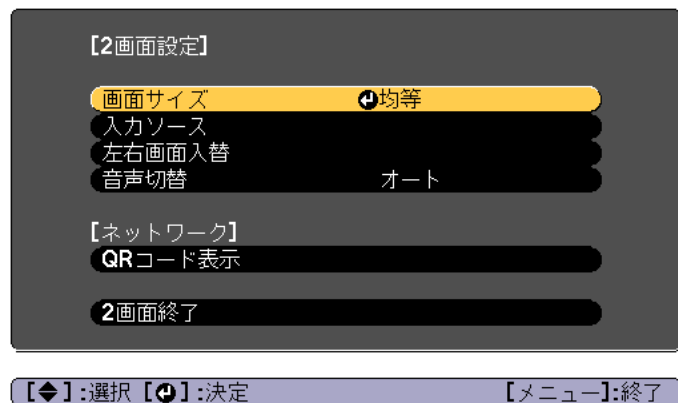
1 投写中にリモコンの【2画面】ボタンを押します。

投写している入力ソースの映像が左画面に投写されます。

リモコン

環境設定メニューからも同様の操作ができます。

☛ [設定]-[2画面] p.91

2 【メニュー】ボタンを押します。

2画面設定画面が表示されます。

3 [入力ソース]を選択して【⏎】ボタンを押します。

4 [左画面]、[右画面]でそれぞれ投写する入力ソースを選択します。

投写できる組み合わせの入力ソースのみ選択できます。

☛「2画面で投写できる入力ソース」p.50

2画面投写中に以下のボタンを押したときも入力ソース画面が表示されます。

- 【入力検出】ボタン
- 【コンピューター】ボタン
- 【ビデオ】ボタン
- 【USB】ボタン
- 【LAN】ボタン

5 [実行]を選択して【⏎】ボタンを押します。

2画面で投写中に各画面の入力ソースを切り替えるときは、手順2から始めます。

左画面/右画面を入れ替える

投写映像を左右で入れ替えるときは、以下の操作を行います。

1. **2画面で投写中に【メニュー】ボタンを押します。**

2. **左右画面入替を選択して【↵】ボタンを押します。**
   投写映像の左右が入れ替わります。

左画面/右画面の画面サイズを切り替える

1. **2画面で投写中に【メニュー】ボタンを押します。**

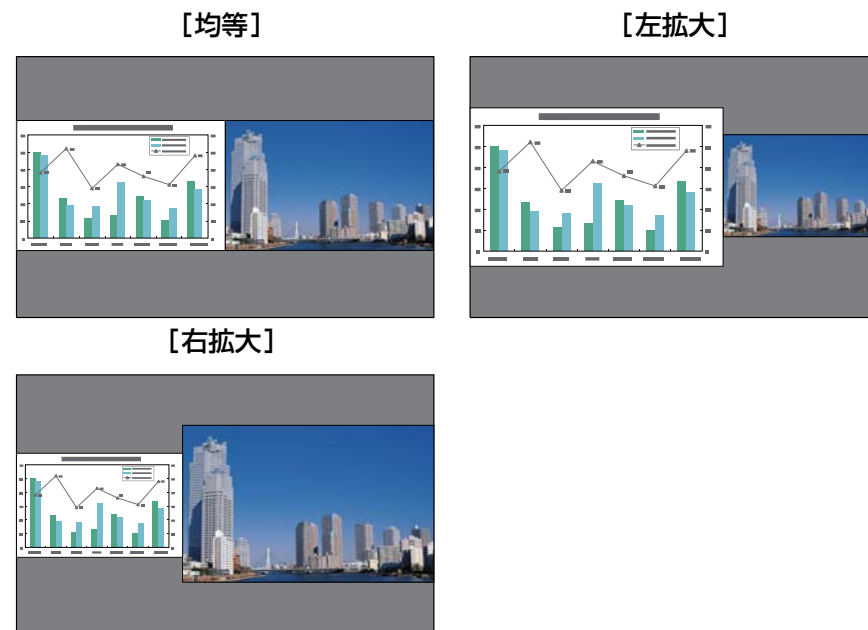
2. **［画面サイズ］を選択して【↵】ボタンを押します。**

3. **表示したい画面サイズを選択して【↵】ボタンを押します。**

画面サイズ設定後の投写イメージは以下の通りです。

［均等］

［左拡大］

［右拡大］

- 左画面、右画面の両方を同時に拡大することはできません。
- 片方の画面を拡大したときは、もう片方の画面は縮小されます。
- 入力している映像信号によっては、［均等］に設定しても左右の画面が同じサイズに見えない場合があります。

2画面を終了する

2画面を終了するときは、【戻る】ボタンを押します。

また、以下の操作でも2画面を終了できます。

- リモコンの【2画面】ボタンを押す。
- 環境設定メニューから［2画面終了］を選択する。
  ☛［設定］-［2画面］-［2画面設定］ p.91

2画面で投写中の制限事項

操作に関する制限事項

2画面で投写中は、以下の操作はできません。

- 環境設定メニューの設定
- Eズーム
- アスペクトモードの切り替え(アスペクトモードは[ノーマル]が適応されます。)
- リモコンの【ユーザー】ボタンでの操作
- オートアイリス
- 3D表示

ヘルプを表示できるのは、映像信号が入力されていないとき、または異常・警告通知が表示されたときのみです。

映像に関する制限事項

- 右画面の映像には、[画質調整]メニューの初期値が適応されます。ただし、[カラーモード]、[色温度]、[カラー調整]、[明るさ]、[コントラスト]、[色の濃さ]、[色合い]は、左画面で投写している映像の設定値が適応されます。
- 右画面の映像には、[プログレッシブ変換]、[ノイズリダクション]の設定値は[オフ]が適応されます。
  ☛「映像メニュー」p.89
- 映像信号が入力されいていないときの表示画面は背景表示で設定されている色になります。[ロゴ]に設定されているときは[青]になります。
- A/Vミュートを実行したときの表示画面は[黒]になります。

3D映像を投写する

3Dブルーレイディスクや3Dゲーム機器など、3D再生に対応している機器を接続して、3D映像を楽しむことができます。

3D映像を視聴するための準備

視聴を始める前に、以下を準備してください。

- RF方式のアクティブ3Dメガネ(オプション/ELPGS03)
  3Dメガネの詳細については、3Dメガネの取扱説明書を参照してください。
- USB充電AC電源アダプター(オプション/ELPAC01)
- 3D信号対応のHDMIケーブル(市販品)
- 環境設定メニューで次の設定を確認します。
  - [3D表示]:[オン]
  - [3D方式設定]:[オート]または接続機器の3D信号と同じフォーマット
  ☛[映像]-[3D設定] p.89

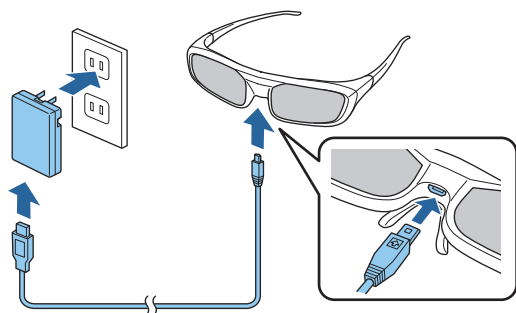
対応3D信号

本機は以下の3D信号に対応しています。

- フレームパッキング
- サイドバイサイド
- トップアンドボトム

3Dメガネの充電

はじめに、3Dメガネを充電します。

3DメガネとUSB電源ACアダプターを付属の充電ケーブルで接続し、USB充電AC電源アダプターをコンセントに差し込みます。

プロジェクターのUSB-A端子に充電ケーブルを接続して、3Dメガネを充電することもできます。（プロジェクターの電源がオンのときのみ）

注意
- 表示されている電源電圧以外は使用しないでください。
- 3Dメガネに付属の充電ケーブルを取り扱う場合は、以下の点に注意してください。
  - 破損したケーブルは使用しない。
  - ケーブルを加工しない。
  - 無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない。
  - 電熱器の近くに配置しない。

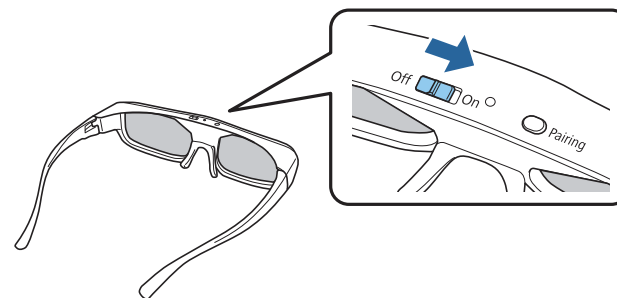
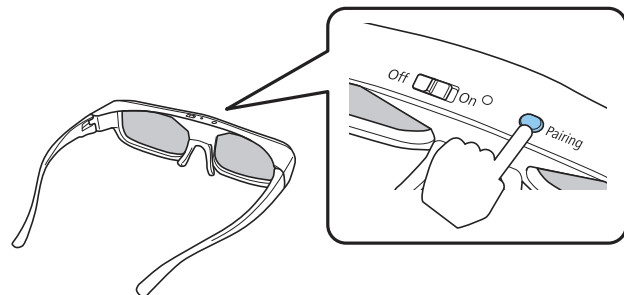
充電時間と使用時間の目安は、以下の通りです。
- 充電時間3分：約3時間使用できます。
- 充電時間50分：約40時間使用できます。

プロジェクターに3Dメガネを登録する(ペアリング)

3D映像を視聴するとき、プロジェクターは3Dメガネと通信します。正しく通信するために、プロジェクターに3Dメガネを登録することをペアリングと言います。

以下の場合にペアリングを行います。

- はじめて3Dメガネの電源を入れたとき。
  電源投入後、自動的にペアリングが開始されます。
- 3D映像を正しく視聴できないとき。
  下記の手順に沿って、ペアリングしてください。

1. **プロジェクターの電源を入れます。**
2. **操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押して、［HDMI］を選択します。**
3. **電源スイッチを【On】側にスライドさせ、3Dメガネの電源を入れます。**
   インジケーターが数秒点灯し、消えます。

4 **3Dメガネの【Pairing】ボタンを3秒間押し続けます。**

インジケーターが緑色と赤色に交互に点滅します。ペアリングが成功すると、10秒間点灯して消えます。

- ペアリングに失敗したときは、3Dメガネの電源がオフになります。
- ペアリングをするときは、プロジェクターと3Dメガネの距離を3m以内にしてください。
- 本機は、50個の3Dメガネとペアリングが可能です。

3D映像を視聴する

1 **再生機器と本機をHDMIケーブルで接続します。**

3D映像はHDMI入力のときのみ視聴できます。3D信号に対応したHDMIケーブルを用意してください。

HDMIケーブルの接続方法は下記をご覧ください。

☛「接続する」p.24

2 **再生機器と本機の電源を入れ、映像を投写します。**

映像が投写されないときは、操作パネルまたはリモコンの【入力検出】ボタンを押して、［HDMI］を選択します。

3 **3Dメガネの電源を入れ、3Dメガネを装着します。**

3Dメガネをはじめて使うときは、ペアリングを行います。

☛「プロジェクターに3Dメガネを登録する（ペアリング）」p.54

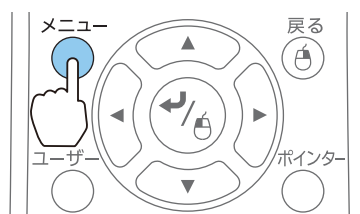
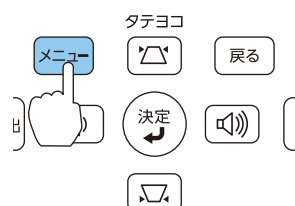
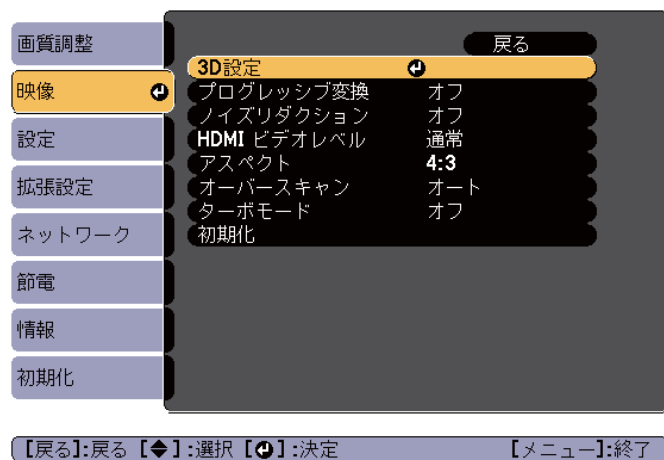
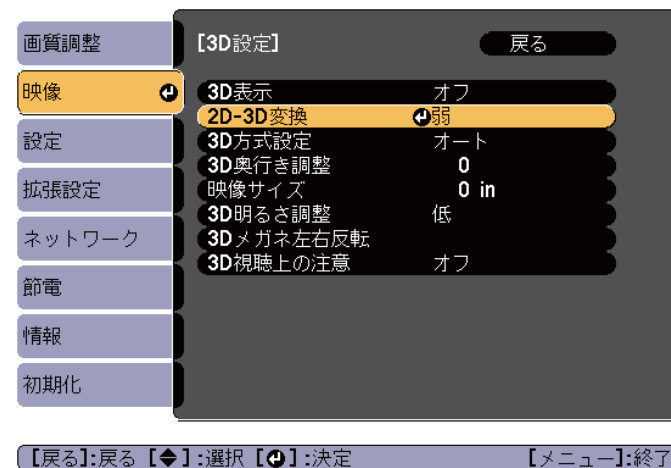
- 3D効果の見え方には個人差があります。
- 3D効果が正しく視聴できないときは、環境設定メニューで［3Dメガネ左右反転］を実行してください。
  ☛［映像］-［3D設定］-［3Dメガネ左右反転］p.89
- 本体周辺の温度やランプの使用時間によっては、3D映像の見え方が変わることがあります。正常に投写されない場合は使用をお控えください。
- 視聴後は、3Dメガネの【電源】スイッチをOff側にスライドさせて、電源を切ってください。
- 3Dメガネは、30秒以上3D信号を受信できないと、自動的に電源が切れます。電源を再投入するときは、一度【電源】スイッチをOffにしてから、再度On側にスライドさせてください。
- 3D映像を視聴中は、以下の機能を実行できません。
  - ユーザーロゴのキャプチャー
  - ポインター
  - E-Zoom
- 3D映像を視聴中に以下の機能を実行したときは、映像が2Dになります。
  - テストパターン表示
  - A/Vミュート
  - 静止

2D映像を3Dに変換して視聴する

HDMI/MHL入力端子からの2D映像を3Dに変換します。

1 【メニュー】ボタンを押します。

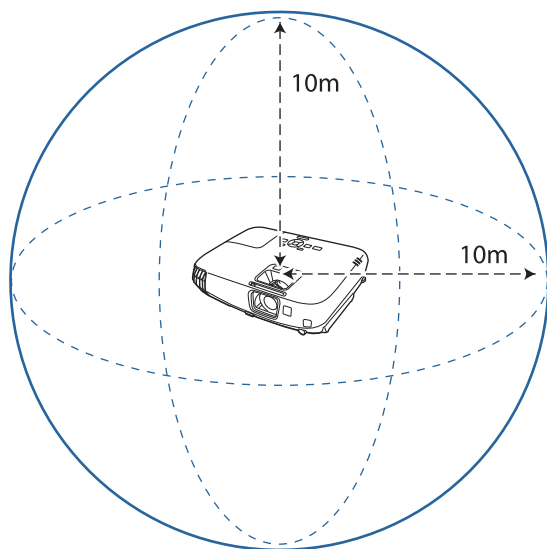
☛「環境設定メニューの操作」p.85

リモコンの場合

操作パネルの場合

2 [映像]から[3D設定]を選択します。

3 [2D-3D変換]を選択し、3D効果の強度を選びます。

3D効果の強度は[弱]、[中]、[強]の3つから選ぶことができます。

[2D-3D変換]を使用するときは、[3D方式設定]を[オート]または[2D]に設定してください。

☛ [映像]-[3D設定]-[3D方式設定] p.89

3D映像の視聴範囲

下図は、3D映像の視聴範囲です。プロジェクターから10mの範囲で視聴してください。

- 他のBluetooth通信機器の影響を受けると、3D映像が正しく視聴できないことがあります。
- 3Dメガネは、無線LAN(IEEE802.11b/g)や電子レンジと同じ周波数帯(2.4GHz)の通信方式を使用しています。同時に使用すると、電波干渉が発生し、映像が途切れたりすることがあります。同時に使用したいときは、本機をこれらの機器の近くで使用しないでください。
- 本機の3Dメガネは、Full HD 3D Glasses Initiative.規格に準拠した、アクティブシャッター方式の3Dメガネです。

3D映像の視聴に関する注意

3D映像を視聴するときは、次のことに注意してください。

 警告

- 3Dメガネを分解したり改造したりしないでください。
  火災や視聴時の異常による体調不良の原因になります。
- 3Dメガネや同梱部品は、乳幼児の手の届く場所に置かないでください。
  誤って飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われるときは、すぐ医師にご相談ください。
- 3Dメガネを火の中に入れたり、加熱したり、高温になる場所に放置したりしないでください。本製品にはリチウム充電池を内蔵しているため、発熱・破裂によるやけどや火災の原因になります。
- 充電時は、当社で指定のUSB端子に付属の充電ケーブルを接続してご使用ください。他の機器による充電は、電池の液漏れや、発熱、破裂の原因になることがあります。
- 付属の充電ケーブルは3Dメガネの充電用途以外に使用しないでください。
  発熱・発火・故障の原因になることがあります。

無線(Bluetooth)について

- 医療機器に電磁妨害をおよぼし、誤動作の原因となることがあります。お使いの前に、医療機器が近くにないことを確認してください。
- 自動制御機器に電磁妨害を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。自動ドア、火災報知機などの自動制御機器のちかくで使用しないでください。

3Dメガネ使用上の注意

注意

- 3Dメガネを落としたり、力を加えたりしないでください。
  ガラス部分などが破損してけがの原因になることがあります。保管時は付属のソフトケースに収納してください。
- 3Dメガネを装着する際は、フレームの先端にご注意ください。
  目などを突いてけがの原因になることがあります。
- 3Dメガネの可動部(ヒンジ部など)に指を挟まないようにしてください。
  けがの原因となることがあります。
- 3Dメガネを破棄するときは、3Dメガネの取扱説明書を参照してください。
- 3Dメガネは正しく装着してください。
  3Dメガネを上下逆に装着しないでください。
  映像が正しく表示されず、不快に感じたりすることがあります。
- 3D映像の視聴以外には使用しないでください。
- 3D映像の見え方には個人差があります。違和感を感じたり、立体に見えないときは、3D機能のご使用をお控えください。そのまま使用すると体調不良の原因となることがあります。
- 3Dメガネに異常・故障が発生したときは、直ちに使用を中止してください。そのまま使用するとけがや体調不良の原因となることがあります。
- 3Dメガネの装着により、耳、鼻やこめかみが赤くなったり、痛みやかゆみを感じたときは、使用を中止してください。そのまま使用すると体調不良の原因となることがあります。
- 3Dメガネの装着により、肌に異常を感じたときは、使用を中止してください。塗料や材質によりアレルギーの原因となることがあります。

視聴時間に関する注意

注意

3D映像を視聴するときは、定期的に適度な休憩を取ってください。長時間の視聴により、目の疲れなどの原因となることがあります。

必要な休憩時間や頻度は個人差がありますので、ご自身で判断してください。休憩をしても、疲労感、不快感がとれないときは、使用を中止してください。

視聴方法に関する注意

注意

- 3D映像の視聴中に疲労感、不快感など異常を感じたときは、使用を中止してください。そのまま使用すると体調不良の原因となることがあります。
- 3D映像の視聴中は必ず3Dメガネを装着し、裸眼で3D映像を視聴しないでください。体調不良の原因となることがあります。
- 3Dメガネを使用するときは、周囲に壊れやすい物を置かないでください。実際の物に間違えて体を動かし、周囲の物を破損してけがの原因となることがあります。
- 3Dメガネは3D映像視聴中のみ装着し、3Dメガネを装着したまま移動しないようにしてください。周りが暗くなり、転倒などによるけがの恐れがあります。
- スクリーンの正面で視聴してください。
  傾いた状態で視聴を続けると、3D効果を感じにくくなったり、映像の色が変わったりすることにより、体調不良の原因となることがあります。
- 蛍光灯やLED照明などをお使いの部屋で視聴すると、部屋全体がちらついてみえることがあります。その場合は、ちらつきが消えるまで明かりを暗くしたり、照明を消して視聴してください。ごくまれに、けいれん発作や失神などの症状が起きることがあります。視聴中に体調の変化を感じたときは、視聴を中止してください。
- 画面の高さの3倍以上の視距離で視聴してください。
  推奨距離は、画面80インチの場合3.0m以上、画面100インチの場合3.6m以上です。推奨距離より近距離でのご使用は、目の疲れの原因となることがあります。
- 3D映像を視聴するときは、スクリーンサイズを120型以下にすることをお奨めします。
  スクリーンサイズが大きいと使用コンテンツ・視聴環境・体調などによっては眼精疲労・映像酔いを起こす可能性があります。

視聴者に関する注意

注意

光過敏の既往症のある人、心臓に疾患のある人、体調不良の人は3Dメガネを使用しないでください。症状悪化の原因となることがあります。

視聴年齢(お子様)に関する注意

注意

- 3D映像の視聴年齢については、6歳以上を目安にしてください。
- 6歳未満のお子様は視覚が発達段階にあるため、3D視聴については医師にご相談ください。
- お子様が3Dメガネで視聴するときは、必ず保護者が同伴してください。
  お子様は疲労感や不快感などに対する反応がわかりにくいため、急に体調が悪くなることがあります。保護者の方が、目の疲れがないかご注意ください。

コンピューターを使わずに投写する(PC Free)

USBメモリーやUSBハードディスクなどのUSBストレージを本機に装着して、保存されているファイルをコンピューターを使わずに投写できます。この機能をPC Freeといいます。

- セキュリティー機能が付いているUSBストレージは、使用できないことがあります。
- PC Freeで投写時は、操作パネルの【⏢】【⏢】ボタンを押しても台形補正できません。

PC Freeで投写できるファイルの仕様

種類	ファイルタイプ（拡張子）	備考
画像	.jpg	以下の場合は投写できません。 ・CMYKカラーモード形式 ・プログレッシブ形式 ・解像度が8192x8192を超えるもの JPEGファイルの特性上、圧縮率が高いと画像がきれいに投写されないことがあります。
	.bmp	解像度が1280x800を超えるものは投写できません。
	.gif	• 解像度が1280x800を超えるものは投写できません。 • アニメーションGIFは投写できません。
	.png	解像度が1280x800を超えるものは投写できません。
動画	.avi（Motion JPEG）	• 解像度が1280x720を超えるものは投写できません。 • 音声フォーマットがリニアPCM、ADPCM以外の音声は再生できません。 • AVI1.0に対応しています。ファイルサイズが2GBを超えるものは投写できません。

- USB対応のハードディスクを接続して使用する際は、必ずハードディスクに付属のACアダプターを接続してください。
- 一部のファイルシステムに対応できないことがありますので、Windows上でフォーマットしたメディアをお使いください。
- メディアはFAT16/32でフォーマットしてください。

PC Freeの利用例

USBストレージに保存した画像を投写する

☛「選択した画像、動画を投写する」p.63

☛「フォルダー内の画像ファイルを連続投写する（スライドショー）」p.63

PC Freeの操作方法

以降、リモコンで操作を行ったときを例に説明していますが、操作パネルでも同様の操作を行えます。

起動する

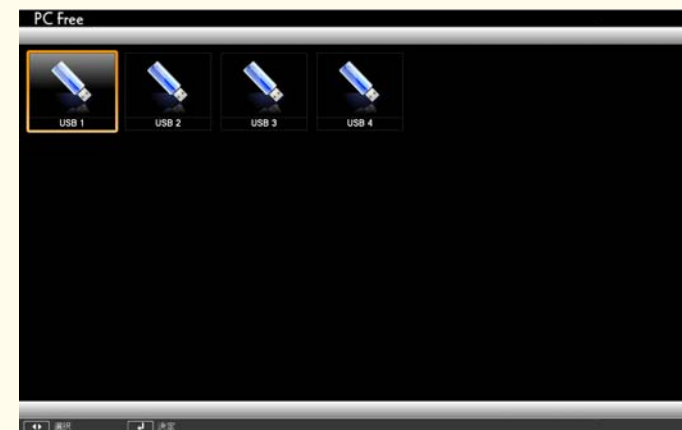
1. **入力ソースをUSBに切り替えます。**
☛「リモコンで目的の映像に切り替える」p.35

2. **プロジェクターに、USBストレージをセットします。**
☛「USB機器の接続」p.29
PC Freeが起動して、ファイル一覧画面が表示されます。

- 以下のファイルはサムネイル表示（ファイルの内容が小さい画像で表示）されます。
  -JPEGファイル
  -AVIファイル（動画の先頭の画像）
- それ以外のファイルとフォルダーは次表のようにアイコンで表示されます。

アイコン	ファイル	アイコン	ファイル
JPEG	JPEGファイル※	BMP	BMPファイル
GIF	GIFファイル	PNG	PNGファイル
AVI	AVI (Motion JPEG)ファイル※		

※ サムネイル表示できない場合は、アイコンで表示されます。

- USBカードリーダーにメモリーカードをセットして本機に接続することができます。ただし、市販のUSBカードリーダーには本機で使用できないものもあります。
- 以下の画面（ドライブの選択画面）が表示されたときは、【 】【 】【 】【 】ボタンを押して使用するドライブを選択し、【 】ボタンを押します。

- ドライブの選択画面を表示するには、ファイル一覧画面上部の［ドライブの選択］にカーソルを合わせて【 】ボタンを押します。

投写する

1 **【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンを押して、操作の対象となるファイルまたはフォルダーを選択します。**

現在表示中の画面にすべてのファイルやフォルダーが表示しきれていない場合は、リモコンの【⊡】ボタンを押すか、画面下部の[次のページ]にカーソルを合わせて【↵】ボタンを押します。

前の画面に戻る場合は、リモコンの【⊡】ボタンを押すか、画面上部の[前のページ]にカーソルを合わせて【↵】ボタンを押します。

2 **【↵】ボタンを押します。**

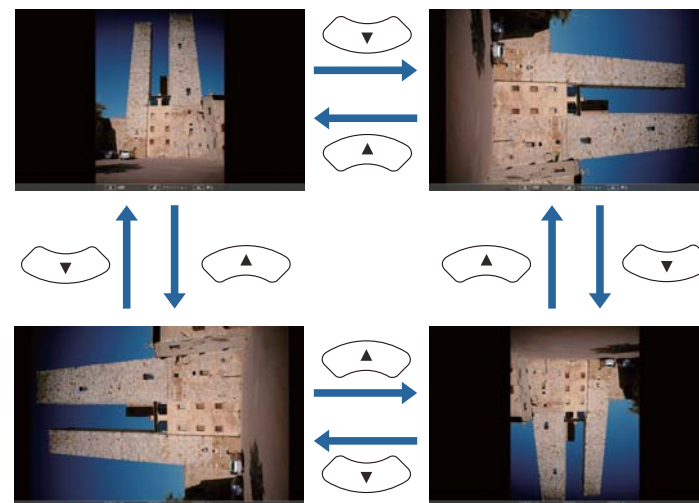
選択した映像が表示されます。

フォルダーを選択したときは、フォルダー内のファイルが表示されます。フォルダーを開いた画面で、[上へ戻る]を選択して【↵】ボタンを押すとフォルダーを開く前の画面に戻ります。

画像を回転する

再生した画像を90°単位で回転できます。スライドショー実行時に再生される画像も回転できます。

1 **画像を再生するか、スライドショーを実行します。**

2 **画像が再生されたら、【▼】ボタンまたは【▲】ボタンを押します。**

終了する

PC Freeを終了するには、接続しているUSB機器を本機のUSB端子から取り外します。デジタルカメラやハードディスクなどは、各機器の電源をオフにしてから取り外してください。

選択した画像、動画を投写する

注意
USBストレージにアクセス中はUSBストレージの接続を外さないでください。PC Freeに異常が発生する場合があります。

1 **PC Freeを起動します。**
ファイル一覧画面が表示されます。
☛「起動する」p.60

2 **【 】【 】【 】【 】ボタンを押して、投写する画像ファイルを選択します。**

3 **【 】ボタンを押します。**
画像または動画の再生が始まります。

画像を再生中に【 】【 】ボタンを押すと、画像ファイルの送り/戻しができます。

4 **再生を終了するときは、次の操作を行います。**

- 静止画を投写中：【戻る】ボタンを押す。
- 動画を投写中：【戻る】ボタンを押して表示されるメッセージ画面で、［終了］を選択して【 】ボタンを押す。
  再生を終了すると、ファイル一覧画面に戻ります。

フォルダー内の画像ファイルを連続投写する(スライドショー)

フォルダー内の画像ファイルを順番に1つずつ投写できます。この機能をスライドショーと呼びます。以下の手順でスライドショーを実行します。

スライドショーでファイルを自動的に切り替えて表示するには、［オプション］で［表示時間設定］を［なし］以外に設定してください。初期設定は3秒に設定されています。
☛「画像ファイルの表示設定とスライドショーの動作設定」p.64

1 **PC Freeを起動します。**

ファイル一覧画面が表示されます。

☛「起動する」p.60

2 **【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンを押して、スライドショーを実行するフォルダーにカーソルを合わせ【↵】ボタンを押します。**

3 **ファイル一覧画面の下部で[スライドショー]を選択して、【↵】ボタンを押します。**

スライドショーが実行され、自動的にフォルダー内の画像ファイルが順次1つずつ投写されます。

最後まで投写すると、自動的にファイル一覧表示に戻ります。オプション画面で[繰り返し再生]を[オン]に設定しているときは、最後まで投写すると最初から投写を繰り返します。

☛「画像ファイルの表示設定とスライドショーの動作設定」p.64

スライドショー投写中は次画面に送る、前画面に戻す、再生を中止することができます。

オプション画面で[表示時間設定]を[なし]に設定している場合、スライドショー再生を実行しても自動的にはファイルが切り替わりません。【▶】ボタン、【↵】ボタンまたは【⊡】ボタンを押して、次のファイルを投写します。

次の機能はPC Freeでファイルを投写しているときも同様に使えます。

- 静止
  ☛「映像を停止させる（静止）」p.67
- A/Vミュート
  ☛「映像と音声を一時的に消す（A/Vミュート）」p.67
- Eズーム
  ☛「映像を部分的に拡大する（Eズーム）」p.68
- ポインター
  ☛「説明箇所を指し示す（ポインター）」p.68

画像ファイルの表示設定とスライドショーの動作設定

ファイルの表示順序やスライドショーの動作をオプション画面で設定できます。

1 **ファイル一覧画面下部の[オプション]を選択して【↵】ボタンを押します。**

2 **次のオプション画面が表示されますので、各項目を設定します。**

変更したい項目の設定にカーソルを合わせて【↵】ボタンを押すと、設定が有効になります。

各項目の詳細は次の表のとおりです。

表示順序設定	表示するファイルの順序を、[ファイル名順]、[更新日付順]から選択します。

ソート方向	ファイルの並び替え方向を、[昇順]、[降順]から選択します。
繰り返し再生	繰り返しスライドショーを実行するかを設定します。
表示時間設定	スライドショー再生で、1つのファイルを表示する時間を設定します。[なし](0)～60秒までの設定ができます。[なし]に設定したときは、自動送りは無効となります。
画面切替効果	スライドを切り替えるときの画面効果を設定します。

3 **【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンを押して[OK]にカーソルを合わせて、【↵】ボタンを押します。**

設定が適用されます。

設定を適用したくない場合は、[キャンセル]にカーソルを合わせて、【↵】ボタンを押します。

QRコードを使って投写する

投写画面に表示したQRコードをEpson iProjection(V1.3.0以降)で読み取ると、スマートフォンやタブレット端末内のデータを簡単に投写することができます。

QRコードを使って投写を始める前に、以下のことを確認してください。

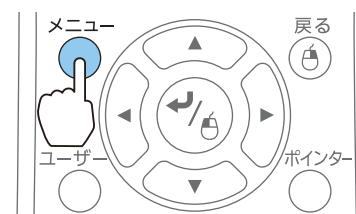
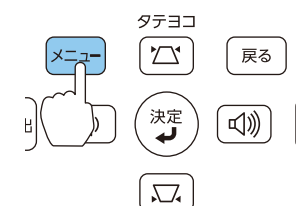
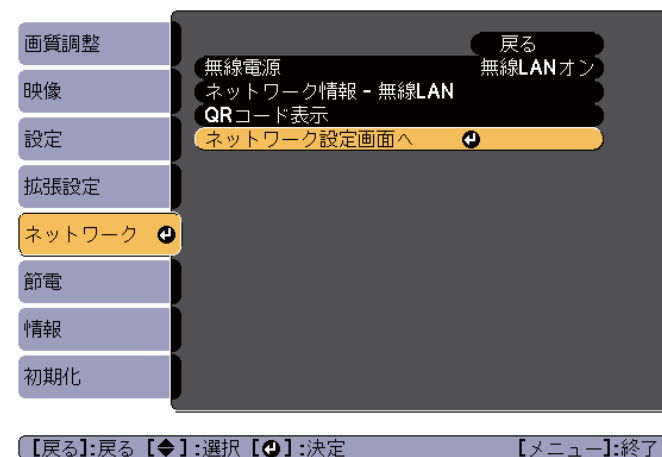
- オプションの無線LANユニットが装着されていること
- 環境設定メニューの[無線電源]が[無線LANオン]になっていること

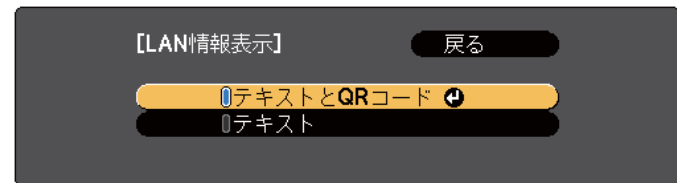
Epson iProjectionは、App StoreまたはGoogle playから無料でダウンロードできます。App Store、Google playへ接続する際の通信料はお客様の負担となります。

QRコードの表示方法を設定する

QRコードの表示は環境設定メニューで設定します。

1 **【メニュー】ボタンを押します。**

☛「環境設定メニューの操作」p.85

リモコンの場合

2 **[ネットワーク]から[ネットワーク設定画面へ]を選択します。**

3 **[基本設定]から[LAN情報表示]を選択します。**

4 [テキストとQRコード]を選択します。

テキストとQRコード

スマートフォンやタブレット端末のデータを投写する

Epson iProjectionを使って端末内のデータを投写します。

1 **スマートフォンまたはタブレット端末でEpson iProjectionを起動します。**

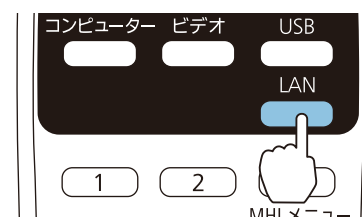
2 **アプリ画面の[プロジェクター]をタップします。**

プロジェクター検索画面が表示されます。

3 **アプリ画面の[QRコード読み取り]をタップします。**

カメラが起動し、プレビュー画面が表示されます。

4 **リモコンの【LAN】ボタンの押下、または[ネットワーク]メニューの[QRコード表示]を選択して、QRコードを表示します。**

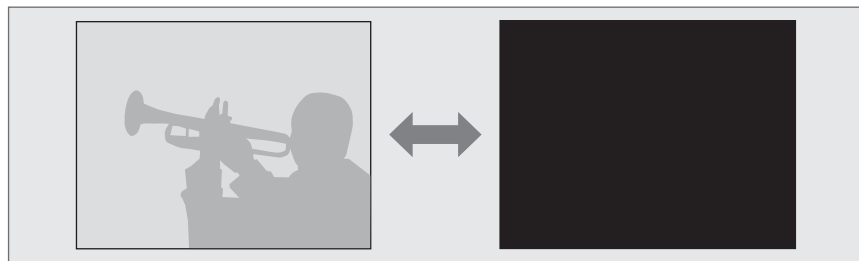
リモコン

- 本機がすでにネットワーク経由の映像信号を受信しているときは、【LAN】ボタンを押してもQRコードが表示されません。リモコンまたは操作パネルの【Enter】ボタンの押下(LANソースのときのみ)、または[ネットワーク]メニューの[QRコード表示]を選択して、QRコードを表示してください。
- QRコードを非表示にしたいときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押してください。

5 **投写されているQRコードをスマートフォンまたはタブレット端末で読み取ります。**

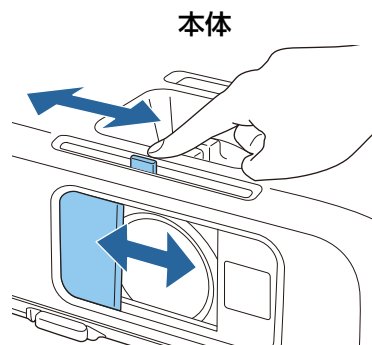
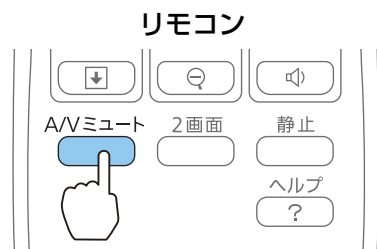
QRコードがガイドに収まるようにスクリーンの正面から読み取ってください。スクリーンから離れ過ぎると読み取れないことがあります。

接続が完了すると、接続機器の映像が投写されます。アプリ画面の[ファイル]をタップして、投写するファイルを選択してください。

映像と音声を一時的に消す(A/Vミュート)

スクリーンの映像を消したいときや、ファイルの切り替え操作などを見せたくないときに使います。

【A/Vミュート】ボタンを押す、またはレンズカバーを閉/開するたびにA/Vミュートが実行/解除されます。

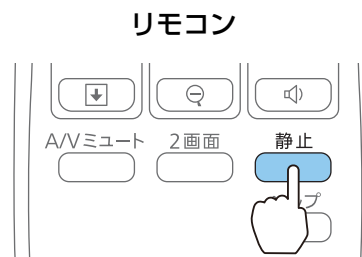
リモコン

本体

- 動画の場合は、A/Vミュート中も映像と音声は進んでいますので、遮断したときの場面からは再開できません。
- 【A/Vミュート】ボタンを押したときに表示される画面は、環境設定メニューから選択できます。
  ☛ [拡張設定]-[表示設定]-[A/Vミュート] p.92
- 【A/Vミュート】ボタンでA/Vミュートを実行して約30分経つと、[A/Vミュートタイマー]が機能して自動的に電源がオフになります。[A/Vミュートタイマー]を機能させたくないときは[A/Vミュートタイマー]を[オフ]にします。
  ☛ [節電]-[A/Vミュートタイマー] p.101
- レンズカバーを閉じた状態が約30分続くと[レンズカバータイマー]が機能し、自動的に電源がオフになります。[レンズカバータイマー]を機能させたくないときは、[レンズカバータイマー]を[オフ]にします。
  ☛ [節電]-[レンズカバータイマー] p.101
- A/Vミュート中もランプは点灯しているので、ランプ点灯時間に累積されます。

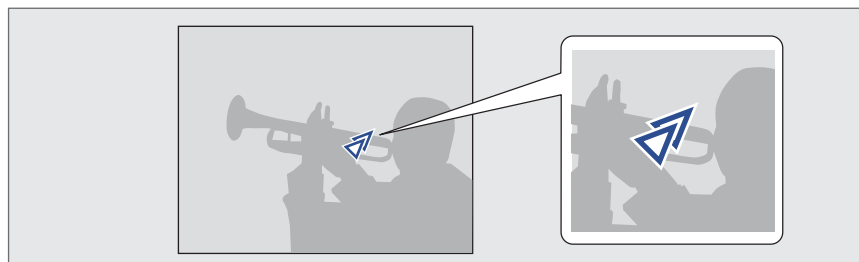
映像を停止させる(静止)

静止を実行したときの画面が投写されたままになりますので、動画の一場面を静止画で投写できます。また、ファイル切り替えの前に静止を実行すれば、操作内容を投写せずに操作できます。

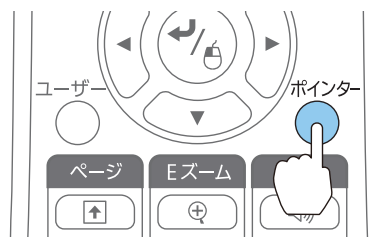
【静止】ボタンを押すたびに静止が実行/解除されます。

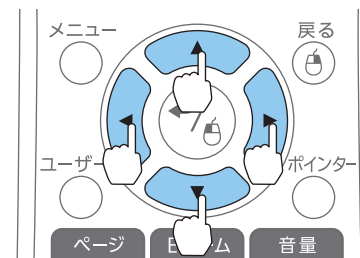
リモコン

- 音声は停止しません。
- 動画の場合は、停止している間も映像は進んでいますので、静止したときの場面からは再開できません。
- 環境設定メニューやヘルプを表示中に【静止】ボタンを押すと、表示中のメニュー・ヘルプは消去されます。
- Eズーム実行中も、静止機能で停止できます。

説明箇所を指し示す（ポインター）

ポインターで映像を指し示し、どこを説明しているかを明確にしたり、注目させるときに使います。

1 **ポインターを表示します。**

【ポインター】ボタンを押すたびに表示/非表示が切り替わります。

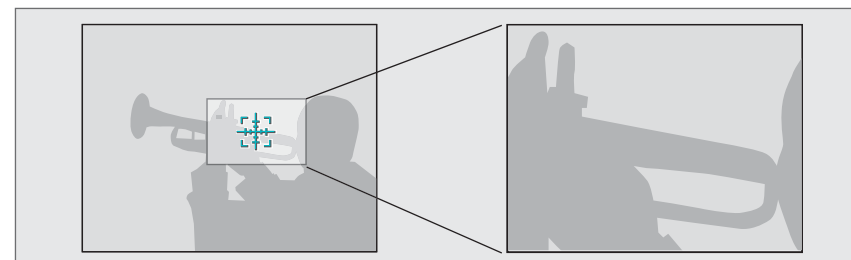
リモコン

2 **ポインターアイコン（ ）を移動します。**

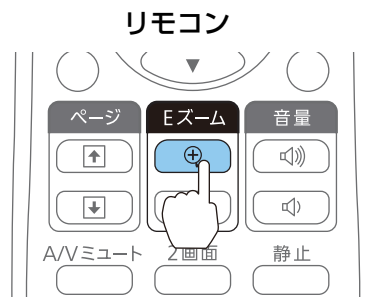
リモコン

隣り合う【 】【 】【 】【 】ボタンを組み合わせて押すと斜め方向にも移動することができます。

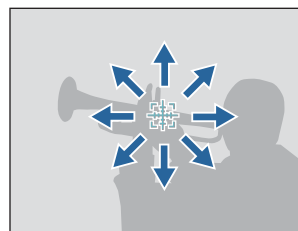
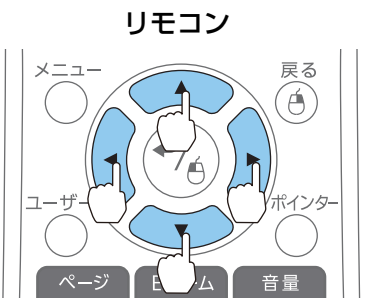
ポインターアイコンの形状は環境設定メニューから設定できます。

☛ ［設定］-［ポインター形状］ p.91

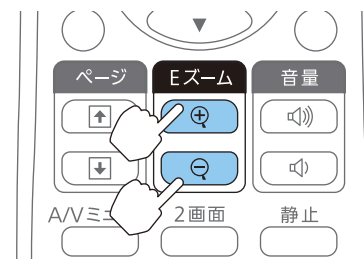
映像を部分的に拡大する（Eズーム）

映像を拡大して見せたいときに便利です。

Eズームを開始します。

【⊕】ボタンを押すと、ターゲットスコープ( )が表示されます。

リモコン

拡大表示したい部分にターゲットスコープ( )を移動させます。

リモコン

隣り合う【 】【 】【 】【 】ボタンを組み合わせて押すと斜め方向にも移動することができます。

拡大します。

リモコン

【⊕】ボタン：押すたびに拡大されます。ボタンを押し続けると、すばやく拡大できます。
【⊖】ボタン：拡大した結果を縮小します。
【戻る】ボタン：Eズームを解除します。

- 画面上に倍率が表示されます。1〜4倍まで、25段階で拡大できます。
- 拡大投写中に【 】【 】【 】【 】ボタンを押すと、映像をスクロールできます。

リモコンでマウスポインターを操作する(ワイヤレスマウス)

本機のリモコンでコンピューターのマウスポインターを操作できます。この機能をワイヤレスマウスと呼びます。

ワイヤレスマウスの対応OSは以下の通りです。

	Windows	OS X
OS	Windows 2000 Windows XP Windows Vista Windows 7 Windows 8 Windows 8.1	Mac OS X 10.3.x Mac OS X 10.4.x Mac OS X 10.5.x Mac OS X 10.6.x OS X 10.7.x OS X 10.8.x OS X 10.9.x

※ OSのバージョンによりワイヤレスマウス機能を使用できない場合があります。

ワイヤレスマウスを実行するには、以下の設定をします。

1 **本機とコンピューターをUSBケーブルで接続します。**

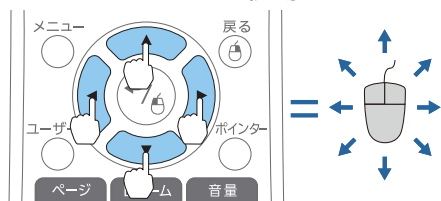
☛「コンピューターの接続」p.26

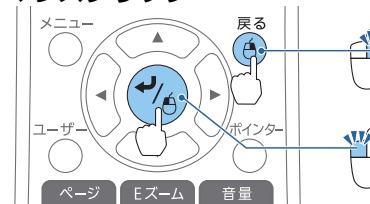
2 **入力ソースを以下のいずれかに切り替えます。**

- USB Display
- コンピューター
- HDMI

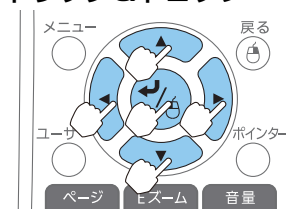
☛「リモコンで目的の映像に切り替える」p.35

設定した後はマウスポインターを次のように操作できます。

マウスポインターの移動

【▲】【▼】【◀】【▶】ボタン：
マウスポインターを移動します。

マウスクリック

【戻る】ボタン：マウスの右クリックの働きをします。

【↵】ボタン：マウスの左クリックの働きをします。ダブルクリックのときはすばやく2回押します。

ドラッグ＆ドロップ

【↵】ボタンを押したまま、【▲】【▼】【◀】【▶】ボタンを押してドラッグします。

任意の場所で【↵】ボタンを離すと、ドロップします。

ページの送り/戻し

【⇧】ボタン：ページを戻します。
【⇩】ボタン：ページを送ります。

- 隣り合う【 】【 】【 】【 】ボタンを組み合わせて押すと斜め方向にも移動することができます。
- コンピューターでマウスボタンの左右を逆に設定している場合は、リモコンでの操作も逆になります。
- 以下のときは、ワイヤレスマウス機能は動作しません。
  ・HDMI/MHL入力端子にMHLケーブルで接続している機器からの映像を投写しているとき
  ・環境設定メニューやヘルプを表示しているとき
  ・ワイヤレスマウス以外の機能を実行しているとき(音量調整など)
  ただし、Eズームやポインター機能を使用しているときは、ページの送り/戻しのみ操作できます。

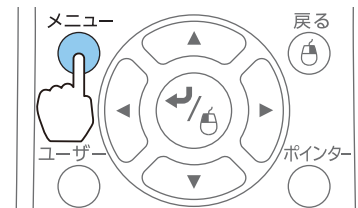
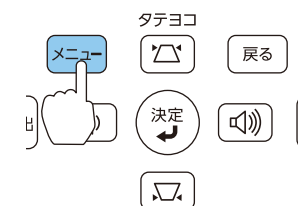
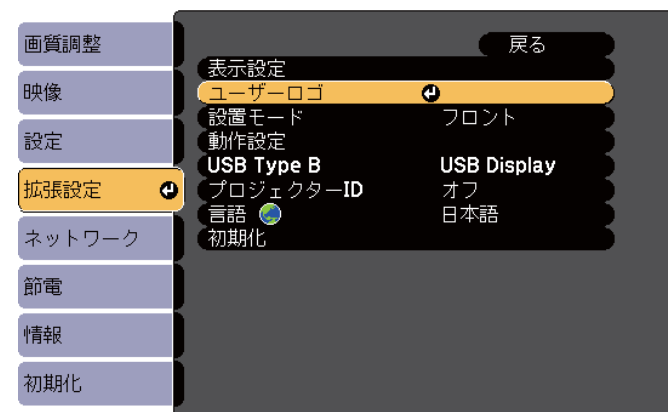
ユーザーロゴの登録

現在表示している映像をユーザーロゴとして登録します。

- ユーザーロゴは一度登録すると、初期設定状態には戻せません。
- 一括設定機能を使って環境設定の内容を他のプロジェクターに設定すると、登録してあるユーザーロゴは他のプロジェクターにも設定されます。機密情報などをユーザーロゴとして登録しないでください。
  ☛「複数台のプロジェクターを一括設定する」p.103

1 **ユーザーロゴとして登録したい映像を投写し、【メニュー】ボタンを押します。**

☛「環境設定メニューの操作」p.85

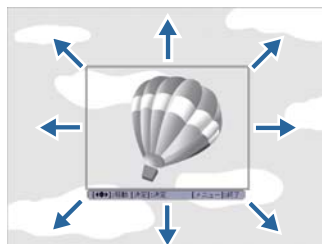
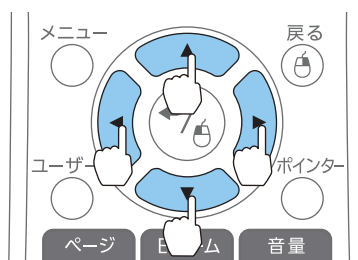
リモコンの場合

操作パネルの場合

2 **[拡張設定]から[ユーザーロゴ]を選びます。**

- [パスワードプロテクト]で[ユーザーロゴ保護]を[オン]に設定しているときは、メッセージが表示され操作することはできません。[ユーザーロゴ保護]を[オフ]にしてから操作してください。
  ☛「利用者を管理する(パスワードプロテクト)」p.73
- 台形補正、Eズーム、アスペクト、ズーム調整を行っているときに[ユーザーロゴ]を選択すると、実行している機能は一時的に解除されます。

3 「現在投写されている映像の一部をユーザーロゴとして使いますか?」と表示されるので、[はい]を選択します。

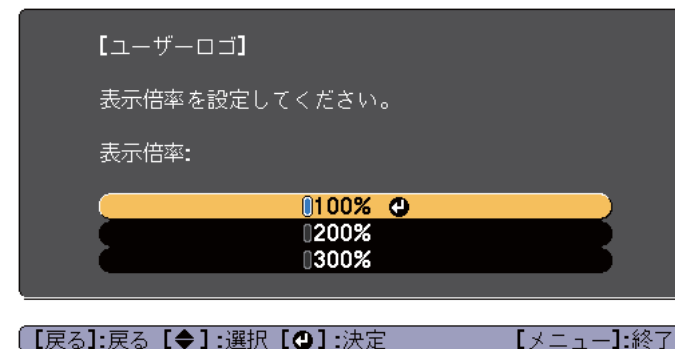
リモコンまたは操作パネルの【↵】ボタンを押すと、映像信号の実際の解像度に切り替わるため、信号によっては画面サイズが変わることがあります。

4 登録する映像と選択枠が表示されるので、ユーザーロゴとして使う位置を選択します。

プロジェクターの操作パネルでも同様の操作を行えます。

リモコン

登録できるサイズは400x300ドットです。

5 【↵】ボタンを押すと「この映像を使用しますか?」と表示されるので、[はい]を選択します。

6 表示倍率設定画面で倍率を選択します。

7 「この映像を保存しますか?」とメッセージが表示されるので、[はい]を選択します。

映像が保存されます。保存が終了すると「ユーザーロゴの設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。

- ユーザーロゴの登録を実行すると、先に登録されているユーザーロゴは消去されます。
- 保存にはしばらく時間がかかります。保存している間は、本機や接続している機器を操作しないでください。故障の原因になります。

本機には、次の充実したセキュリティー機能が備わっています。

- パスワードプロテクト
  本機を使用する人を制限・管理できます。
- 操作ボタンロック
  本機の設定を無断で変更されたり、いたずらされるのを防止できます。
  ☛「操作を制限する（操作ボタンロック）」p.75
- 盗難防止用ロック
  本機には機器そのものを持ち出されないように、盗難防止の機構が備わっています。
  ☛「盗難防止用ロック」p.76

利用者を管理する(パスワードプロテクト)

パスワードプロテクト機能を有効にすると、電源を入れてもパスワードを知らない人は投写できません。さらに、電源を入れたときに表示される社名ロゴ等を変更できなくなります。この結果、本機を持ち出しても使用できないため、盗難等の防止につながります。ご購入時は、パスワードプロテクト機能は無効になっています。

パスワードプロテクトの種類

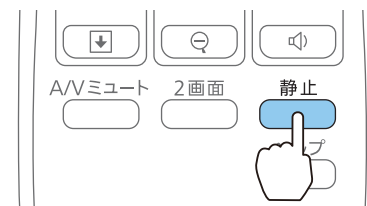
本機のパスワードプロテクトは利用シーンに応じて次の2種類の設定ができます。

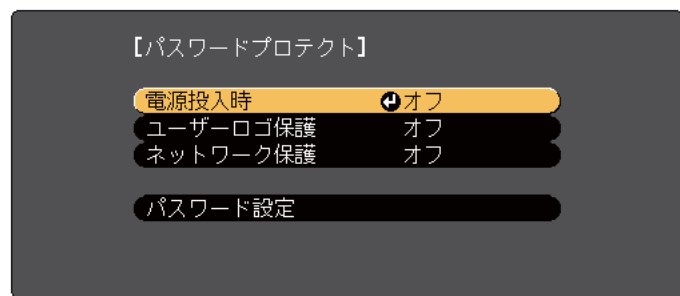
- [電源投入時]
  [電源投入時]を[オン]にすると、電源コードで本機とコンセントを接続後、最初に電源を入れたとき(ダイレクトパワーオンも同様)に、事前に設定してあるパスワードの入力が要求されます。正しいパスワードを入力しないと、投写を開始しません。
- [ユーザーロゴ保護]
  せっかくプロジェクターの所有者を明示するためにユーザーロゴを登録していても、ロゴ表示を変更されては意味がありません。[ユーザーロゴ保護]を[オン]にすると、ユーザーロゴに関する次の設定変更を禁止できます。
  - ユーザーロゴのキャプチャー
  - [表示設定]の[背景表示]、[スタートアップスクリーン]、[A/Vミュート]の設定
    ☛ [拡張設定]-[表示設定] p.92
- [ネットワーク保護]
  [ネットワーク保護]を[オン]にすると、[ネットワーク]の設定変更を禁止できます。
  ☛「ネットワークメニュー」p.93

パスワードプロテクトの設定方法

パスワードプロテクトの設定は、下記の手順で行います。

1 **投写中に【静止】ボタンを約5秒間押し続けます。**
パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

リモコン

- すでにパスワードプロテクトが有効になっていると、パスワードの入力が要求されます。
  パスワードを正しく入力するとパスワードプロテクト設定メニューが表示されます。
  ☛「パスワードの認証」p.74

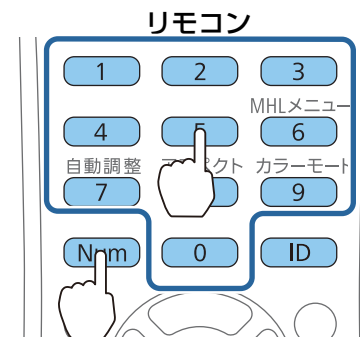
2 **設定したいパスワードプロテクトの種類を選択し、【↵】ボタンを押します。**

3 **[オン]を選択し、【↵】ボタンを押します。**

【戻る】ボタンを押して、手順2の画面に戻ります。

4 **パスワードを設定します。**

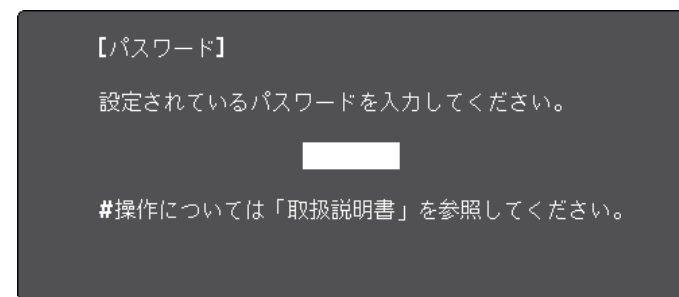
(1) [パスワード設定]を選択し、【↵】ボタンを押します。

(2) 「パスワードを変更しますか？」と表示されるので、[はい]を選択し、【↵】ボタンを押します。初期設定でパスワードは「0000」に設定されています。必ず任意のパスワードに変更してください。[いいえ]を選択すると、手順2の画面に戻ります。

(3) 【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンで4桁の数字を入力します。入力したパスワードは「* * * *」と表示されます。4桁目を入力すると、確認画面に切り替わります。

(4) 入力したパスワードを再度入力します。
「パスワード設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。
間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

パスワードの認証

パスワードの入力画面が表示されたら、設定してあるパスワードをリモコンで入力します。

【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押してパスワードを入力します。

正しいパスワードを入力すると、一時的にパスワードプロテクトが解除されます。

注意

- パスワードに関してお問い合わせいただいた際は、お客様のお名前や連絡先などをお聞きし、お客様から返送いただいた『お客様情報＋正式保証書発行カード』と照合しご本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報＋正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。
- 間違ったパスワードを続けて3回入力した場合は、「プロジェクターの動作を停止します。」と、メッセージが約5分間表示され、本機がスタンバイ状態になります。この場合は、電源プラグを抜いて差し直し、本機の電源を入れます。パスワードの入力を求める画面が表示されますので、パスワードを正しく入力してください。
- 万一、パスワードを忘れてしまったときは、画面に表示されている問い合わせコード：xxxxxの番号を控えて、プロジェクターインフォメーションセンターにご連絡いただき、その指示に従ってください。
  ☛『お問い合わせ先』
- 上記の操作を繰り返し、間違ったパスワードを続けて30回入力した場合は、次のメッセージが表示されパスワード入力もできなくなります。「プロジェクターの動作を停止します。各修理窓口へ修理を依頼してください。」
  ☛『お問い合わせ先』

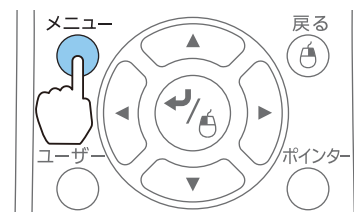
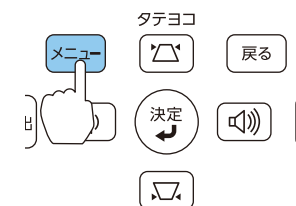
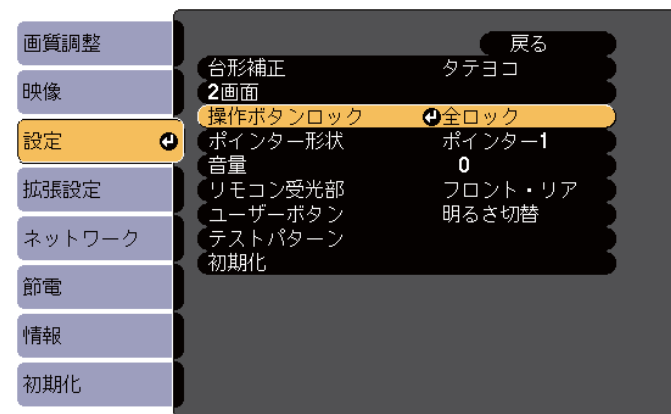
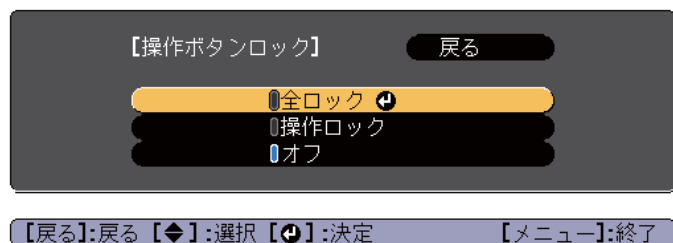
操作を制限する(操作ボタンロック)

次のどちらかを選んで本機の操作パネルのボタンをロックできます。

- 全ロック
  操作パネルのボタンをすべてロックします。操作パネルからは電源のオン/オフを含めまったく操作できなくなります。
- 操作ロック
  操作パネルの【⏻】電源ボタンを除くすべてのボタンをロックします。

イベントやショーなどで投写中に本機の操作をできないようにしたり、学校などで操作できるボタンを制限したいときに便利です。リモコンからは通常どおり操作できます。

1 投写中に【メニュー】ボタンを押します。

☛「環境設定メニューの操作」p.85

2 [設定]から [操作ボタンロック]を選びます。

3 目的に応じて、[全ロック]または[操作ロック]を選択します。

4 **確認のメッセージが表示されるので、[はい]を選びます。**
設定に従い、操作パネルのボタンがロックされます。

操作パネルのボタンロックを解除するには、次の2通りの方法があります。

- [操作ボタンロック]で[オフ]を選びます。
  ☛ [設定]-[操作ボタンロック] p.91
- 操作パネルの【↵】ボタンを約7秒間押し続けると、メッセージが表示され、ロックが解除されます。

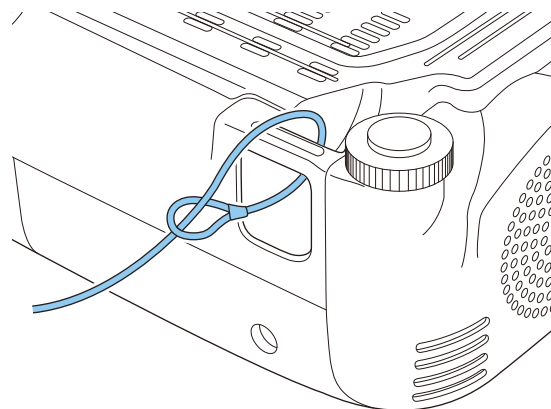
盗難防止用ロック

本機には機器そのものを持ち出されないように、次の機構が備わっています。

- セキュリティースロット
  Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティーシステムに対応したセキュリティースロットです。
  マイクロセーバーセキュリティーシステムについての詳細は、以下をご覧ください。
  ☛ http://www.kensington.com/
- セキュリティーケーブル取付け部
  市販の盗難防止用ワイヤーロックなどを通して、机や柱などに固定できます。

ワイヤーロックの取り付け方

盗難防止用ワイヤーロックのワイヤーを、プロジェクターに通します。

ワイヤーロックの施錠方法は、ワイヤーロックに添付の取扱説明書をご覧ください。

EasyMP Monitor

EasyMP Monitorを使うと、ネットワーク上の複数のエプソンプロジェクターの状態をコンピューターのモニターに表示して確認したり、コンピューターから制御したりできます。

EasyMP Monitorは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

http://www.epson.jp/download/

EasyMP Monitorでできる監視・制御は次のとおりです。

- 監視・制御するプロジェクターの登録
- 登録したプロジェクターのグループ登録
- 登録したプロジェクターの状態監視
- 登録したプロジェクターの制御
- メール通知機能の設定
- 登録したプロジェクターへのメッセージ送信

Message Broadcastingについて

Message BroadcastingはEasyMP Monitor用のプラグインソフトです。Message Broadcastingを使うと、ネットワーク接続されたすべてのエプソンプロジェクター、または指定したプロジェクターにメッセージ(JPEGファイル)を送信し、投写することができます。
データは手動で送信したり、EasyMP Monitorのタイマー機能を使って自動的に送信することができます。
Message Broadcastingは以下のWebサイトからダウンロードしてください。

http://www.epson.jp/download/

Webブラウザーを使って設定を変更する(Web制御)

本機とネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザーを利用して、コンピューターから本機の設定や制御が行えます。この機能を使えば、本機と離れた場所から、設定や制御の操作ができます。また、キーボードを使って設定内容を入力できるので、文字の入力を伴う設定も容易にできます。

Webブラウザーは、Microsoft Internet Explorer8.0以降を使用してください。OS Xをお使いの場合は、Safariを使用してください。

[待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザーを使った設定や制御ができます。

☛ [節電]-[待機モード] p.101

本機の設定

本機の環境設定メニューで設定する項目をWebブラウザー上で設定できます。設定した内容は、環境設定メニューに反映されます。また、Webブラウザーでのみ設定できる項目もあります。

Webブラウザーで設定できない環境設定メニューの項目

- 設定メニュー - ポインター形状
- 設定メニュー - テストパターン
- 設定メニュー - ユーザーボタン
- 拡張設定メニュー - ユーザーロゴ
- 拡張設定メニュー - 言語
- 初期化メニュー - ランプ点灯時間初期化

各メニューの項目の内容は本機の環境設定メニューと同じです。
☛「環境設定メニュー」p.84

Webブラウザーでのみ設定できる項目

- SNMPコミュニティー名(半角英数字で最大32文字)
- Monitorパスワード(半角英数字で最大16文字)
- ポート追加
- ポート番号

Web制御画面を表示する

以下の手順で、Web制御画面を表示します。

コンピューターとプロジェクターをネットワークに接続できる状態にしておきます。無線LANで接続するときは、マニュアルモードで接続してください。

ご使用のWebブラウザーで、プロキシサーバーを使用して接続するように設定されていると、Web制御画面を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバーを使用しないで接続するように設定してください。

1 **コンピューターでWebブラウザーを起動します。**

2 **Webブラウザーのアドレス入力部に、プロジェクターのIPアドレスを入力し、コンピューターのキーボードのEnterキーを押します。**

Web制御画面が表示されます。

環境設定メニューでWeb制御パスワードを設定しているときは、パスワードを入力する画面が表示されます。

3 **ユーザーIDとパスワードを入力します。**

ユーザーIDに「**EPSONWEB**」と入力します。

パスワードの初期設定は「**admin**」です。

- パスワードの設定が無効でも、ユーザーIDを入力します。ユーザーIDは変更できません。
- パスワードの変更は、環境設定メニューのネットワークメニューから行ってください。

☛［ネットワーク］-［基本設定］-［Web制御パスワード］p.95

Web Remote画面を表示する

Web Remote機能では、プロジェクターのリモコンでの操作をWebブラウザーで行うことができます。

1 **Web制御画面を表示します。**

2 **Web Remoteをクリックします。**

3 **Web Remote画面が表示されます。**

	名称	働き
❶	【電源】ボタン 【⏻】	本機の電源をオン/オフします。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33
❷	【コンピューター】ボタン	コンピューター入力端子からの映像に切り替えます。
❸	【ビデオ】ボタン	押すたびに、ビデオ入力端子、S-ビデオ入力端子、HDMI/MHL入力端子からの映像に切り替えます。
❹	【静止】ボタン	映像を一時停止/解除します。 ☛「映像を停止させる（静止）」p.67
❺	【A/Vミュート】ボタン	映像と音声を一時的に遮断/解除します。 ☛「映像と音声を一時的に消す（A/Vミュート）」p.67
❻	【ページ】ボタン 【⇧】【⇩】	以下のときに、PowerPointファイルなどのページを送り/戻しします。 • ワイヤレスマウス機能時 ☛「リモコンでマウスポインターを操作する（ワイヤレスマウス）」p.69 • USBディスプレイ時 ☛「USBディスプレイで投写する」p.35 • ネットワーク接続時 PC Freeで投写しているときは、画像またはシナリオを送り/戻しします。
❼	【入力検出】ボタン	映像信号が入力されている入力端子からの映像に切り替えます。 ☛「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」p.34
❽	【LAN】ボタン	EasyMP Network Projectionで投写している映像に切り替えます。オプションのクイックワイヤレス用USBキーを使って投写しているときは、その映像に切り替えます。 ☛「リモコンで目的の映像に切り替える」p.35
❾	【USB】ボタン	押すたびに、以下の映像に切り替えます。 • USBディスプレイ • USB端子に接続した機器からの映像 ☛「リモコンで目的の映像に切り替える」p.35
❿	【音量】ボタン 【🔉】【🔊】	【🔉】音量を下げます。 【🔊】音量を上げます。 ☛「音量を調整する」p.45
⓫	【QRコード表示】ボタン	QRコードを表示します。

メール通知機能で異常を通知する

メール通知機能の設定をしておくと、異常/警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所にいても本機の異常を知ることができます。

☛ [ネットワーク]-[メール]-[メール通知機能] p.99

- 送信先(宛先)は最大3つまで登録でき、一括して送ることができます。
- 本機に致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合などは、メール送信できないことがあります。
- [待機モード]を[通信オン]に設定しておくと、本機がスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、制御ができます。
  ☛ [節電]-[待機モード] p.101

異常通知メールの見方

メール通知機能をオンに設定していて本機が異常/警告状態になったときには、次のメールが送付されます。

メール差出人:宛先1のアドレス

メールタイトル:EPSON Projector

1行目:異常が生じたプロジェクターのプロジェクター名

2行目:異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス

3行目以降:異常の内容

異常の内容は、1行に1つずつ記載されています。メッセージの示す内容は以下のとおりです。

- Internal error(内部異常)
- Fan related error(ファン異常)
- Sensor error(センサー異常)
- Lamp cover is open(ランプカバー開放状態)
- Lamp timer failure(ランプ点灯失敗)
- Lamp out(ランプ異常)
- Internal temperature error(内部高温異常/オーバーヒート)
- High-speed cooling in progress(高温警告)
- Lamp replacement notification(ランプ交換勧告)
- No-signal(ノーシグナル)
  本機に映像信号が入力されていません。 接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。
- Auto Iris Error(オートアイリス異常)
- Power Err. (Ballast)(電源系異常(バラスト))

異常/警告の対処方法は、以下をご確認ください。

☛「インジケーターの見方」p.112

SNMPを使って管理する

環境設定メニューで[SNMP]を[オン]に設定をしておくと、異常/警告状態になったとき、設定したコンピューターに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でも本機の異常を知ることができます。

☛ [ネットワーク]-[その他]-[SNMP] p.99

- SNMPによる管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP機能を使って本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。
- 本機のSNMPエージェントはバージョン1(SNMPv1)に準拠しています。
- SNMPを使った管理機能は、無線LANのかんたんモードでは使用できません。
- 通知先のIPアドレスは2つまで登録できます。

ESC/VP21コマンド

コンピューターからUSB経由で本機の監視・制御が行えます。本機とプロジェクターをUSBケーブルで接続し、通信コマンド(ESC/VP21コマンド)を入力して行います。

始める前に

ESC/VP21コマンドでプロジェクターを監視・制御するには以下の準備が必要です。

1 お使いのコンピューターにUSB通信ドライバー(EPSON USB-COM Driver)をインストールします。EPSON USB-COM Driverは以下のWebサイトからダウンロードできます。

http://www.epson.jp/download/

2 本機の環境設定メニューで[USB Type B]を[Link 21L]に設定します。

☛ [拡張設定]-[USB Type B] p.92

3 コンピューターのUSB端子と本機のUSB-B端子をUSBケーブルで接続します。

2回目以降は手順2から始めます。

コマンドリスト

本機に電源オンのコマンドを送信すると、電源が入りウォームアップ状態になります。本機は電源オンの状態になったときにコロン‘:’(3Ah)を返信します。

このように本機はコマンドを受け取ると、そのコマンドを実行後‘:’を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了のときは、エラーメッセージを出力した後に‘:’を返信します。

項目			コマンド
電源のオン/オフ	オン		PWR ON
	オフ		PWR OFF
信号切り替え	コンピューター	オート	SOURCE 1F
		RGB	SOURCE 11
		コンポーネント	SOURCE 14
	HDMI		SOURCE 30
	ビデオ		SOURCE 41
	S-ビデオ		SOURCE 42
	USB Display		SOURCE 51
	USB		SOURCE 52
	LAN		SOURCE 53
A/Vミュート機能のオン/オフ	オン		MUTE ON
	オフ		MUTE OFF
A/Vミュート機能の切り替え	黒		MSEL 00

項目		コマンド
	青	MSEL 01
	ロゴ	MSEL 02

各コマンドの最後に、復帰(CR)コード(0Dh)を追加して送信してください。

通信プロトコル

- ボーレート基準速度：9600bps
- データ長：8bit
- パリティ：なし
- ストップビット：1bit
- フロー制御：なし

番号を確認して以下のとおり対処してください。問題が解決しない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせいただくか、次に記載の連絡先にお問い合わせください。

☛『お問い合わせ先』

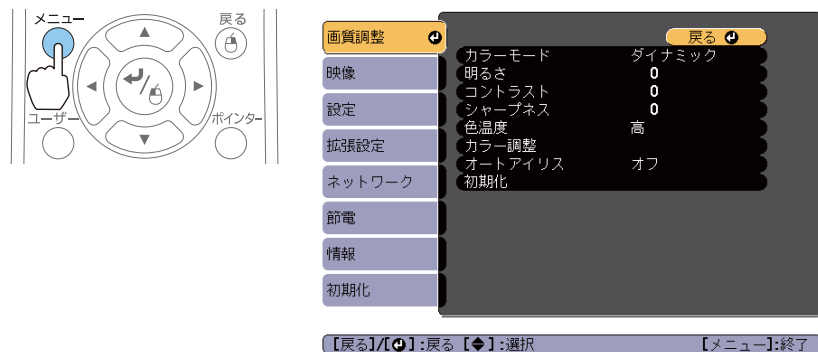
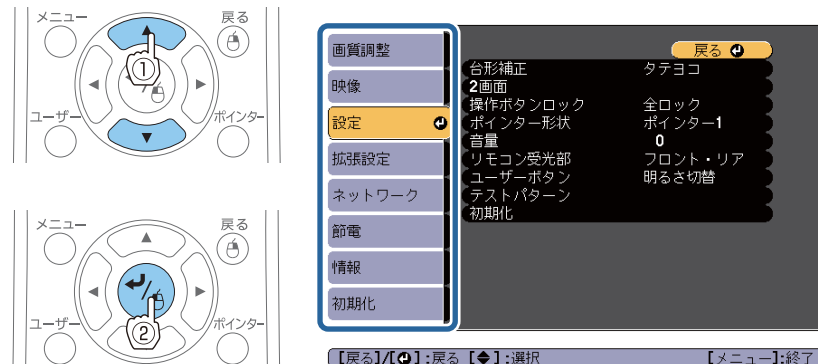
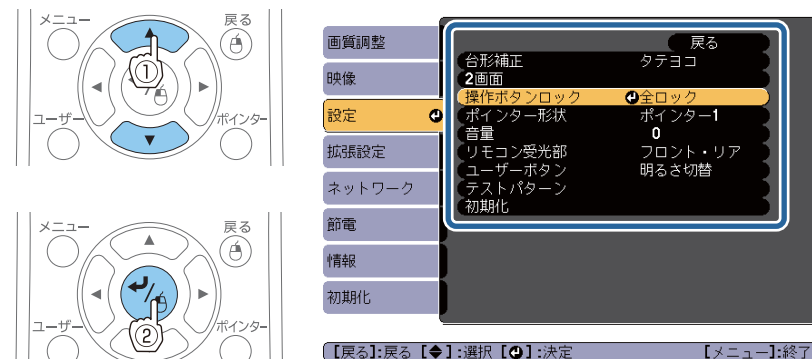
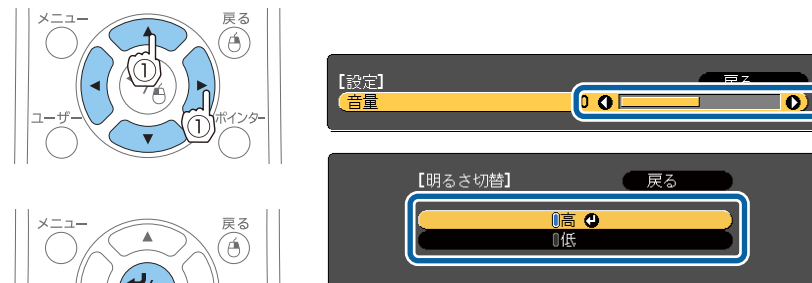
Event ID	要因	対処法
0432 0435	EasyMP Network Projectionの起動に失敗しました。	プロジェクターを再起動してください。
0434 0481 0482 0485	ネットワークの通信状態が不安定です。	ネットワークの通信状態を確認して、しばらくしてから再接続してください。
0433	転送された画像を再生できません。	EasyMP Network Projectionを再起動してください。
0484	コンピューターから通信が切断されました。	
0483 04FE	EasyMP Network Projectionが予期せず終了しました。	ネットワークの通信状態を確認して、プロジェクターを再起動してください
0479 04FF	プロジェクターにシステムエラーが発生しました。	プロジェクターを再起動してください。
0891	同じSSIDのアクセスポイントが見つかりません。	コンピューターやアクセスポイントとプロジェクターを同じSSIDに設定してください。
0892	WPA/WPA2の認証方式が一致しません。	無線LANセキュリティーの設定が正しいか確認してください。 ☛［セキュリティー］p.98
0893	WEP/TKIP/AESの暗号化方式が一致しません。	
0894	不正なアクセスポイントに接続したため通信が切断されました。	ネットワーク管理者に確認して指示に従ってください。
0898	DHCPの取得に失敗しました。	DHCPサーバーが正しく動作しているか確認してください。DHCPを使用しないときは、DHCPの設定をオフにしてください。 ☛［無線LAN］-［IP設定］p.96
0899	その他、接続に関するエラー	プロジェクターまたはEasyMP Network Projectionを再起動しても問題が解決しない場合は、次に記載の連絡先にお問い合わせください。 ☛『お問い合わせ先』

環境設定メニュー

ここでは、環境設定メニューの機能と操作方法について説明しています。

環境設定メニューの操作方法を説明します。

リモコンで操作を行ったときを例に説明していますが、操作パネルでも同様の操作を行えます。使用できるボタンと操作はメニューの下に表示されるガイドでご確認ください。

1 環境設定メニュー画面を表示します。

2 トップメニュー項目を選択します。

3 サブメニュー項目を選択します。

4 設定を変更します。

5 【メニュー】ボタンを押して、設定を終了します。

環境設定メニュー一覧

お使いの機種、現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
画質調整メニュー ☛ p.88	カラーモード	ダイナミック、リビング、シネマ、ゲーム、3Dダイナミック、3Dシネマ
	明るさ	-24〜24
	コントラスト	-24〜24
	色の濃さ	-32〜32
	色合い	-32〜32
	シャープネス	-5〜5
	色温度	高、中、低
	カラー調整	赤：-16〜16 緑：-16〜16 青：-16〜16
	オートアイリス	オフ、標準、高速
映像メニュー ☛ p.89	3D設定	3D表示、2D-3D変換、3D方式設定、3D奥行き調整、映像サイズ、3D明るさ調整、3Dメガネ左右反転、3D視聴上の注意
	自動調整	オン、オフ
	入力解像度	オート、ワイド、ノーマル
	トラッキング	-
	同期	0〜31
	表示位置	上、下、左、右
	プログレッシブ変換	オフ、ビデオ、フィルム/オート
	ノイズリダクション	オフ、NR1、NR2
	HDMI ビデオレベル	オート、通常、拡張
	入力信号方式	オート、RGB、コンポーネント
	ビデオ信号方式	オート、NTSC、NTSC4.43、PAL、M-PAL、N-PAL、PAL60、SECAM
	アスペクト	ノーマル、オート、16:9、フル、ズーム、リアル
	オーバースキャン	オート、オフ、4%、8%
	ターボモード	オン、オフ
設定メニュー ☛ p.91	台形補正	タテヨコ、Quick Corner
	2画面	-
	操作ボタンロック	全ロック、操作ロック、オフ
	ポインター形状	ポインター1、ポインター2、ポインター3
	音量	0〜10
	リモコン受光部	フロント・リア、フロント、リア、オフ
	ユーザーボタン	明るさ切替、情報、プログレッシブ変換、テストパターン、入力解像度、3D方式設定、QRコード表示
	テストパターン	-
拡張設定メニュー ☛ p.92	表示設定	メッセージ表示、背景表示、スタートアップスクリーン、A/Vミュート
	ユーザーロゴ	-
	設置モード	フロント、フロント・天吊り、リア、リア・天吊り

トップメニュー名	サブメニュー名	項目または設定値
	動作設定	ダイレクトパワーオン、高地モード、起動時入力検出、オートパワーオン
	USB Type B	USB Display、Link 21L
	言語	15言語
節電メニュー ☛ p.101	明るさ切替	高、低
	ライトオプティマイザー	オン、オフ
	スリープモード	オン、オフ
	スリープモード時間	1～30
	レンズカバータイマー	オン、オフ
	A/Vミュートタイマー	オン、オフ
	待機モード	通信オン、通信オフ
	節電表示	オン、オフ
情報メニュー ☛ p.102	プロジェクター情報	ランプ点灯時間、入力ソース、入力信号、入力解像度、ビデオ信号方式、リフレッシュレート、3D方式、同期情報、ステータス、シリアル番号、Event ID
	バージョン	-
初期化メニュー ☛ p.102	全初期化	-
	ランプ点灯時間初期化	-

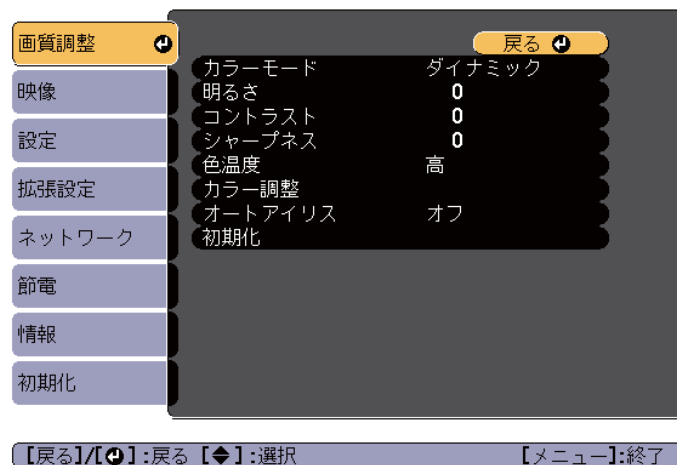
ネットワークメニュー

トップメニュー名	サブメニュー名	設定値
基本設定メニュー ☛ p.95	プロジェクター名	-
	Web制御パスワード	-

トップメニュー名	サブメニュー名	設定値
	プロジェクターキーワード	オン、オフ
	LAN情報表示	テキストとQRコード、テキスト
無線LANメニュー ☛ p.96	接続モード	かんたんモード、マニュアルモード
	チャンネル設定	1ch、6ch、11ch
	自動SSID設定	オン、オフ
	SSID	-
	アクセスポイント検索	-
	IP設定	DHCP、IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス
	SSID表示	オン、オフ
	IPアドレス表示	オン、オフ
セキュリティーメニュー ☛ p.98	セキュリティー	なし、WPA2-PSK、WPA/WPA2-PSK
	パスフレーズ	-
メールメニュー ☛ p.99	メール通知機能	オン、オフ
	SMTPサーバー	-
	ポート番号	-
	宛先1設定、宛先2設定、宛先3設定	-
その他メニュー ☛ p.99	SNMP	オン、オフ
	トラップIPアドレス1、トラップIPアドレス2	-
	Bonjour	オン、オフ
	Message Broadcasting	オン、オフ

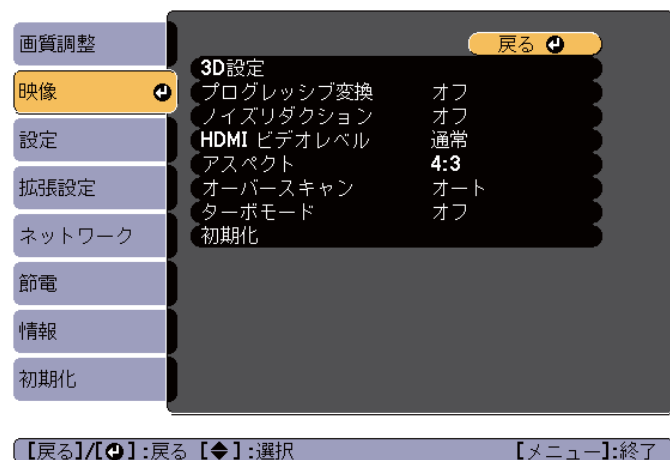
画質調整メニュー

現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。

サブメニュー	機能
カラーモード	使用シーンに応じて、画質を選択できます。 ☛「映り具合を選ぶ（カラーモードの選択）」p.45
明るさ	映像の明るさを調整します。
コントラスト	映像の明暗の差を調整します。
色の濃さ	映像の色の濃さを調整します。
色合い	（コンポーネントビデオ信号入力時に調整可能。コンポジットビデオ/S-ビデオ信号入力時は、NTSC系の信号入力時のみ調整可能） 映像の色合いを調整します。
シャープネス	映像のシャープ感を調整します。

サブメニュー	機能
色温度	映像全体の色合いを調整します。[高]、[中]、[低]の3段階で調整することができます。[高]を選択すると青みがかった映像になり、[低]を選択すると赤みを帯びた映像になります。
カラー調整	[赤]、[緑]、[青]の色の強さを個別に調整します。
オートアイリス	[標準]または[高速]にすると、映像に合わせて最適な光量に調整します。映像のシーン変化に対してより早く光量を調整するときは[高速]を選択してください。 設定値はカラーモードごとに保存されます。 ☛「オートアイリス（自動絞り）を設定する」p.46
初期化	[画質調整]メニューの調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛「初期化メニュー」p.102

映像メニュー

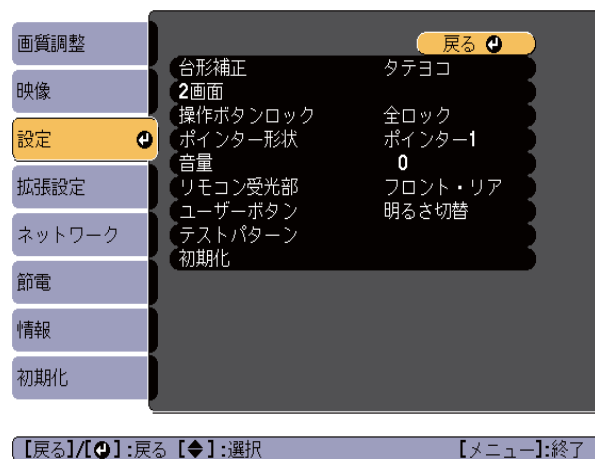
現在投写している映像信号や入力ソースにより設定できる項目が異なります。設定した内容は映像信号ごとに保持されます。

入力ソースがUSB Display/USB/LANのときは映像メニューの設定は行えません。

サブメニュー	機能
自動調整	[オン]にすると、入力信号が切り替わったときに、トラッキング・同期・表示位置を最適な状態に自動調整します。
入力解像度	[オート]にすると、入力信号の解像度を自動で判別します。[オート]に設定していて投写映像が欠けるときは、接続しているコンピューターに合わせてワイド画面は[ワイド]に、4:3や5:4画面は[ノーマル]に設定してください。
トラッキング	映像に縦の縞模様が出るときに調整します。
同期	映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。
表示位置	映像の一部が欠けているときに表示位置を上下左右に移動し映像がすべて投写されるように調整します。

サブメニュー	機能
3D設定	3D映像を視聴するときに設定します。 [3D表示]:3Dコンテンツを視聴するときは[オン]に設定します。[オフ]に設定したときは、3D入力信号が入力されたときも2Dで投写されます。 [2D-3D変換]:([3D表示]が[オン]、[3D方式設定]が[オート]または[2D]に設定されているときのみ設定可能。)2D映像を3D映像に変換して投写します。立体感の強さを[弱]、[中]、[強]から選択します。 [3D方式設定]:3D入力信号のフォーマットを選択します。[オート]に設定したときは、入力信号に合わせて自動でフォーマットが選択されます。通常は[オート]を選択してください。 [3D奥行き調整]:3D映像の奥行きを設定します。 [映像サイズ]:3D映像の投写サイズを設定します。3D映像の実サイズに合わせることで、実コンテンツに忠実な3D映像を投写できます。 [3D明るさ調整]:投写映像の明るさを調整します。 [3Dメガネ左右反転]:3Dメガネのシャッターが開くタイミングを、左右で入れ替えます。3D映像が正しく視聴できないときに実行してください。 [3D視聴上の注意]:視聴上の注意文を表示するときは[オン]に設定します。注意文は3D映像を投写するときに表示されます。
プログレッシブ変換	(コンポーネントビデオ/RGBビデオ信号入力時は、480i/576i/1080i信号入力時のみ設定可能。デジタルRGB信号入力時は設定不可。) インターレース(i)信号をプログレッシブ(p)信号に変換します。(IP変換) [オフ]:動きの大きい映像に適しています。 [ビデオ]:一般のビデオ映像に適しています。 [フィルム/オート]:映画フィルムやCG、アニメーション映像に適しています。

サブメニュー	機能
ノイズリダクション	(デジタルRGB信号入力時、インターレース信号表示中で[プログレッシブ変換]が[オフ]のときは設定不可) ([カラーモード]が[ゲーム]に設定されているときは設定不可) 映像のざらつきを抑えます。モードを2つ用意しています。お好みの設定でご覧ください。DVDなど映像ソースにノイズが少ないときは[オフ]に設定してご覧ください。
HDMI ビデオレベル	本機のHDMI/MHL入力端子とDVDプレーヤーなどを接続しているときに、DVDプレーヤーのビデオレベルの設定に合わせて本機のビデオレベルを設定します。
入力信号方式	コンピューター入力端子からの入力信号を選択します。 [オート]にすると、接続機器に応じて自動的に入力信号を設定します。 [オート]に設定していて、色が正しく表示されないときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。
ビデオ信号方式	ビデオ入力端子からの入力信号を選択します。[オート]にすると、ビデオ信号を自動認識します。[オート]に設定していて、映像にノイズが入ったり、映像が映らないなどのトラブルが起きるときは、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。
アスペクト	映像のアスペクト比▸▸を設定します。 ☛「投写映像のアスペクト比を切り替える」p.47
オーバースキャン	出画率(投写する映像の範囲)を変更します。トリミングする範囲の設定を、[オフ]、[4%]、[8%]のいずれかに変更できます。入力ソースがHDMIのときは[オート]が選択できるようになります。[オート]を選択すると入力信号に応じて自動的に[オフ]あるいは[8%]に切り替わります。

サブメニュー	機能
ターボモード	([カラーモード]が[ゲーム]に設定されているときのみ設定可能。) 映像の表示速度を早くします。映像処理の遅延が気になるときは[オン]に設定してください。[オン]にしたときは、[ヨコ補正]、[Quick Corner]の設定が無効になります。
初期化	[映像]メニューのうち、[入力信号方式]を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛「初期化メニュー」p.102

設定メニュー

サブメニュー	機能
台形補正	台形にゆがんだ画面を補正します。 • [タテヨコ]選択時： [タテ補正]、[ヨコ補正]を調整して縦・横方向のゆがみを補正します。 また、自動タテ補正とスライド式ヨコ補正の[オン]・[オフ]を設定します。 • [Quick Corner]選択時： 投写映像の4つの角を選んで補正します。 ☛「Quick Corner」p.42
2画面	2画面投写に切り替えます。 ☛「2種類の映像を同時に投写する（2画面）」p.50
操作ボタンロック	本機操作パネルの操作制限を設定します。 ☛「操作を制限する（操作ボタンロック）」p.75
ポインター形状	ポインターの形状を選択します。 ポインター1： ポインター2： ポインター3： ☛「説明箇所を指し示す（ポインター）」p.68
音量	音量を調整します。設定した内容は入力ソースごとに保持されます。
リモコン受光部	リモコンからの操作信号の受信を制限します。 [オフ]に設定すると、リモコンからの操作ができなくなります。リモコンから操作したいときは、リモコンの【メニュー】ボタンを15秒以上押して、設定を初期値に戻してください。
ユーザーボタン	リモコンの【ユーザー】ボタンに割り当てる環境設定メニューの項目を選択します。【ユーザー】ボタンを押すと割り当てたメニュー項目の選択/調整画面が直接表示されるのでワンタッチで設定/調整の変更が行えます。【ユーザー】ボタンに割り当てることのできるのは以下の項目です。 [明るさ切替]、[情報]、[プログレッシブ変換]、[テストパターン]、[入力解像度]、[3D方式設定]、[QRコード表示]
テストパターン	本機を設置する際に、機器を接続せずに投写状態を調整できるようにテストパターンを表示します。テストパターン表示中はズーム調整、フォーカス調整、台形補正が行えます。テストパターンの表示を解除するときは、リモコンまたは操作パネルの【戻る】ボタンを押します。 **注意** 長時間パターンを表示していると投写映像に残像が残ることがあります。

サブメニュー	機能
初期化	[設定]メニューのうち、[ユーザーボタン]を除くすべての調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛「初期化メニュー」p.102

拡張設定メニュー

サブメニュー	機能
表示設定	本機の表示に関する設定を行います。 [メッセージ表示]：[オフ]に設定すると、次の表示がされなくなります。 入力ソースやカラーモード、アスペクト比を切り替えたときの項目名の表示、映像信号が入力されていないときなどのメッセージの表示、高温警告などの警告表示。 [背景表示]※1：映像信号が入力されていないときなどの画面の状態を[黒]、[青]、[ロゴ]のいずれかで設定します。 [スタートアップスクリーン]※1：[オン]にすると、投写開始時に[ユーザーロゴ]を表示します。 [A/Vミュート]※1：リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押したときに表示する画面を[黒]、[青]、[ロゴ]のいずれかで設定します。
ユーザーロゴ※1	背景表示、A/Vミュート時などに表示するユーザーロゴを変更します。 ☛「ユーザーロゴの登録」p.71
設置モード	本機の設置状態に合わせて次の中から設定します。 [フロント]、[フロント・天吊り]、[リア]、[リア・天吊り] リモコンの【A/Vミュート】ボタンを約5秒間押し続けると、天吊りの設定を次のように切り替えることができます。 [フロント]↔[フロント・天吊り] [リア]↔[リア・天吊り] ☛「いろいろな設置方法」p.22

サブメニュー	機能
動作設定	[ダイレクトパワーオン]：[オン]にすると、電源プラグを差し込むだけで本機の電源が入ります。 停電復旧時などにコンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると本機の電源がオンになりますので、注意してください。 [高地モード]：標高約1500m以上でお使いの場合は[オン]にします。 [起動時入力検出]：[オン]にすると、起動時に映像信号が入力されている入力端子の映像を投写します。[オフ]にすると、起動時に前回と同じ入力ソースの映像を投写します。 [オートパワーオン]：([待機モード]が[通信オン]のときのみ設定可能。)[コンピューター]に設定すると、本機がスタンバイ状態でもコンピューター入力端子からの映像信号を受信したときに本機の電源が入ります。
USB Type B	[USB Display]：USBディスプレイが有効になります。 ☛「USBディスプレイで投写する」p.35 [Link 21L]：ESC/VP21コマンドが有効になります。 ☛「ESC/VP21コマンド」p.81
言語	メッセージやメニューに表示する言語を設定します。
初期化	[拡張設定]メニューのうち、[表示設定]※1、[動作設定]※2の調整値を初期値に戻します。 全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛「初期化メニュー」p.102

※1 [パスワードプロテクト]の[ユーザーロゴ保護]を[オン]にしていると、ユーザーロゴに関する設定の変更はできません。[ユーザーロゴ保護]を[オフ]にしてから設定を変更してください。

☛「利用者を管理する（パスワードプロテクト）」p.73

※2 高地モード、起動時入力検出は除く。

ネットワークメニュー

[パスワードプロテクト]の[ネットワーク保護]を[オン]に設定していると、メッセージが表示されネットワークの設定を変更することはできません。[ネットワーク保護]を[オフ]にしてからネットワークの設定を行ってください。

☛「パスワードプロテクトの設定方法」p.73

サブメニュー	機能
無線電源	本機とコンピューターを無線LANで接続して使用するときは[無線LANオン]に設定します。無線LANで接続しないときは、[オフ]に設定しておくと他人からの不正なアクセス等を防ぐことができます。初期値は[無線LANオン]に設定されています。

サブメニュー	機能
ネットワーク情報 - 無線LAN	以下のネットワーク設定状況を表示します。 • 接続モード • 無線LAN方式 • アンテナレベル • プロジェクター名 • SSID • DHCP • IPアドレス • サブネットマスク • ゲートウェイアドレス • MACアドレス • 地域コード※
QRコード表示	QRコードを表示します。
ネットワーク設定画面へ	以下の項目についてネットワークの設定を行います。 [基本設定]、[無線LAN]、[セキュリティー]、[メール]、[その他]、[初期化]、[設定完了]

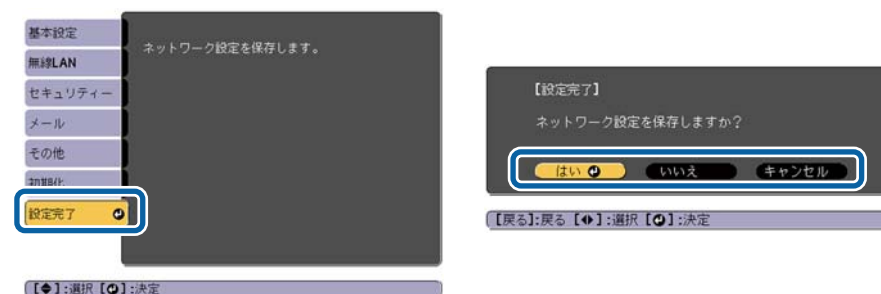
※ お使いの無線LANユニットの、利用可能な地域情報を表示します。詳細は、次に記載の連絡先にお問い合わせください。

☛『お問い合わせ先』

- 本機とネットワーク接続したコンピューターのWebブラウザーから本機の設定や制御が行えます。この機能をWeb制御と呼びます。Web制御はキーボードを使って設定内容を入力できるので、セキュリティーの設定など文字の入力を伴う設定も容易に行えます。
  ☛「Webブラウザーを使って設定を変更する(Web制御)」p.77
- ネットワーク設定についての詳細は、ネットワーク管理者へご確認ください。

ネットワークメニュー操作上のご注意

トップメニューやサブメニューの選択、選択した項目を変更する操作は環境設定メニューと同様に行います。

ただし、終了する際には必ず[設定完了]メニューを選択して、[はい]、[いいえ]、[キャンセル]のいずれかを選択します。[はい]または[いいえ]を選択すると、環境設定メニューに戻ります。

[はい]: 設定を保存してネットワークメニューを終了します。

[いいえ]: 設定を保存しないでネットワークメニューを終了します。

[キャンセル]: ネットワークメニューを続けます。

ソフトキーボードの操作

ネットワークメニューでは英数字を入力して設定する項目があります。その際には以下のようなソフトキーボードが表示されます。リモコンの【 】【 】【 】【 】ボタンまたは操作パネルの【 】【 】【 】【 】ボタンを押します。ボタンで目的のキーにカーソルを移動し、【 】ボタンを押して入力します。数字は、リモコンの【Num】ボタンを押したまま、テンキー部の数字のボタンを押して入力することもできます。入力後

キーボードの[Finish]を選択すると入力が確定します。キーボードの[Cancel]を選択すると入力は取り消されます。

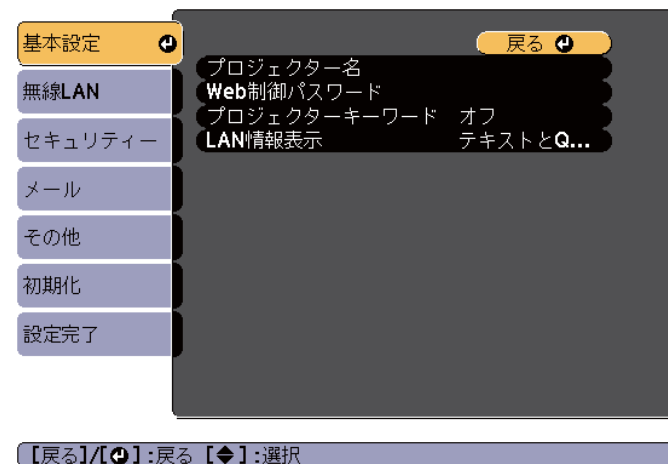
- [CAPS]キーを選択して【↵】ボタンを押すたびに、アルファベットキーの大文字/小文字が切り替わります。
- [SYM1/2]キーを選択して【↵】ボタンを押すたびに、枠で囲った部分の記号キーが切り替わります。

入力できる文字の種類は以下のとおりです。

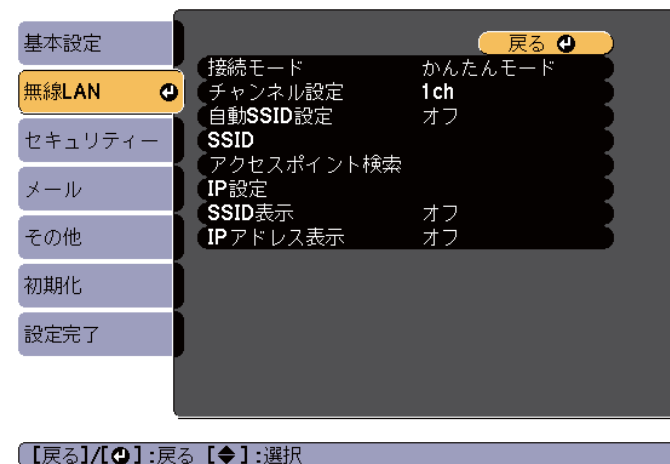
数字	0123456789
アルファベット	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
記号	! # $ % & '( ) + - . / < = > ? @ ^ _ ` { | } ~

- :とスペースは、[SSID]を除くネットワークメニューでは入力できません。
- 一部の記号(" * , ; [\ ])はソフトキーボードで入力できません。Webブラウザーを使って入力してください。

☛「Webブラウザーを使って設定を変更する(Web制御)」p.77

基本設定メニュー

サブメニュー	機能
プロジェクター名	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名前を表示しています。 変更するときは、半角英数字16文字以内で入力します(" * + , / ; < = > ? [\ ] ` | は使用不可)。
Web制御パスワード	Web制御で本機を設定・制御するときの認証用パスワードを設定します。半角英数字8文字以内で入力します(*は使用不可)。Web制御はネットワークで接続しているコンピューターのWebブラウザーを利用して、コンピューターから本機を設定・制御する機能です。 ☛「Webブラウザーを使って設定を変更する(Web制御)」p.77
プロジェクターキーワード	[オン]に設定していると、本機とコンピューターをネットワークで接続しようとしたとき、キーワードの入力が求められます。これにより他のコンピューターからの接続でプレゼンテーションが妨害されるのを防ぐことができます。 通常は[オン]に設定してお使いください。

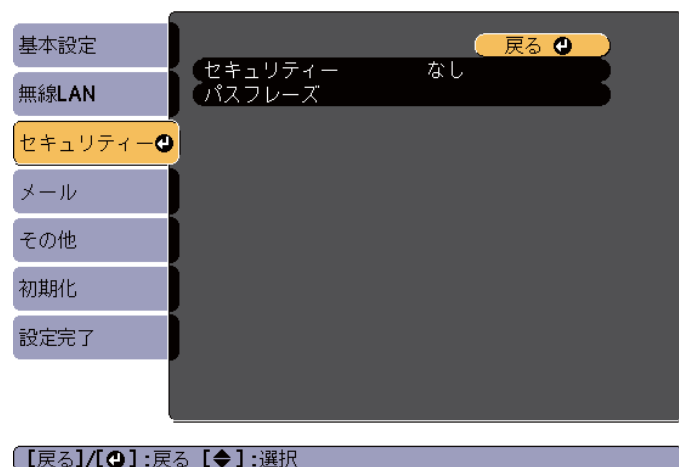
サブメニュー	機能
LAN情報表示	本機のネットワーク情報の表示形式を設定します。QRコードを表示させると、Epson iProjectionでQRコードを読み取るだけでネットワーク接続ができるようになります。初期値は、[テキストとQRコード]に設定されています。 ☛「QRコードを使って投写する」p.65

無線LANメニュー

サブメニュー	機能
接続モード	本機とコンピューターを無線LANで接続するときの接続モードを設定します。 [かんたんモード]を選択すると、プロジェクターとコンピューターによる小規模なネットワークを自動的に構成します。EasyMP Network Projectionと組み合わせて用います。[自動SSID設定]が[オン]の場合は、プロジェクターが簡易なアクセスポイントとなり、[オフ]の場合はアドホックモードで構成されます。 [マニュアルモード]を選択すると、設置されているアクセスポイントとインフラストラクチャーモードで接続します。
チャンネル設定	([接続モード]を[かんたんモード]に設定しているときのみ設定可能) 無線LANで使用する周波数の帯域を[1ch]、[6ch]、[11ch]から選択します。 初期値は[11ch]に設定されています。

サブメニュー	機能
自動SSID設定	([接続モード]を[かんたんモード]に設定しているときのみ設定可能) [オン]に設定すると複数のプロジェクターの中からより早く本機を検索することができます。SSIDは自動的に設定されます。 かんたんモードで1台のコンピューターから複数のプロジェクターに接続するときは、[オフ]に設定し、接続する全てのプロジェクターに同一のSSIDを設定してください。
SSID	([自動SSID設定]を[オフ]に設定しているときのみ設定可能) SSIDを入力します。本機が参加する無線LANシステムでSSIDが定められているときは、そのSSIDを入力します。 半角英数字で最大32文字まで入力できます(^はWebブラウザーからのみ入力可能)。
アクセスポイント検索	([無線電源]を[無線LANオン]に設定し、[接続モード]を[マニュアルモード]に設定しているときのみ設定可能) 近くにあるアクセスポイントを検索します。無線LANの接続先を選択することで、簡単に無線LAN設定ができるようになります。

サブメニュー	機能
IP設定	([接続モード]を[マニュアルモード]に設定しているときのみ設定可能) ネットワークの設定を行います。 [DHCP]:[オン]にすると、DHCPを使用してネットワークを設定します。ここで[オン]に設定すると以降のアドレスの設定はできなくなります。 [IPアドレス]:本機に割り当てるIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字) [サブネットマスク]:本機のサブネットマスクを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用できません。 0.0.0.0、255.255.255.255 [ゲートウェイアドレス]:本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のゲートウェイアドレスは使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
SSID表示	LAN待機画面上にSSIDを表示させないときは、[オフ]に設定します。
IPアドレス表示	LAN待機画面上にIPアドレスを表示させないときは、[オフ]に設定します。

セキュリティーメニュー

無線LANユニットを装着しているときのみ有効です。

サブメニュー	機能
セキュリティー	セキュリティーの種類を表示される項目から選択します。 セキュリティーの設定は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従ってください。

サブメニュー	機能
パスフレーズ	パスフレーズを入力します。半角英数字で8文字以上、最大63文字まで入力できます。 EasyMP Network Projectionと組み合わせて使う場合、初期状態のパスフレーズであればコンピューター側でのパスフレーズ入力を省略することができます。 セキュリティーを確保するために、パスフレーズは定期的に変更することをお勧めします。ネットワーク設定の初期化を行うと、初期状態のパスフレーズに戻ります。 ☛「初期化メニュー」p.100 環境設定メニューで入力できる文字数は最大32文字です。32文字以上の入力をするときは、Webブラウザーを使って入力します。 ☛「Webブラウザーを使って設定を変更する（Web制御）」p.77 かんたんモード時には、初期状態でパスフレーズが設定されています。

セキュリティーの種類

無線LANユニットをお使いの際は、必ずセキュリティーの設定を行うことをお奨めします。

WPAは無線ネットワークのセキュリティー強度を向上するための暗号化規格です。本機は暗号化方式TKIPとAESに対応しています。

WPAは、ユーザー認証機能も備えています。WPAの認証方式には、認証サーバーを使う方法と、認証サーバーは使わずコンピューターとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバーを使わない認証方法に対応しています。

各設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。

メールメニュー

本機が異常/警告状態になったときに、ここで通知先を設定すると電子メールで通知されます。

☛「メール通知機能で異常を通知する」p.80

サブメニュー	機能
メール通知機能	[オン]にすると、プロジェクターが異常/警告状態になったときに、設定した宛先にメールで通知します。
SMTPサーバー	本機が使うSMTPサーバーのIPアドレス▸▸を入力します。 アドレスの各フィールドには0〜255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0〜255.255.255.255(xは0〜255の数字)
ポート番号	SMTPサーバーのポート番号を入力します。初期値は25です。1〜65535までの有効な数値を入力できます。

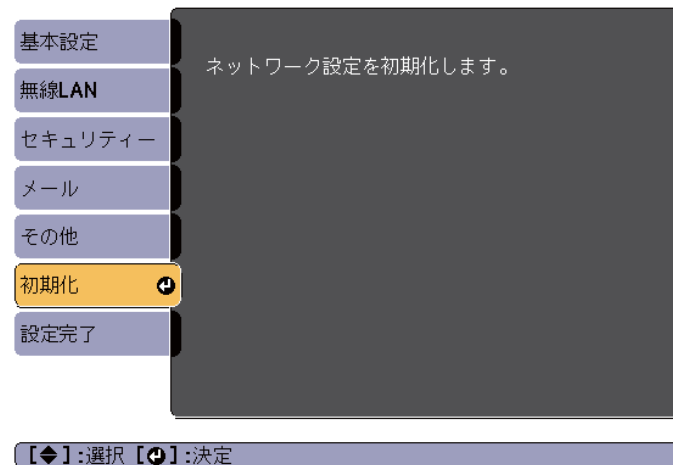
サブメニュー	機能
宛先1設定/宛先2設定/宛先3設定	通知メールの送信先のメールアドレスを入力します。送信先は最大3件まで登録できます。メールアドレスは最大32文字まで入力できます(" ( ) , ; < > [\ ] は使用不可)。 メールで通知する本機の異常/警告を選択します。選択した異常/警告が本機で起きたときに、宛先メールアドレスで指定したメールアドレスに異常/警告が発生したことを通知します。表示されている項目より、複数選択できます。

その他メニュー

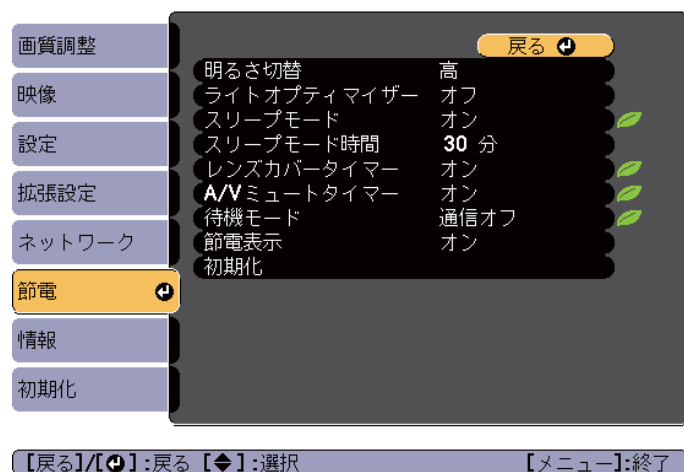
サブメニュー	機能
SNMP	[オン]にすると、SNMPを使用して本機の監視をします。 本機を監視するには、コンピューター側にSNMPマネージャープログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者が行ってください。 初期値は[オフ]に設定されています。

サブメニュー	機能
トラップIPアドレス1/トラップIPアドレス2	SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを2つまで登録できます。アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。 127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255(xは0～255の数字)
Bonjour	Bonjourによるネットワーク接続を行うときは[オン]に設定します。 Bonjourサービスの詳しい説明については、Apple社のWebサイトをご覧ください。 ☛ http://www.apple.com/
Message Broadcasting	EPSON Message Broadcasting機能の有効、無効を切り替えます。

初期化メニュー

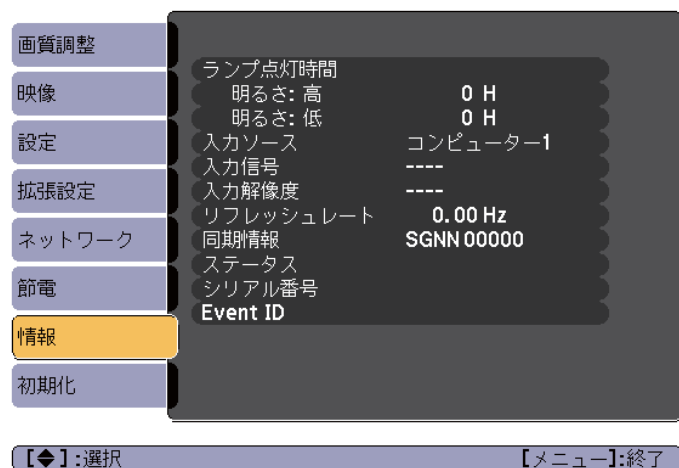
ネットワークの設定をすべて初期化します。

サブメニュー	機能
ネットワーク設定を初期化します。	ネットワーク設定をすべて初期化するときは[はい]を選択します。

節電メニュー

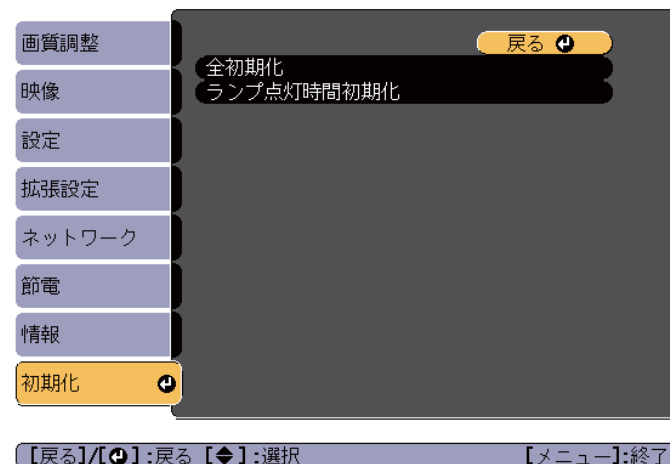
節電メニューを設定すると、本機の消費電力を抑える効果を発揮します。節電効果が有効な設定にしているときは、各サブメニューの横に葉っぱのアイコンが表示されます。

サブメニュー	機能
明るさ切替	ランプの明るさを2段階で切り替えることができます。暗い部屋で投写したり小さなスクリーンに映す場合に、投写映像が明るすぎるときは[低]に設定します。[低]で使用すると、投写中の消費電力とファン回転音が低下します。 高地や高温な場所でお使いのときは、設定が変更できなくなる場合があります。
ライトオプティマイザー	([明るさ切替]を[高]に設定しているときのみ設定可能) [オン]に設定すると、投写する映像に応じてランプの明るさを調整します。状況に応じてランプを低輝度で動作させることにより、消費電力を軽減させることができます。 設定値はカラーモードごとに保存されます。
スリープモード	[オン]に設定すると、映像信号が未入力のまま、一定時間操作しないときに自動で電源を切ります。また、映像信号が未入力状態で約5分間経つと、電源が切れるまでランプの明るさを抑えて動作します。映像信号が入力されたときは、通常の動作状態に戻ります。
スリープモード時間	[スリープモード]を[オン]にしたときに、自動で電源を切るまでの時間を1～30分の範囲で設定します。
レンズカバータイマー	[オン]に設定すると、レンズカバーを閉めてから約30分後に自動で電源を切ります。また、レンズカバーを閉めてから約5分間経つと、電源が切れるまでランプの明るさを抑えて動作します。レンズカバーを開けたときは、通常の動作状態に戻ります。
A/Vミュートタイマー	[オン]に設定すると、A/Vミュートを実行してから約30分後に自動で電源を切ります。また、A/Vミュートを実行すると、電源が切れるまでランプの明るさを抑えて動作します。A/Vミュートを解除したときは、通常の動作状態に戻ります。
待機モード	[通信オン]に設定すると、本機がスタンバイ状態のときでも、コンピューターから本機を監視・制御できます。 ☛「監視と制御」p.77
節電表示	[オン]に設定すると、ランプの明るさが通常状態から低輝度または低輝度から通常状態に変わるときに、節電状況を表す葉っぱのアイコンを投写画面の左下に表示します。
初期化	[節電]メニューの調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは以下を参照してください。 ☛「初期化メニュー」p.102

情報メニュー(表示のみ)

投写している映像信号や本機の状態を確認できます。現在投写している入力ソースにより表示される項目が異なります。お使いの機種により対応していない入力ソースもあります。

☛「入力信号を自動検出して切り替える(入力検出)」p.34

サブメニュー	機能
プロジェクター情報	以下の情報を表示します。 • ランプ点灯時間※ • 入力ソース • 入力信号 • 入力解像度 • ビデオ信号方式 • リフレッシュレート • 3D方式 • 同期情報 • ステータス • シリアル番号 • Event ID
バージョン	本機のファームウェアバージョンを表示します。

※ 累積使用時間が0～10時間までは「0H」と表示されます。10時間以上は「10H」、「11H」と1時間単位で表示されます。

初期化メニュー

サブメニュー	機能
全初期化	環境設定メニューの全項目を初期設定に戻します。 [入力信号方式]、[ユーザーロゴ]、[ランプ点灯時間]、[言語]、[パスワード]、[ユーザーボタン]、[ネットワーク]メニューの全項目は初期値に戻りません。
ランプ点灯時間初期化	ランプ点灯時間の累積をクリアします。ランプを交換したときに行ってください。

1台のプロジェクターで設定した環境設定メニューの内容を、他の複数のプロジェクターに一括で設定できます(一括設定機能)。一括設定機能は同じ型番のプロジェクター間でのみ使用できます。

以下のいずれかの方法で設定します。

- USBメモリーを使って設定する。
- コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する。

本書では、USBメモリーを使う方法とUSBケーブルを使う方法を説明します。

- 以下の内容は一括設定機能では反映されません。
  ・ネットワークメニューの設定(メールメニュー、その他メニューを除く)
  ・情報メニューのランプ点灯時間、ステータス
- 投写画面の調整を行う前に一括設定を行ってください。一括設定機能では、タテヨコ補正などの投写画面の調整値も反映されます。投写画面の調整後に一括設定を行うと、調整した投写画面が変わってしまうことがあります。
- 一括設定機能を使うと、登録してあるユーザーロゴも他のプロジェクターに反映されます。機密情報などをユーザーロゴとして登録しないでください。

 注意

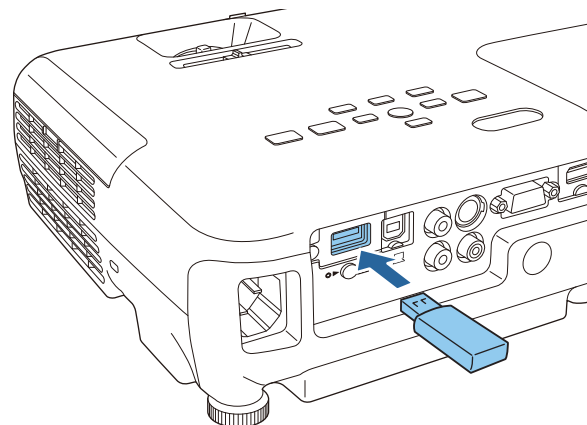
一括設定は、お客様の責任において行ってください。停電や通信異常などが原因で一括設定に失敗したときは、修理費用が有償となることがあります。

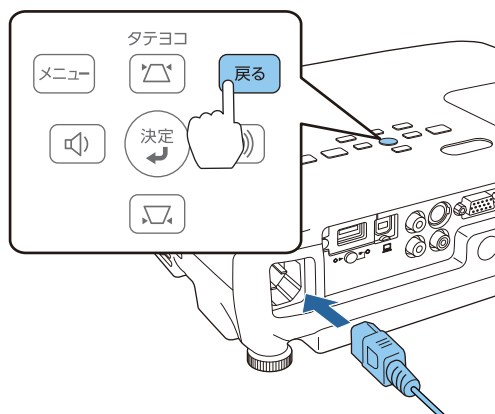
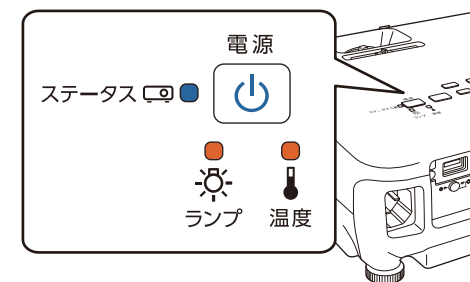
USBメモリーを使って設定する

USBメモリーを使って一括設定する方法を説明します。

- FAT 形式でフォーマットしたUSBメモリーを使用してください。
- セキュリティー機能が付いているUSBメモリーでは、一括設定機能が利用できません。セキュリティー機能の付いていないUSBメモリーをお使いください。
- USBカードリーダーやUSBハードディスクでは、一括設定機能は利用できません。

設定値をUSBメモリーに保存する

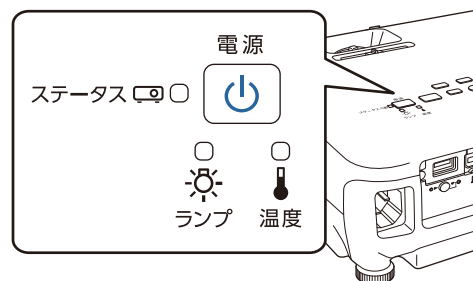
1. プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。
2. USBメモリーをプロジェクターのUSB-A端子に接続します。

- USB メモリーは、プロジェクターに直接接続してください。USB ハブを介してUSB メモリーを接続すると、設定値が正常に保存されないことがあります。
- 空のUSBメモリーを接続してください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく保存できないことがあります。
- USBメモリー内に他のプロジェクターの一括設定ファイルを保存しているときは、ファイルを削除するかファイル名を変更してください。一括設定機能では、一括設定ファイルの上書きはできません。
- 一括設定したファイルのファイル名はPJCONFDATA.binです。ファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後ろに任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、プロジェクターが正しく認識できないことがあります。
- 2バイト以上の文字は、ファイル名に使えません。

3 【戻る】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続します。

プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【戻る】ボタンを離してください。

電源：青 点灯　ステータス：青 点灯　ランプ：橙 点灯　温度：橙 点灯

インジケーターが点滅に変わると、一括設定ファイルの書き込みが始まります。

 注意

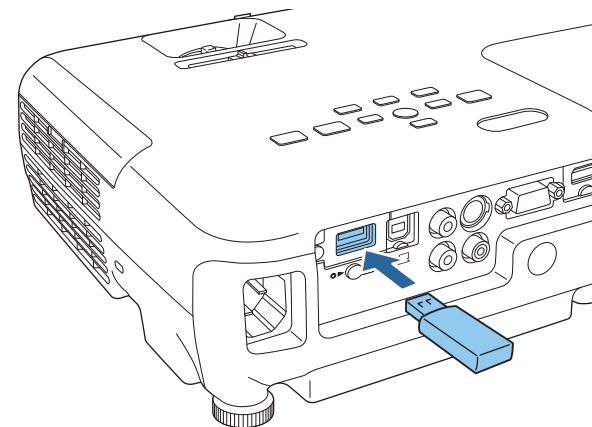
- ファイルの書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- ファイルの書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

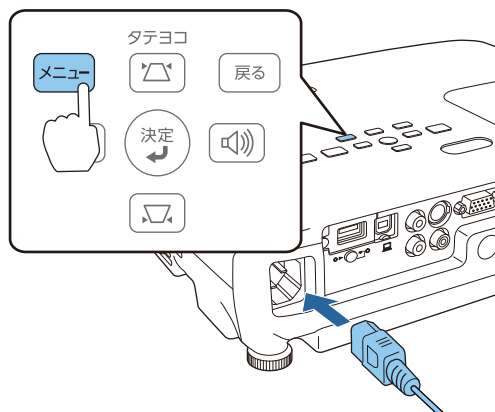
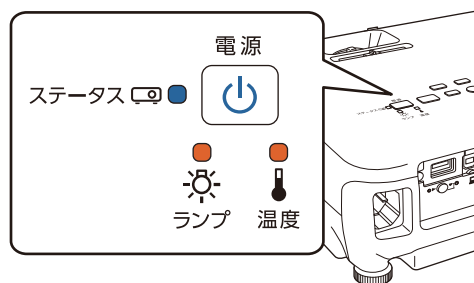
書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

電源：青 点灯

プロジェクターがスタンバイ状態になったら、USBメモリーを抜きます。

保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

1. **プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。**

2. **設定値が保存されているUSBメモリーを、プロジェクターのUSB-A端子に接続します。**

- USBメモリー内に一括設定ファイルが1〜3種類あるときは、同じ型番のプロジェクターのファイルを反映します。同じ型番のプロジェクターのファイルが2つ以上あるときは、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリー内に4種類以上の一括設定ファイルがあるときは、設定値が正常に反映できないことがあります。
- USBメモリーには一括設定ファイル以外のデータを入れないでください。一括設定ファイル以外のデータが入っていると、設定値が正しく反映できないことがあります。

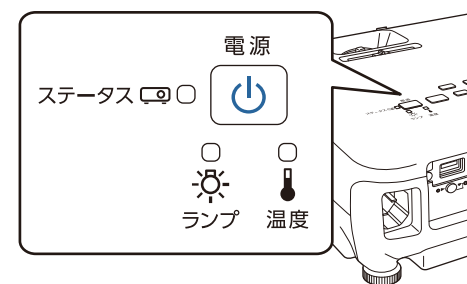
3 【メニュー】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続します。

プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。

電源：青 点灯　ステータス：青 点灯　ランプ：橙 点灯　温度：橙 点灯

インジケーターは、約75秒点灯します。

すべてのインジケーターが点滅に変わると、設定値の書き込みが始まります。

注意

- 設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。
- 設定値の書き込み中は、プロジェクターからUSBメモリーを抜かないでください。USBメモリーを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

4 書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

電源：青 点灯

プロジェクターがスタンバイ状態になったら、USBメモリーを抜きます。

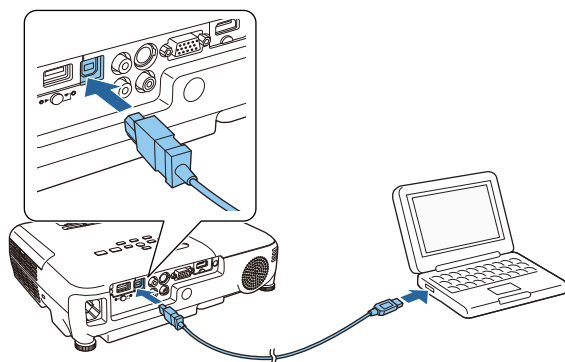
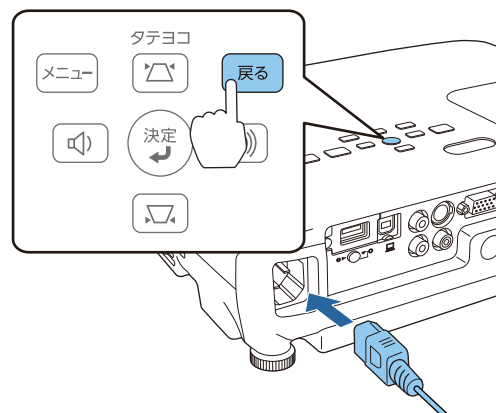
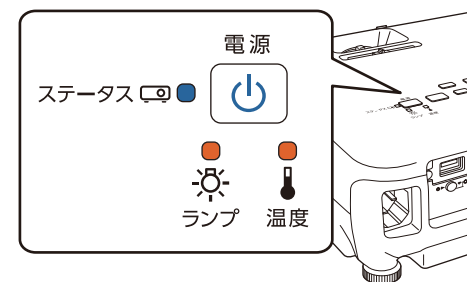
コンピューターとプロジェクターをUSBケーブルで接続して設定する

一括設定機能の対応OSは以下のとおりです。

- Windows Vista以降
- Mac OS X 10.5.3以降

設定値をコンピューターに保存する

1 **プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。**

2 **コンピューターのUSB 端子とプロジェクターのUSB-B 端子をUSBケーブルで接続します。**

3 **【戻る】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続します。**

プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【戻る】ボタンを離します。

電源：青 点灯　ステータス：青 点灯　ランプ：橙 点灯　温度：橙 点灯

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

4 **リムーバブルディスクを開き、コンピューターに一括設定ファイル(PJCONFDATA.bin)を保存します。**

一括設定ファイルのファイル名を変更するときはPJCONFDATAの後ろに任意の文字列を追加してください。他のファイル名に変更すると、正しく認識できないことがあります。

5 **コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜きます。**

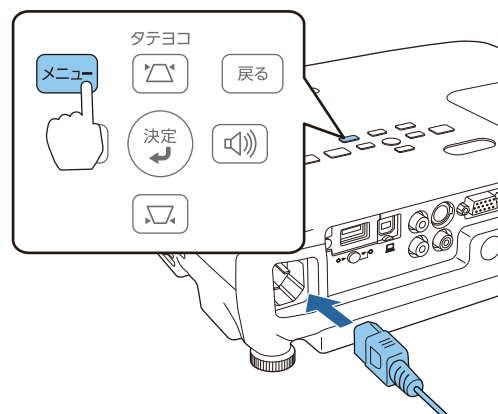
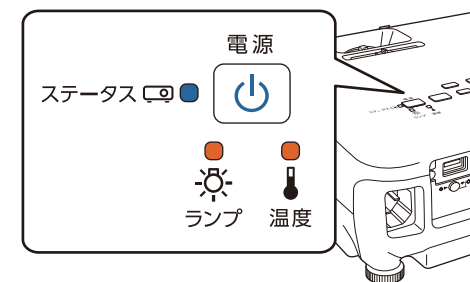
OS Xをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

プロジェクターがスタンバイ状態になります。

保存した設定値を他のプロジェクターに反映する

1 プロジェクターから電源コードを抜いて、プロジェクターのインジケーターがすべて消灯していることを確認します。

2 コンピューターのUSB 端子とプロジェクターのUSB-B端子をUSBケーブルで接続します。

3 【メニュー】ボタンを押したまま、プロジェクターに電源コードを接続します。

プロジェクターのインジケーターが以下のように点灯したら、【メニュー】ボタンを離します。

電源：青 点灯　ステータス：青 点灯　ランプ：橙 点灯　温度：橙 点灯

コンピューター上で、プロジェクターがリムーバブルディスクとして認識されます。

4 保存した一括設定ファイル(PJCONFDATA.bin)をリムーバブルディスクの最上位フォルダーにコピーします。

リムーバブルディスク上に、一括設定ファイル以外のファイルやフォルダーをコピーしないでください。

5 コンピューター上で「USBデバイスの取り外し」を行ってから、USBケーブルを抜きます。

OS Xをお使いの場合は、「"EPSON_PJ"の取り出し」を行ってください。

すべてのインジケーターが点滅に変わると、設定値の書き込みが始まります。

注意

設定値の書き込み中は、プロジェクターから電源コードを抜かないでください。電源コードを抜くと、プロジェクターが正常に起動しなくなることがあります。

書き込みが正常に終了すると、プロジェクターがスタンバイ状態になります。

設定がうまくいかないときは

エラーが生じたときは、インジケーターでお知らせします。インジケーターの状態をご確認ください。

インジケーターの状態	対処法
電源 ステータス ランプ　温度 ランプ：橙 速点滅 温度：橙 速点滅	一括設定ファイルに異常があるか、USBメモリーまたはUSBケーブルが正しく接続できていない可能性があります。USBメモリーまたはUSBケーブルを取り外し、プロジェクターの電源コードを抜いて差し直してから、もう一度お試しください。
電源 ステータス ランプ　温度 電源：青 速点滅 ステータス：青 速点滅 ランプ：橙 速点滅 温度：橙 速点滅	設定値の書き込みに失敗して、プロジェクターのファームウェアに異常が生じた可能性があります。ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。

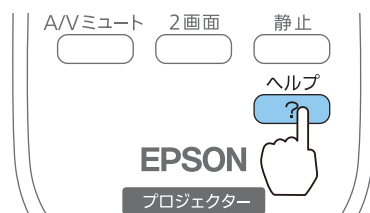
困ったときに

ここでは、想定されるトラブルと、その対処法などについて説明しています。

トラブル発生時の解決方法を投写映像に表示できます。質問に答えていくと適切な状態に設定することもできます。

1 **【ヘルプ】ボタンを押します。**

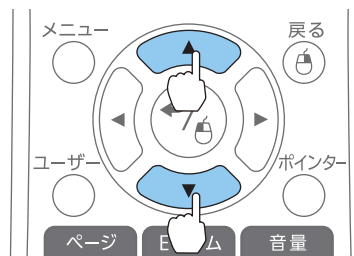
ヘルプ画面が表示されます。

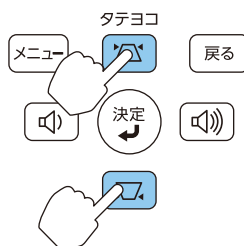
リモコンの場合

操作パネルの場合

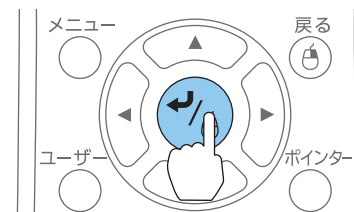
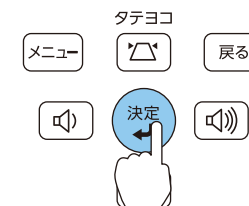
2 **項目を選択します。**

【ヘルプ】

映像が小さい。
映像が台形に投写される。
色合いがおかしい。
動画部分が表示されない。
音が出ない・小さい。

【◆】:選択 【↵】:決定 【ヘルプ】:終了

リモコンの場合

操作パネルの場合

3 **項目を決定します。**

リモコンの場合

操作パネルの場合

以下の画面のように質問と対処法が表示されます。
【ヘルプ】ボタンを押すとヘルプは解除されます。

映像が小さい。

ズームが最小になっていませんか？
・ズームリングで映像の大きさを変更してください。

プロジェクターがスクリーンに近すぎませんか？
・プロジェクターをスクリーンから離してください。

【戻る】:戻る 【ヘルプ】:終了

ヘルプ機能を使ってもわからないときは、以下をご覧ください。

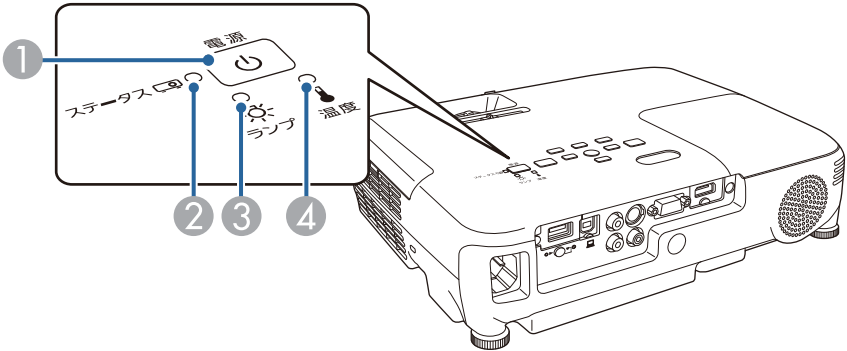
☛「故障かなと思ったら」p.112

故障かな？と思ったら、まず本機のインジケーターをご覧になり下記の「インジケーターの見方」で本機の状態をご確認ください。

インジケーターをご覧になってもわからないときは、以下をご覧ください。

☛「インジケーターを見てもわからないとき」p.116

インジケーターの見方

本機には、次の4種類のインジケーターがあります。インジケーターの色と点灯状態によって本機の状態をお知らせします。

❶	電源インジケーター	本機の状態をお知らせします。
❷	ステータスインジケーター	本機の状態をお知らせします。
❸	ランプインジケーター	ランプの状態をお知らせします。
❹	温度インジケーター	内部温度の状態をお知らせします。

インジケーター		状態	説明
電源	ステータス		
青 点灯	消灯	スタンバイ状態	本機に電源が供給されている状態です。この状態で【⏻】電源ボタンを押すと投写を開始します。
		ネットワーク監視状態	ネットワーク経由で、本機の監視と制御を行なっている状態です（[待機モード]を[通信オン]にしているとき）。この状態のときに電源コードの抜き差しをすると、電源インジケーターが青色に点滅します。
青 点灯	青 点滅	ウォームアップ状態	本機の電源を入れた直後の状態です。ランプ点灯後、約30秒間ウォームアップ状態になります。この状態のときは、【⏻】電源ボタンを押しても電源を切ることができません。

インジケーター		状態	説明
電源	ステータス		
青 点灯	青 点滅	クールダウン状態	本機の電源を切った直後の状態です。この状態のときは、すべてのボタン操作が無効になります。
青 点灯	青 点灯	通常状態	投写中の状態です。

インジケーターの状態とその対処方法については、次の表を参照してください。

インジケーターがすべて消灯している場合は、電源コードが正しく接続されていないか、または電気が十分に供給されていません。

電源コードを抜いても【⏻】電源インジケーターがしばらく点灯したままになることがありますが故障ではありません。

インジケーター				原因	処置または状態
電源	ステータス	ランプ	温度		
消灯	青 点滅	橙 点滅	消灯	内部異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☛『お問い合わせ先』
消灯	青 点滅	消灯	橙 点滅	ファン異常 センサー異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☛『お問い合わせ先』
消灯	青 点滅	消灯	橙 点灯	内部高温異常（オーバーヒート）	ランプが自動的に消灯し、投写できなくなります。約5分間は、そのままの状態で待ちます。約5分後、スタンバイ状態になりますので、次の2点を確認してください。 • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認します。 • エアフィルターが目詰まりしているときは、掃除または交換をします。 ☛「エアフィルターの掃除」p.128,「エアフィルターの交換」p.133 上記を確認後もエラーになるとき:ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☛『お問い合わせ先』
					標高1500m以上の場所でお使いのときは、［高地モード］を［オン］にしてください。 ☛「拡張設定メニュー」p.92

インジケーター				原因	処置または状態
電源	ステータス	ランプ	温度		
消灯	青 点滅	橙 点灯	消灯	ランプ異常 ランプ点灯失敗	次の2点を確認してください。 • ランプを取り出してランプが割れていないか確認します。 ☛「ランプの交換」p.130 • エアフィルターを掃除します。 ☛「エアフィルターの掃除」p.128
					割れていないとき：ランプを再セットして、電源プラグをコンセントに接続します。 **それでもエラーになるとき**：ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☛『お問い合わせ先』
					割れているとき：お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください(ランプを交換しないと映像を投写することはできません)。 ☛『お問い合わせ先』
					標高1500m以上の場所でお使いのときは、［高地モード］を［オン］にしてください。 ☛「拡張設定メニュー」p.92
				ランプカバー開放状態	ランプとランプカバーが確実に取り付けられているか確認してください。 ランプとランプカバーの取り付けが不完全なときはランプが点灯しません。 ☛「ランプの交換」p.130
消灯	青 点滅	橙 点滅	橙 点滅	オートアイリス異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☛『お問い合わせ先』
消灯	青 点滅	橙 点灯	橙 点灯	電源系異常	
青 点滅	状態依存	状態依存	橙 点滅	高温警告	(異常ではありません。ただし、さらに高温になると投写を自動停止します。) • エアフィルター・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認してください。 • エアフィルターが目詰まりしている場合は、掃除または交換をしてください。 ☛「エアフィルターの掃除」p.128,「エアフィルターの交換」p.133

インジケーター				原因	処置または状態
電源	ステータス	ランプ	温度		
青 点滅	状態依存	橙 点滅	状態依存	ランプ交換勧告	新しいランプに交換してください。 ☛「ランプの交換」p.130 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。すみやかに新しいランプと交換してください。

- インジケーターは異常を示してないのに、投写映像が異常のときは、以下をご覧ください。
  ☛「インジケーターを見てもわからないとき」p.116
- 各インジケーターがこの表にない状態のときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。
  ☛『お問い合わせ先』

インジケーターを見てもわからないとき

まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

映像に関するトラブル

• **映像が表示されない** 投写を開始しない・真っ黒の映像になる・青い映像になる	☛p.117
• **動画が表示されない** コンピューターで再生する動画が黒くなり映像が投写されない、コンピューターで動画が再生されない	☛p.118
• **自動的に投写が消える**	☛p.118
• **「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される**	☛p.118
• **「映像信号が入力されていません。」と表示される**	☛p.119
• **3D映像を視聴できない**	☛p.119
• **ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ**	☛p.120
• **ノイズが入る、乱れる**	☛p.120
• **映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクト比が合っていない、反転している** 映像の一部分しか投写されない、映像の縦横の比率が正しくない、映像の上下左右が反転している	☛p.121
• **色合いが違う** 全体が赤紫がかっている、緑色がかっている、モノクロになる、色がくすむ	☛p.122
• **暗い**	☛p.123

投写開始時のトラブル

• **電源が入らない**	☛p.123

その他のトラブル

• **音が出ない・小さすぎる**	☛p.124
• **音声にノイズが混ざる(USBディスプレイ投写時のみ)**	☛p.124
• **リモコンで操作できない**	☛p.125
• **メッセージやメニューの言語を変更したい**	☛p.125
• **プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない**	☛p.125
• **Webブラウザーを使って設定を変更できない**	☛p.126

映像に関するトラブル

映像が表示されない

確認	対処法
【⏻】電源ボタンを押しましたか？	【⏻】電源ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していませんか？	電源コードが正しく接続されていない、または電気が供給されていません。 本機に電源コードを正しく接続してください。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33 または、電気が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
A/Vミュートの状態になっていませんか？	リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押してA/Vミュートを解除します。 ☛「映像と音声を一時的に消す（A/Vミュート）」p.67
レンズカバーが閉じていませんか？	レンズカバーが少しでも閉じていると映像が表示されません。レンズカバーを完全に開けてください。 ☛「前面/上面」p.12
環境設定メニューの設定で間違っているものはありませんか？	全初期化してみてください。 ☛［初期化］-［全初期化］p.102 USBディスプレイを使うときは、［USB Type B］の設定を［USB Display］に設定してください。 ☛［拡張設定］-［USB Type B］p.92
入力映像そのものが真っ黒になっていませんか？ （コンピューター投写時のみ）	スクリーンセーバーなどで入力映像が真っ黒になっていることがあります。
映像の信号形式の設定は合っていますか？ （ビデオ機器投写時のみ）	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛［映像］-［ビデオ信号方式］p.89
USBケーブルが正しく接続されていますか？ （USBディスプレイ投写時のみ）	USBケーブルが正しく接続されているかを確認します。接続されていなかったり間違って接続されているときは、接続し直します。
Windows Media Centerを全画面表示にしていませんか？ （USBディスプレイ、ネットワーク接続時のみ）	Windows Media Centerを全画面で表示すると、USBディスプレイまたはネットワーク接続で投写できません。縮小画面表示にしてください。
WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションを表示していませんか？ （USBディスプレイ、ネットワーク接続時のみ）	WindowsのDirectX機能を使用するアプリケーションは、正しく表示されない可能性があります。

動画が表示されない

確認	対処法
コンピューター映像信号が外部と液晶画面の両方に出力されていませんか？ （ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ）	コンピューター側の映像信号を外部のみの出力に切り替えます。コンピューターに添付の取扱説明書、あるいはお使いのコンピューターのメーカーにお問い合わせください。
動画コンテンツが著作権保護されていませんか？	著作権保護された動画コンテンツをコンピューターで再生すると、プロジェクターから投写されないことがあります。詳しくはプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

自動的に投写が消える

確認	対処法
[スリープモード]、[レンズカバータイマー]、[A/Vミュートタイマー]を[オン]にしていませんか？	各設定を[オン]にしていると、以下のときに自動的に電源を切ります。 • [スリープモード]が[オン]：映像信号が未入力の状態で一定時間操作しなかったとき • [レンズカバータイマー]が[オン]：レンズカバーを閉めてから約30分経過したとき • [A/Vミュートタイマー]が[オン]：A/Vミュートを実行してから約30分経過したとき 自動的に電源を切れないようにしたいときは、各設定を[オフ]にしてください。 ☛「節電メニュー」p.101
コンピューターの省電力設定が有効になっていませんか？	コンピューターの省電力設定が有効のとき、一定時間コンピューターを操作しないと映像が消えることがあります。コンピューターを操作して映像を再表示してください。

「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？ （ビデオ機器投写時のみ）	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛ [映像] - [ビデオ信号方式] p.89
映像信号の解像度やリフレッシュレートが対応するモードですか？ （コンピューター投写時のみ）	コンピューターから出力されている映像信号の解像度・リフレッシュレートの変更は、コンピューターの取扱説明書などでご確認ください。 ☛「対応解像度一覧」p.139

「映像信号が入力されていません。」と表示される

確認	対処法
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33
接続した入力端子を正しく選択していますか？	リモコンか操作パネルの【入力検出】ボタンを押して映像を切り替えます。 ☛「入力信号を自動検出して切り替える（入力検出）」p.34
接続されたコンピューターやビデオ機器の電源は入っていますか？	それぞれの機器の電源を入れます。
プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ （ノートや液晶一体型タイプのコンピューター投写時のみ）	映像信号がコンピューターの液晶モニターや付属モニターにだけ出力されている場合は、外部にも出力するように切り替えてください。外部に映像信号を出力すると、液晶モニターや付属モニターに映像が出せないモデルもあります。 本機やコンピューターの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピューターの映像信号を外部に切り替えるFnキー(ファンクションキー)が働かないことがあります。本機およびコンピューターの電源を入れ直してください。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33 ☛ コンピューターの取扱説明書など
コンピューターの省電力設定が有効になっていませんか？	コンピューターの省電力設定が有効のとき、一定時間コンピューターを操作しないと映像が消えることがあります。コンピューターを操作して映像を再表示してください。

3D映像を視聴できない

確認	対処法
環境設定メニューが正しく表示されていますか？	• [3D表示]を[オン]に設定します。 • [3D方式設定]を[オート]または接続機器の3D信号と同じフォーマットに設定します。 ☛[映像]-[3D設定] p.89
入力信号が3D信号になっていますか？	接続している再生機器、再生しているコンテンツが3D信号に対応しているか確認してください。
3Dメガネを正しく装着していますか？	本機で3D映像を視聴するには、アクティブシャッター方式の3Dメガネが必要です。オプションのアクティブ3Dメガネ(ELPGS03)を準備してください。 ☛「オプション」p.136
3Dメガネの電源が入っていますか？	3Dメガネの電源を入れてください。また、はじめて電源を入れたときは、ペアリングを実行してください。 ☛「プロジェクターに3Dメガネを登録する（ペアリング）」p.54

確認	対処法
3D映像の視聴範囲で視聴していますか？	3D映像が視聴可能な範囲は、プロジェクターから10m以内です。視聴範囲で視聴してください。 ☛「3D映像の視聴範囲」p.57
電波干渉を引き起こす機器が周囲にありませんか？	他のBluetooth通信機器や無線LAN（IEEE802.11b/g）、電子レンジなどの周波数帯（2.4GHz）と同時に使用すると、電波干渉が発生し、映像が途切れたりすることがあります。本機をこれらの機器の近くで使用しないでください。

ぼやける、ピントが合わない、ゆがむ

確認	対処法
[自動タテ補正]を[オフ]に設定していませんか？	[オン]に設定すると自動タテ補正が機能します。 ☛ [設定]-[台形補正]-[タテヨコ]-[自動タテ補正] p.91 オフのまま使用する場合は、手動で投写映像を調整してください。 ☛「手動で補正する」p.41
ピントは正しく調整されていますか？	フォーカスリングでピントを合わせます。 ☛「ピントのズレを補正する」p.45
投写距離は最適ですか？	投写距離の推奨範囲を外れていませんか？ 推奨範囲内で設置してください。 ☛「スクリーンサイズと投写距離」p.137
台形補正の調整値を大きくしていませんか？	投写角度を小さくして台形補正の調整値を小さくしてください。 ☛「映像の高さを調整する」p.44
レンズが結露していませんか？	寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。お使いになる1時間くらい前に使用する部屋に本機を設置するようにします。結露してしまったときは、電源を切ってしばらくそのまま放置してください。

ノイズが入る、乱れる

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？ （ビデオ機器投写時のみ）	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛ [映像] - [ビデオ信号方式] p.89

確認	対処法
ケーブル類は正しく接続されていますか?	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ☛「接続する」p.24
ケーブルを延長していませんか?	ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。同梱のケーブルを接続して確認してください。
解像度の選択は正しいですか? (コンピューター投写時のみ)	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☛「対応解像度一覧」p.139 ☛ コンピューターの取扱説明書など
同期・トラッキングは正しく調整されていますか? (コンピューター投写時のみ)	リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【↵】ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれないときは、環境設定メニューから調整することもできます。 ☛[映像] - [トラッキング]、[同期] p.89
[レイヤードウィンドウの転送]にチェックマークが入っていませんか? (USBディスプレイ投写時のみ)	コンピューターで[すべてのプログラム] - [EPSON Projector] - [Epson USB Display] - [Epson USB Display Vx.xxの設定]の順にクリックして、[レイヤードウィンドウの転送]のチェックを外します。
マウスカーソルがちらつく(USBディスプレイ投写時のみ)	[デスクトップ画面のマウスカーソルをきれいにする]にチェックマークが入っていますか? コンピューターで[すべてのプログラム] - [EPSON Projector] - [Epson USB Display] - [Epson USB Display Vx.xxの設定]の順にクリックして、[デスクトップ画面のマウスカーソルをきれいにする]にチェックを入れます。(Windows 2000は対応していません。) Windows Vista/7の場合、チェックを入れるとWindows Aeroが無効になります。

映像が切れる(大きい)、小さい、アスペクトが合っていない、反転している

確認	対処法
ワイドパネルのコンピューター映像を投写していますか? (コンピューター投写時のみ)	接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 ☛[映像] - [入力解像度] p.89
Eズームで拡大したままになっていませんか?	リモコンの【戻る】ボタンを押してEズーム機能を解除します。 ☛「映像を部分的に拡大する(Eズーム)」p.68
表示位置は正しく調整されていますか?	リモコンの【自動調整】ボタンまたは操作パネルの【↵】ボタンを押して、表示位置を調整します。 表示位置は環境設定メニューからも調整できます。 ☛[映像] - [表示位置] p.89

確認	対処法
デュアルディスプレイの設定をしていませんか？ （コンピューター投写時のみ）	接続しているコンピューターのコントロールパネルの[画面のプロパティ]でデュアルディスプレイの設定をしていると、コンピューター画面の映像が半分くらいしか投写されません。コンピューター画面の映像をすべて投写するときは、デュアルディスプレイの設定を解除します。 ☛ コンピューターのビデオドライバーの取扱説明書
解像度の選択は正しいですか？ （コンピューター投写時のみ）	本機に対応する信号にコンピューターを合わせてください。 ☛「対応解像度一覧」p.139 ☛ コンピューターの取扱説明書など
設置モードは正しいですか？	設置状況に合わせて、設置モードを[フロント]、[フロント・天吊り]、[リア][リア・天吊り]から設定します。 ☛[拡張設定] - [設置モード] p.92 ☛「いろいろな設置方法」p.22

色合いが違う

確認	対処法
入力信号の設定が接続機器の信号と合っていますか？	以下のとおり接続している機器の信号に応じて適切な設定にします。 • コンピューター入力端子に接続した機器の映像のとき ☛［映像］-［入力信号方式］p.89 • ビデオ/S-ビデオ入力端子に接続した機器の映像のとき ☛［映像］-［ビデオ信号方式］p.89
映像の明るさは正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[明るさ]を調整してください。 ☛[画質調整] - [明るさ] p.88
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。 ケーブルが断線・接触不良を起こしていないか確認します。 ☛「接続する」p.24
コントラスト▸▸は正しく調整されていますか？	環境設定メニューの[コントラスト]を調整してください。 ☛[画質調整] - [コントラスト] p.88
適切なカラー調整に設定されていますか？	環境設定メニューの[カラー調整]を調整してください。 ☛[画質調整] - [カラー調整] p.88
色の濃さ、色合いは正しく調整されていますか？ （ビデオ機器投写時のみ）	環境設定メニューの[色の濃さ]、[色合い]を調整してください。 ☛[画質調整] - [色の濃さ]、[色合い] p.88

暗い

確認	対処法
映像の明るさは正しく設定されていますか？	環境設定メニューから［明るさ］や［明るさ切替］を設定してください。 ☛［画質調整］-［明るさ］p.88 ☛［節電］-［明るさ切替］p.101
コントラストは正しく調整されていますか？	環境設定メニューから［コントラスト］を調整してください。 ☛［画質調整］-［コントラスト］p.88
ランプの交換時期ではありませんか？	ランプの交換時期が近づくと映像が暗くなったり、色合いが悪くなります。新しいランプと交換してください。 ☛「ランプの交換」p.130
高地や高温な場所で本機を使っていませんか？	高地や高温な場所でお使いのときは、画面が暗くなることがあります。このときは、［明るさ切替］の設定ができませんが、そのまま使い続けて問題ありません。
投写距離の推奨範囲を外れていませんか？	投写距離を長くすると、映像が暗くなります。推奨範囲内に設置してください。 ☛「スクリーンサイズと投写距離」p.137

投写開始時のトラブル

電源が入らない

確認	対処法
【⏻】電源ボタンを押しましたか？	【⏻】電源ボタンを押して電源を入れます。
インジケーターがすべて消灯していませんか？	電源コードが正しく接続されていない、または電気が十分に供給されていません。 電源コードを抜いて差し直してください。 ☛「設置から投写までの流れ」p.33 または、電気が供給されるようにブレーカーなどを確認してください。
電源コードを触ると、インジケーターが点いたり消えたりしませんか？	電源コードが接触不良を起こしているか、電源コードが故障している可能性があります。電源コードを差し直してください。それでも直らないときは、ご使用をやめ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。 ☛『お問い合わせ先』

確認	対処法
[操作ボタンロック]が[全ロック]になっていませんか？	リモコンの【⏻】電源ボタンを押します。[操作ボタンロック]を働かせないときは設定を[オフ]にしてください。 ☛ [設定] - [操作ボタンロック] p.91
リモコンからの操作が制限されていませんか？	環境設定メニューの[リモコン受光部]の設定を確認してください。 ☛ [設定] - [リモコン受光部] p.91

その他のトラブル

音が出ない・小さすぎる

確認	対処法
オーディオケーブルは正しく接続されていますか？	音声入力端子からケーブルを抜いて差し直してください。
本機または接続している機器の音量が最小になっていませんか？	聞こえる音量に調整してください。 ☛ [設定]-[音量] p.91 ☛「音量を調整する」p.45
A/Vミュートの状態になっていませんか？	リモコンの【A/Vミュート】ボタンを押してA/Vミュートを解除します。 ☛「映像と音声を一時的に消す（A/Vミュート）」p.67
オーディオケーブルの仕様は「抵抗なし」となっていますか？	市販のオーディオケーブルを使う場合は「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。
HDMIケーブルで接続していますか？	HDMIケーブルで接続していて音声が出ないときは、接続先の機器の設定をPCM出力にしてください。
[音声をプロジェクターで出力する]にチェックマークが入っていますか？ （USBディスプレイ投写時のみ）	コンピューターで[すべてのプログラム] - [EPSON Projector] - [Epson USB Display] - [Epson USB Display Vx.xxの設定]で、[音声をプロジェクターで出力する]にチェックを入れます。

音声にノイズが混ざる（USBディスプレイ投写時のみ）

確認	対処法
コンピューターの音量を最小、プロジェクターの音量を最大に設定していませんか？	コンピューターの音量を最小、プロジェクターの音量を最大に設定していると、ノイズが混ざることがあります。コンピューターの音量は大きく、プロジェクターの音量は小さく設定してください。

リモコンで操作できない

確認	対処法
リモコンの発光部を本機のリモコン受光部に向けて操作していますか？	リモコン受光部に向かって操作してください。 ☛「リモコンの操作可能範囲」p.20
本機から離れすぎていませんか？	操作可能距離は、約6mです。 ☛「リモコンの操作可能範囲」p.20
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていませんか？	強い光などがリモコン受光部に当たる場所を避けて設置してください。 ☛［設定］-［リモコン受光部］p.91
［リモコン受光部］の設定は正しいですか？	環境設定メニューの［リモコン受光部］の設定を確認してください。 ☛［設定］-［リモコン受光部］p.91
乾電池が消耗していたり、乾電池の向きを間違えてセットしていませんか？	新しい乾電池を正しい向きにセットします。 ☛「リモコンの電池交換」p.19

メッセージやメニューの言語を変更したい

確認	対処法
言語の設定を変更します。	環境設定メニューの言語で目的の言語を選択してください。 ☛［拡張設定］-［言語］p.92

プロジェクターに異常が起きてもメール通知されない

確認	対処法
［待機モード］を［通信オン］に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの［待機モード］を［通信オン］に設定します。 ☛［節電］-［待機モード］p.101
致命的な異常が発生し、本機が瞬時に起動停止状態になっていませんか？	瞬時に起動停止したときはメール送信できません。 本機を確認しても異常状態が復帰しないときは、お買い上げの販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先に修理を依頼してください。 ☛『お問い合わせ先』

確認	対処法
本機に電源が供給されていますか？	本機が設置されている地域が停電になっていたり、本機の電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。
環境設定メニューでメール通知機能が正しく設定されていますか？	異常通知のメールは環境設定メニューの[メール]の設定に従って発信されます。正しく設定されているか確認してください。 ☛「メールメニュー」p.99

Webブラウザーを使って設定を変更できない

確認	対処法
ユーザーID、パスワードは正しいですか？	ユーザーIDには「EPSONWEB」を入力します。変更はできません。パスワードの設定が無効でも、ユーザーIDを入力します。パスワードは、Web制御パスワードで設定した文字を入力します。パスワードの初期設定は「admin」です。

メンテナンス

ここでは、メンテナンス方法など、本機を今後も長くお使いいただくための補足的な知識について説明しています。

本機が汚れたり、映像の映りが悪くなったら掃除をしてください。

 注意

掃除をするときは、本機の電源をオフにしてから行ってください。感電の原因となることがあります。

本機の掃除

本機の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。

注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。ケースが変質、変色することがあります。

レンズの掃除

レンズの汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。

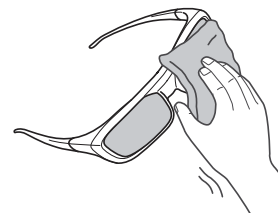
 警告

レンズに付着したゴミ・ホコリの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。本機内部ではランプが高温になっているため、引火による火災の原因となります。

注意

レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

3Dメガネの掃除

メガネレンズの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。

注意

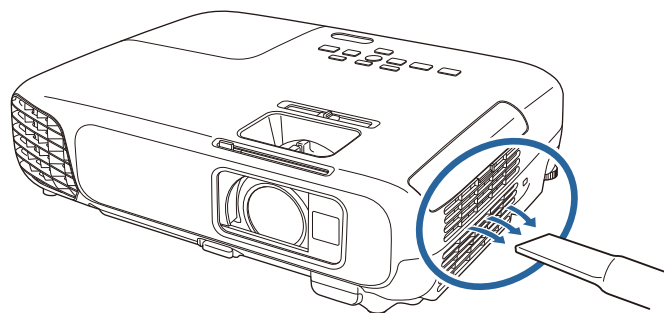
- メガネレンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、乱暴に扱ったりしないでください。
- お手入れの際は、USB充電AC電源アダプターをコンセントから抜き、すべてのケーブルを外してください。

エアフィルターの掃除

下記のメッセージが表示されたらエアフィルターや吸気口の掃除をしてください。

「内部温度が上昇しています。吸排気口付近の障害物を取り除き、エアフィルターの掃除、または交換をしてください。」

注意

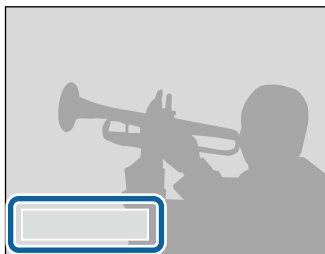
- エアフィルターにホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。メッセージが表示されたらすみやかにエアフィルターを掃除してください。
- エアフィルターは水洗いできません。洗剤や溶剤も使わないでください。

- 掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるときは交換時期です。新しいエアフィルターに交換してください。
  ☛「エアフィルターの交換」p.133
- 約3ヶ月に一度は掃除を行うことをお奨めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除を行ってください。

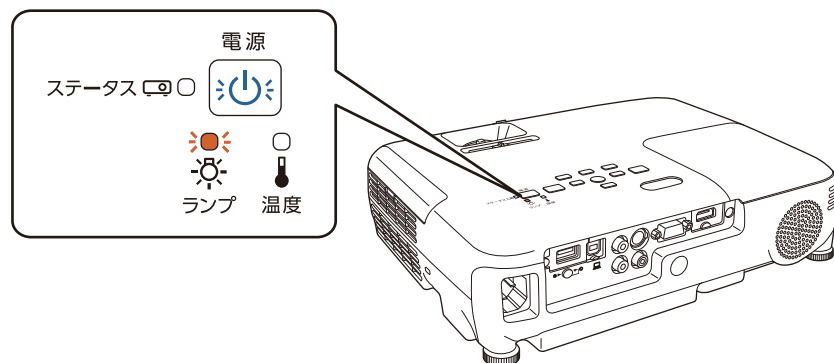
ここでは、ランプ、エアフィルターの交換方法について説明します。

ランプの交換

ランプの交換時期

次の場合は、ランプを交換してください。

- 以下のメッセージが表示されたとき
  「ランプの交換時期です。交換用ランプの情報につきましては取扱販売店にお問い合わせいただくか、www.epson.jpをご覧ください。」

  メッセージは30秒経過すると消えます。

- 電源インジケーターが青色に点滅、かつランプインジケーターが橙色に点滅したとき

- 初期に比べ、明るさや画質が落ちたとき

注意

- 交換メッセージは、初期の明るさや画質を維持するため、次の時間で表示されます。
  ［明るさ切替］：［高］で使い続けた場合：約4900時間
  ［明るさ切替］：［低］で使い続けた場合：約5900時間
  ☛［節電］-［明るさ切替］ p.101
- 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換のメッセージが表示されたら、まだランプが点灯する状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 電源オフ直後に電源をオンにする操作を繰り返さないでください。頻繁に電源オフ/オンを繰り返すと、ランプ寿命が短くなるおそれがあります。
- 個々のランプの特性や使用条件などで、メッセージが表示される前に暗くなったり、点灯しなくなるものがあります。交換用ランプをあらかじめ準備しておくことをお奨めします。
- プロジェクターの性能を十分に発揮するために、エプソン純正品の交換用ランプをお使いください。純正品以外のランプを使用すると、プロジェクター本体に品質面、安全面で悪影響を及ぼす可能性があります。純正品以外のランプを使用して生じた本体の損傷、故障については、保証期間内でも有償修理となります。

ランプの交換方法

本機は天吊り設置したままでもランプの交換ができます。

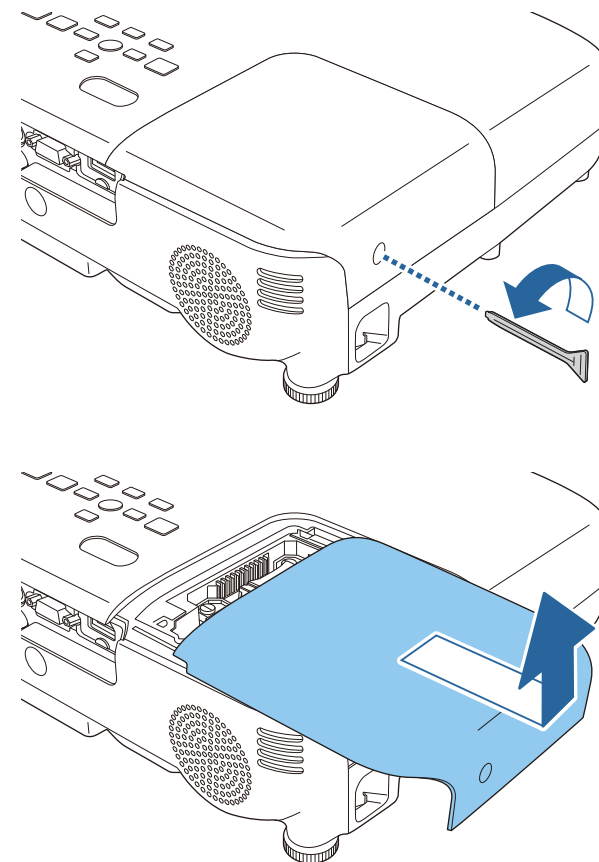
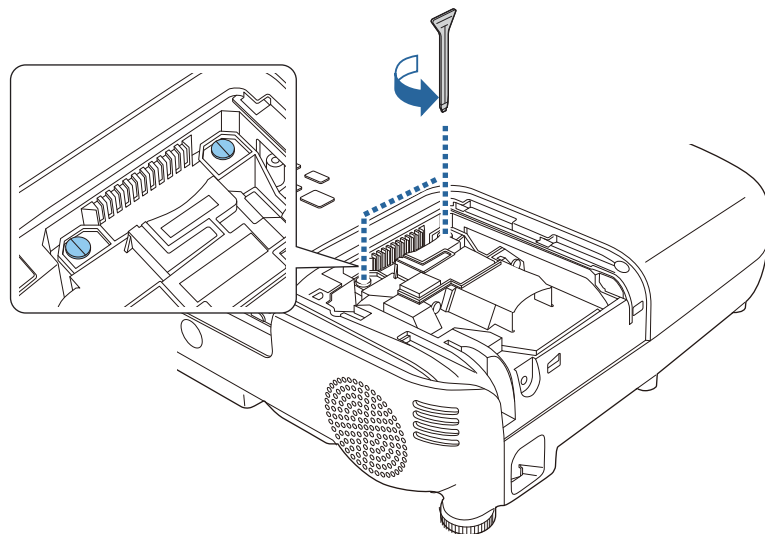
 警告

- ランプが点灯しなくなり交換するときは、ランプが割れている可能性があります。本機を天吊り設置していてランプ交換を行うときは、ランプが割れていることを想定しランプカバーの真下に立たずに横から作業してください。また、ランプカバーをそっと取り外してください。ランプカバーを取り外す際に細かいガラス破片が落ちてくる可能性があり、けがの原因となります。万一、目や口にガラス破片が入ったときは、直ちに医師の診察を受けてください。
- ランプの分解•改造は、絶対にしないでください。分解•改造したランプをセットして本機を使用すると、火災•感電•事故の原因となります。

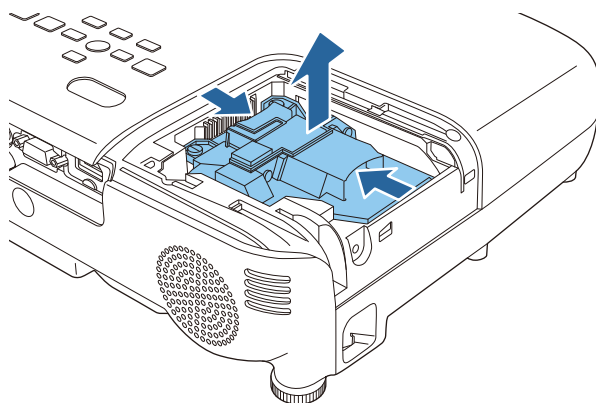
 注意

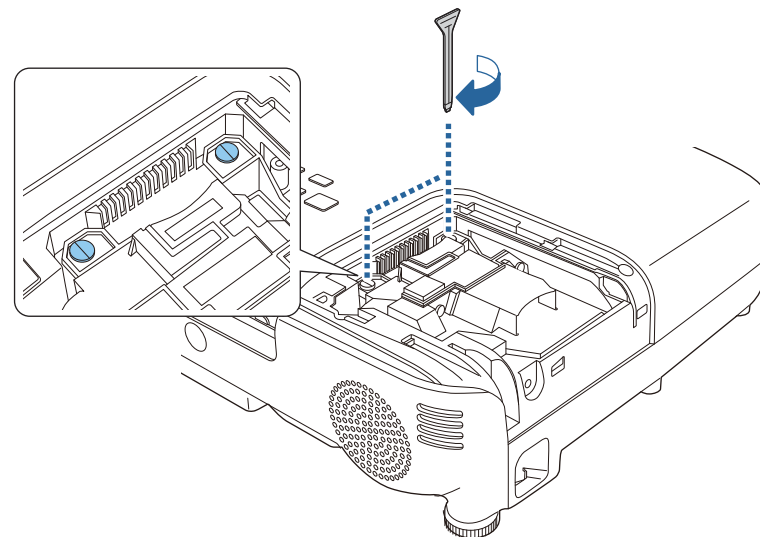
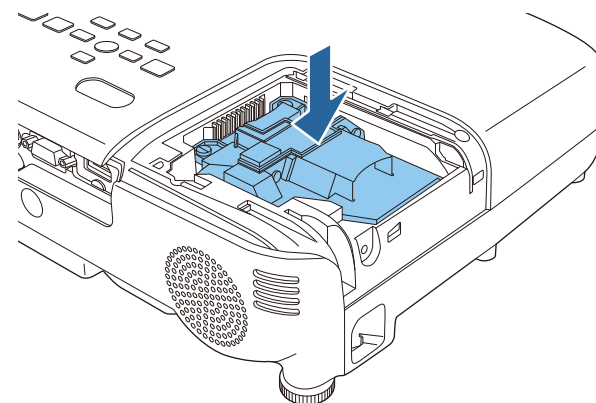
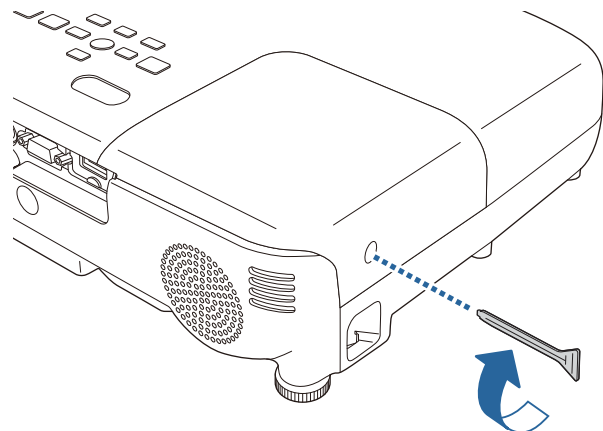
ランプが十分冷えてからランプカバーを外してください。熱で、やけど・けがの原因となることがあります。ランプが十分冷えるには、電源を切ってから約1時間必要です。

1. **本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源コードを外します。**
2. **ランプが十分冷えてから、本機上面のランプカバーを外します。**
   ランプカバーの固定ネジを交換用ランプに同梱のドライバー、または+のドライバーでゆるめます。ランプカバーをまっすぐスライドさせて、持ち上げて外します。

3. **ランプ固定ネジ2本をゆるめます。**

4 **古いランプの突起部をつまんで取り出します。**

ランプが割れているときは、お買い上げの販売店または「お問い合わせ先」に記載の連絡先にご相談ください。

☛『お問い合わせ先』

5 **新しいランプを取り付けます。**

ランプを収納部の形に合う向きでガイドレールに沿って入れ、しっかりと押し込み、ランプ固定ネジ2本を締めます。

6 ランプカバーを取り付けます。

注意

- ランプは確実に取り付けてください。本機は安全のため、ランプカバーを外すと自動的にランプが消灯します。ランプやランプカバーの取り付けが不十分だと点灯しません。
- ランプには水銀が含まれています。使用済みのランプは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。

ランプ点灯時間の初期化

本機はランプ点灯時間を記憶し、累計が交換時間に達するとメッセージやインジケーターでお知らせします。ランプ交換を実施した後は、初期化メニューでランプ点灯時間の累計を初期化してください。

☛［初期化］-［ランプ点灯時間初期化］p.102

ランプ点灯時間の初期化は、ランプを交換したとき以外は行わないでください。ランプの交換時期が正しく表示されなくなります。

エアフィルターの交換

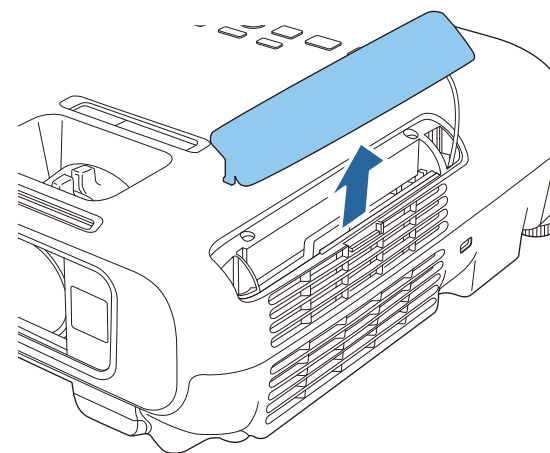
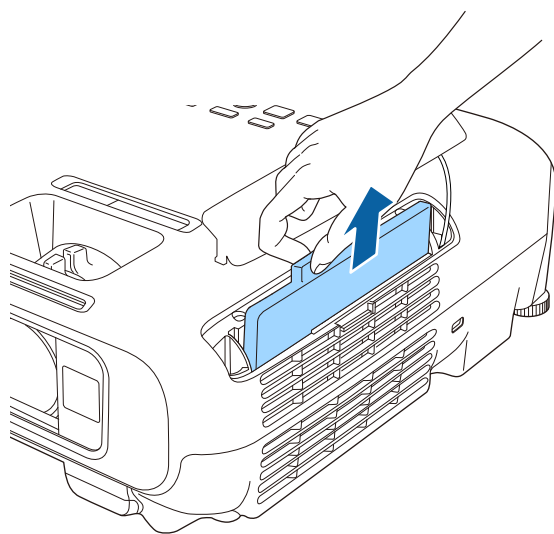
エアフィルターの交換時期

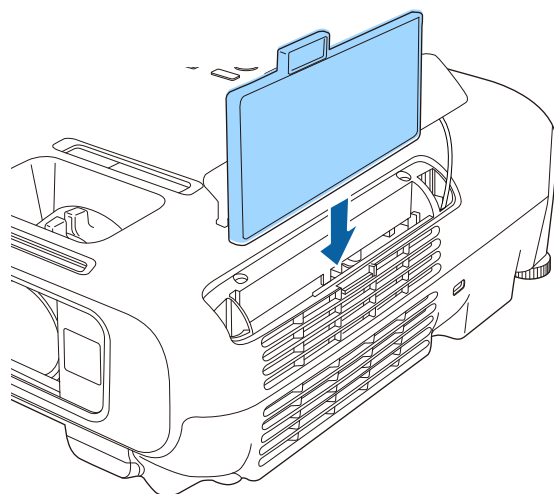
エアフィルターの掃除をしても頻繁にメッセージが表示されるときは、エアフィルターを交換してください。

エアフィルターの交換方法

本機は天吊り設置したままでもエアフィルターの交換ができます。

1 本機の電源を切り、「ピッピッ」と終了音が鳴ってから電源コードを外します。

2 エアフィルターカバーを開けます。

3 エアフィルターを取り外します。
エアフィルターのタブに指をかけて、まっすぐ引き出します。

4 **新しいエアフィルターを取り付けます。**

外側からエアフィルターをスライドさせて差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。

5 **エアフィルターカバーを閉めます。**

使用済みのエアフィルターは、地域の廃棄ルールに従って廃棄してください。会社等でお使いのときは、会社の廃棄ルールに従ってください。
フィルター枠：ABS
フィルター：ポリウレタンフォーム

付録

下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。これらのオプション類は2014年5月現在のものです。予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

オプション

アクティブ3Dメガネ　ELPGS03
アクティブシャッター方式(Bluetooth通信)の3Dメガネです。本機で3D映像を視聴するときに使います。

USB充電AC電源アダプター　ELPAC01
3Dメガネを充電するときに使います。

インタラクティブユニット　ELPIU02
投写面上でコンピューター画面の操作をするときに使います。

無線LANユニット　ELPAP07
本機とコンピューターを無線で接続して投写するときに使います。

クイックワイヤレス用USBキー　ELPAP09
本機とWindows搭載のコンピューターを1対1で即接続して投写するときに使います。

書画カメラ　ELPDC06/ELPDC11/ELPDC12/ELPDC20
書籍やOHP原稿、スライドを投写するときなどに使います。

携帯スクリーン(50型)　ELPSC32
持ち運びに便利なコンパクトスクリーンです。(アスペクト比4:3)

60型スクリーン　ELPSC27
80型スクリーン　ELPSC28
100型スクリーン　ELPSC29
携帯型ロールスクリーンです。(アスペクト比4:3)

70型スクリーン　ELPSC23
80型スクリーン　ELPSC24
90型スクリーン　ELPSC25
携帯型ロールスクリーンです。(アスペクト比16:10)

53型スクリーン　ELPSC30
64型スクリーン　ELPSC31
携帯型マグネットスクリーンです。(アスペクト比4:3)

コンピューターケーブル　ELPKC02
(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用1.8m)

コンピューターケーブル　ELPKC09
(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 3m)
コンピューターケーブル　ELPKC10
(ミニD-Sub 15pin/ミニD-Sub 15pin用 20m)

D端子ケーブル　ELPKC22
(ミニD-Sub 15pin/D端子用 3m)
映像機器のD端子と接続するときに使います。

コンポーネントビデオケーブル　ELPKC19
(ミニD-Sub 15pin/RCAオス×3用 3m)
コンポーネントビデオを投写するときに使います。

パイプ450(450mm)※　ELPFP13
パイプ700(700mm)※　ELPFP14
高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。

天吊り金具※　ELPMB23
本機を天井に取り付けるときに使います。

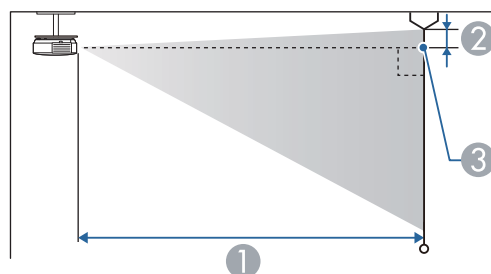
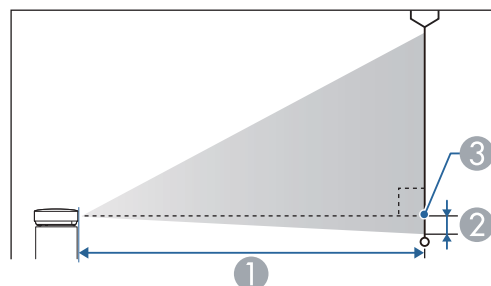
※ 天吊り設置には特別な技術が必要となります。お買い求めいただいた販売店またはお問い合わせ先に記載の連絡先にご相談ください。

☛『お問い合わせ先』

消耗品

交換用ランプ　ELPLP78
使用済みランプと交換します。

エアフィルター　ELPAF32
使用済みエアフィルターと交換します。

投写距離表

❶ 投写距離
❷ レンズ中心からスクリーン下端
（天吊りの場合はスクリーン上端）までの高さ
❸ レンズ中心

単位：cm

4:3スクリーンサイズ		❶ 最短（ワイド）～最長（テレ）	❷
30型	61x46	94 ~ 113	-4
40型	81x61	126 ~ 152	-5
50型	100x76	158 ~ 190	-7
60型	120x91	190 ~ 229	-8
70型	142x107	222 ~ 267	-10
80型	160x120	255 ~ 306	-11
100型	200x150	319 ~ 383	-14
150型	300x230	480 ~ 577	-20
200型	410x300	641 ~ 770	-27
280型	570x430	898 ~ 1079	-38

単位：cm

16:9スクリーンサイズ		❶ 最短（ワイド）～最長（テレ）	❷
35型	78x44	99 ~ 120	-2
40型	89x50	114 ~ 137	-2
50型	110x62	143 ~ 172	-3
60型	130x75	172 ~ 208	-3
70型	155x87	202 ~ 243	-4
80型	180x100	231 ~ 278	-4
100型	220x120	289 ~ 348	-5
150型	330x190	435 ~ 523	-8
200型	440x250	582 ~ 699	-11
310型	690x390	903 ~ 1084	-17

単位：cm

16:10スクリーンサイズ		❶ 最短（ワイド）～最長（テレ）	❷
35型	76x47	97 ~ 117	-4

16:10スクリーンサイズ		❶ 最短(ワイド)〜最長(テレ)	❷
40型	86x54	111 ~ 134	-5
50型	110x67	139 ~ 168	-6
60型	130x81	168 ~ 202	-7
80型	170x110	225 ~ 270	-10
100型	220x130	281 ~ 338	-12
150型	320x200	424 ~ 509	-18
200型	430x270	566 ~ 680	-24
320型	690x430	907 ~ 1089	-39

対応解像度

コンピューター映像(アナログRGB)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60/72/75/85	640x480
SVGA	56/60/72/75/85	800x600
XGA	60/70/75/85	1024x768
WXGA	60	1280x768
	60	1366x768
	60/75/85	1280x800
WXGA+	60/75/85	1440x900
WXGA++	60	1600x900
SXGA	70/75/85	1152x864
	60/75/85	1280x1024
	60/75/85	1280x960
SXGA+	60/75	1400x1050
WSXGA+※	60	1680x1050
UXGA	60	1600x1200
MAC13"	67	640x480
MAC16"	75	832x624
MAC19"	75	1024x768
	59	1024x768
MAC21"	75	1152x870

※ 環境設定メニューの[入力解像度]で[ワイド]を選択しているときに限り対応します。

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写できることがあります。 ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

コンポーネントビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SDTV(480i)	60	720x480
SDTV(576i)	50	720x576
SDTV(480p)	60	720x480
SDTV(576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080

コンポジットビデオ

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
TV(NTSC)	60	720x480
TV(SECAM)	50	720x576
TV(PAL)	50/60	720x576

HDMI入力信号

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60	640x480
SVGA	60	800x600
XGA	60	1024x768
WXGA	60	1280x800
	60	1366x768
WXGA+	60	1440x900
WXGA++	60	1600x900
SXGA	60	1280x960
	60	1280x1024

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
SXGA+	60	1400x1050
UXGA	60	1600x1200
WSXGA+	60	1680x1050
SDTV(480i/480p)	60	720x480
SDTV(576i/576p)	50	720x576
HDTV(720p)	50/60	1280x720
HDTV(1080i)	50/60	1920x1080
HDTV(1080p)	24/30/50/60	1920x1080

MHL入力信号

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)
VGA	60	640x480
SDTV(480i/480p)	60	720 x 480
SDTV(576i/576p)	50	720 x 576
HDTV(720p)	50/60	1280 x 720
HDTV(1080i)	50/60	1920 x 1080
HDTV(1080p)	24/30	1920 x 1080

3D入力信号(HDMI)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)	フレームパッキング	サイドバイサイド	トップアンドボトム
HDTV750p(720p)	50/60	1280x720	✓	✓	✓
HDTV1125i(1080i)	50/60	1920x1080	-	✓	-
HDTV1125p(1080p)	50/60	1920x1080	-	✓	-
HDTV1125p(1080p)	24	1920x1080	✓	✓	✓

3D入力信号(MHL)

信号	リフレッシュレート(Hz)	解像度(ドット)	フレームパッキング	サイドバイサイド	トップアンドボトム
HDTV750p(720p)	50/60	1280x720	-	✓	✓
HDTV1125i(1080i)	50/60	1920x1080	-	✓	-
HDTV1125p(1080p)	50/60	1920x1080	-	-	-
HDTV1125p(1080p)	24	1920x1080	-	✓	✓

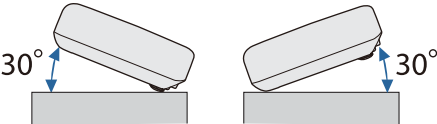
本機仕様

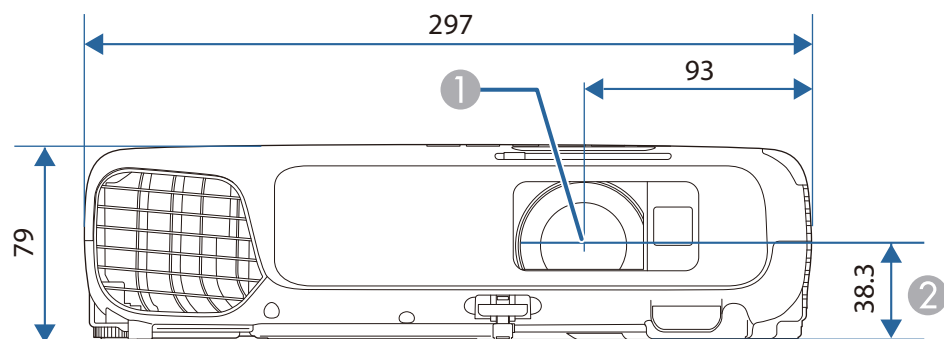
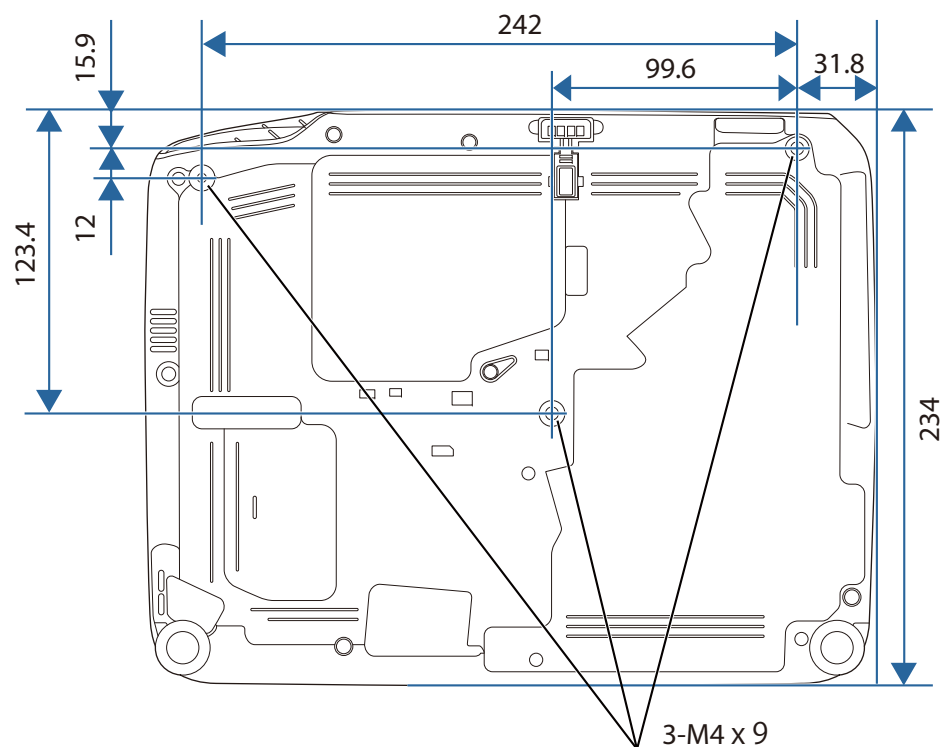
商品名		EH-TW530
外形サイズ		幅297x高さ79x奥行き234mm
液晶パネルサイズ		0.59型
表示方式		ポリシリコンTFT アクティブマトリクス
画素数		1,024,000個 WXGA（横1280x縦800ドット）x3
フォーカス調整		手動
ズーム調整		手動（1-1.2）
ランプ		UHEランプ 定格200W 型番：ELPLP78
音声最大出力		2W
スピーカー		1個
電源		100-240V AC±10% ,50/60Hz 2.9-1.3A
消費電力	100-120Vエリア	定格消費電力：283W 待機時消費電力（通信オン）：2.9W 待機時消費電力（通信オフ）：0.24W
	220-240Vエリア	定格消費電力：270W 待機時消費電力（通信オン）：3.0W 待機時消費電力（通信オフ）：0.28W
動作高度		標高　0～3000m
動作温度範囲		+5～+35℃（結露しないこと）（標高　0～2286m） +5～+30℃（結露しないこと）（標高　2287～3000m）
保存温度範囲		-10～+60℃（結露しないこと）
質量		約2.4kg

接続端子	コンピューター入力端子	1系統	ミニD-Sub 15pin(メス)
	ビデオ入力端子	1系統	RCAピンジャック
	S-ビデオ入力端子	1系統	ミニDIN 4pin
	音声入力端子	1系統	RCAピンジャックx2
	音声出力端子	1系統	ステレオミニピンジャック(3.5Φ)
	HDMI/MHL入力端子	1系統	HDMI(音声はPCMにのみ対応)
	USB-A端子※1	1系統	USBコネクター(Aタイプ)
	USB-B端子※1,2	1系統	USBコネクター(Bタイプ)

※1 USB2.0に対応しています。ただし、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。

※2 USB1.1には対応していません。

傾斜角度

30°以上傾けてお使いになると、故障や事故の原因となります。

単位：mm

❶ レンズ中心
❷ レンズ中心から天吊り固定部までの寸法

本書で使用している用語で、本文中に説明がないものや難しいものを簡単に説明します。 詳細は市販の書籍などでご確認ください。

DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、IPアドレスを自動的に割り当てるプロトコルのことです。
HDCP	High-bandwidth Digital Content Protectionの略でDVIやHDMI端子を経由して送受信するデジタル信号を暗号化し、不正なコピーを防止する著作権保護技術です。本機のHDMI/MHL入力端子はHDCPに対応しているためHDCP技術で保護されたデジタル映像を投写できます。ただし、HDCPの規格変更等が行われたときは、変更後の規格で保護されたデジタル映像を投写できなくなる場合があります。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 • 垂直解像度720p、1080i以上(pはプログレッシブ走査、iはインターレース走査) • 画面のアスペクト比は16:9
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピューターを識別するための数字のことです。
MHL	Mobile High-definition Linkの略で、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末をターゲットにした接続インターフェースの規格です。 デジタル信号を圧縮せず高品質のまま高速で伝送し、端末への電源供給も行います。
S-ビデオ	映像信号を輝度信号(Y)や色信号(C)に分離して伝送する方式です。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビ放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいてルーターやコンピューター、端末などネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピューターのオペレーティングシステム(OS)やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。 接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定します。
SSID	SSIDは、無線LANの環境で相手と接続するための識別データです。SSIDが一致している機器どうしで無線通信できます。
SVGA	画面サイズの規格で横800ドットx縦600ドットのものを呼びます。
SXGA	画面サイズの規格で横1,280ドットx縦1,024ドットのものを呼びます。
VGA	画面サイズの規格で横640ドットx縦480ドットのものを呼びます。
XGA	画面サイズの規格で横1,024ドットx縦768ドットのものを呼びます。
アスペクト比	画面の横と縦の比率をいいます。 横:縦の比率が16:9の、HDTVなどの画面をワイド画面といいます。 SDTVや、一般的なコンピューターのディスプレイのアスペクト比は4:3です。
アドホックモード	無線LANの通信方式の一つで、アクセスポイントを経由せずに機器同士が直接通信を行なう方式です。
インターレース	1つの画面を作り出す情報を上から下へ1つ飛ばしに伝送します。1フレームの表示が1ラインおきとなるため、ちらつき(フリッカー)が出やすくなります。

インフラストラクチャモード	無線LANの通信方式の一つで、各機器がアクセスポイントを経由して通信を行います。
ゲートウェイアドレス	サブネットマスクによって分割したネットワーク(サブネット)を超えて通信するためのサーバー(ルーター)のことです。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がハッキリ見えたり、ソフトに見えたりすることです。 この調整をコントラストの調整といいます。
コンポーネントビデオ	映像信号を、輝度信号(Y)や青色差信号(CbまたはPb)と赤色差信号(CrまたはPr)に分離して伝送する方式です。
コンポジットビデオ	映像信号の輝度信号や色信号を、1本のケーブルで伝送する方式です。
サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク(サブネット)のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
同期	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。 その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。 信号の位相(山のずれ)を合わせることを同期を合わせるといいます。 同期が合っていないと映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
トラッキング	コンピューターから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。 その周波数に本機の周波数を合わせないときれいな映像になりません。 信号の周波数(山の数)を合わせることをトラッキングを合わせるといいます。 トラッキングが合っていないと映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピューターのIPアドレスのことです。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を一度で映し出して1フレーム分の映像を表示します。そのため走査線の本数が同じでもインターレースと比べて時間あたりの情報量が2倍になるためちらつきが少ない映像になります。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ(Hz)で表します。

ご注意

(1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
(2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
(4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
(5) 本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者(「お問い合わせ先」参照)以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
(6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品、交換部品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
(7) 本書中のイラストや画面図は実際と異なる場合があります。

使用限定について

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で当社製品をご使用いただくようお願いいたします。本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、医療機器など、極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途には本製品の適合性をお客様において十分ご確認のうえ、ご判断ください。

本機を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源コードは販売国の電源仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外でお使いになるときは、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源コードを現地にてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。 電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

表記について

Microsoft® Windows® 2000 operating system
Microsoft® Windows® XP operating system
Microsoft® Windows Vista® operating system
Microsoft® Windows® 7 operating system
Microsoft® Windows® 8 operating system
Microsoft® Windows® 8.1 operating system

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Windows 2000」、「Windows XP」、「Windows Vista」、「Windows 7」、「Windows 8」、「Windows 8.1」と表記しています。また、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、Windows 8.1を総称する場合はWindows、複数のWindowsを併記する場合はWindows 2000/XP/Vistaのように、Windowsの表記を省略することがあります。

Mac OS X 10.3.x
Mac OS X 10.4.x
Mac OS X 10.5.x
Mac OS X 10.6.x
OS X 10.7.x
OS X 10.8.x
OS X 10.9.x

本書中では、上記各オペレーティングシステムをそれぞれ、「Mac OS X 10.3.9」、「Mac OS X 10.4.x」、「Mac OS X 10.5.x」、「Mac OS X 10.6.x」、「OS X 10.7.x」、「OS X 10.8.x」、「OS X 10.9.x」と表記しています。またこれらを総称する場合は「Mac OS」と表記します。

商標について

EPSONおよびELPLPはセイコーエプソン株式会社の商標または登録商標です。

Mac、Mac OS、OS Xは、Apple Inc.の商標です。

App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。

Google playは、Google Inc.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、PowerPoint、Windows ロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

WPA™、WPA2™はWi-Fi Allienceの登録商標です。

HDMIとHigh-Definition Multimedia InterfaceはHDMI LicensingLLCの商標、または登録商標です。

MHLとMHLのロゴ、及びMobile High-Definition Linkは、米国およびその他の国におけるMHL、LLCの商標または登録商標です。

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

数字・アルファベット

ア

カ

サ

タ